

第 3 章 境港市の現状と課題

1 境港市の現状と課題の要約一覧

1) 概況

- ☆人口減少と高齢化が進んでいる。
- ☆平成 26 年と比較し、平均寿命と健康寿命（本市は平均自立期間（要介護度をもとにした鳥取県の健康寿命）を使用する）は、男女ともに上昇している。
- ☆約半数が「がん」「心疾患」「脳血管疾患」で亡くなっている。
- ☆標準化死亡比では、経年でみると男女ともに「脳血管疾患」が高い傾向にあり、男性では「自死」が高い傾向にある。
- ☆国保疾病中分類により被保険者一人当たり医療費をみると、入院では「統合失調症、統合失調型障害及び妄想性疾患」「その他悪性新生物」「骨折」が、外来では「腎不全」「糖尿病」「脂質異常症」が多くなっている。
- ☆介護・介助が必要となった原因で多いのは、虚弱に次いで、骨折・転倒が多い。
- ☆要介護認定者の有病状況は、心臓病が最多で、次いで筋・骨格疾患、高血圧症が多くなっている。

2) 分野別の健康実態

(1) 食生活・栄養

- ☆朝食を食べる割合は、前回調査に比べて幼児期はほぼ同じだが、小学 5 年生、中学 2 年生では減少している。また、成人期では、18～29 歳女性と 40 代男性で朝食を食べる割合が低くなっている。
- ☆栄養バランスについて気をつけている割合は、前回調査に比べて幼児期では減少している。成人期では「1 日 2 食以上、主食・主菜・副菜の揃った食事をする人」の割合は半数であり、県に比べて低く、特に女性が低くなっている。
- ☆野菜摂取量が、全ての世代において目標量の 350g に達しておらず、年齢が若いほど摂取量が少なくなっている。
- ☆食品を購入する際や料理を行う時に、塩分控えめを意識している人の割合は、年齢が上がるにつれて増加している。
- ☆地域の産物や旬の食材について、知っている人、意識して選んでいる人の総数は県より高く、特に 18 歳～20 代では大きな差がでている。

(2) 運動・身体活動

- ☆県と比較し、小学生、中学生の柔軟性を示す「長座体前屈」が低い傾向にある。
- ☆運動不足と感じている人の割合が、平成 29 年と比較し減少したが、50、60、70 代は増加している。
- ☆意識的に運動を心がけている人の割合が、男性は上昇したが女性は減少した。
- ☆定期的に運動する人の割合が、男性の全ての年代で、県と比較し高いが、男女ともに 50 代が低くなっている。

(3) こころ・休養

☆30～70代の男性に、自死で亡くなる人が多い傾向がある。

☆自立支援医療の申請者が増加しており、中でもうつ病の占める割合は大きくなっている。

☆妊娠中に心の病気（歴含む）がある人は、5年前より上昇している。

☆1日に2時間以上メディアを見る幼児は増加している。

☆平日23時以降に寝る児童の割合が増加し、「朝眠くて起きられない」と回答した児童の割合が増加している。

☆睡眠で休養がまったくとれていない人、成人期に適切な睡眠時間（6時間以上8時間未満）が確保できていない人の割合は40代が多くなっている。

☆ストレスを感じている人は50代が多く、ストレスを解消できていない人は、30代が多くなっている。

☆自分の気持ちを聞いてくれる人がいない人は40～60代男性、相談先を知らない人は、50～60代男性が多くなっている。

☆児童の自己肯定感や自己役立感は県平均を上回っており、自分の悩みを話せる人がいると、自己肯定感や役立ち感が強い傾向にある。

☆うつ病についてよく知っている人は、県よりも高い割合となっているが、平成29年より減少。7割以上の人が、ゲートキーパーについて、言葉も意味も知らないと回答している。

(4) 飲酒・喫煙

☆妊娠中の飲酒者の割合は県より高い傾向にある。30代を除いて一時多量飲酒の割合が高く、正しい適正量を認識している人が約半数と減少傾向にある。

☆妊婦の喫煙率は減少。妊婦の同居家族の喫煙率は減少傾向であったが、令和4年度以降は増加している。

☆喫煙率は県と比較し、20代、40代が高く、禁煙の意識も低い。未成年者や妊婦のいるところで吸わない割合が30代、40代が低くなっている。

(5) 歯・口腔

☆口腔トラブルが発生しやすい妊娠中に歯科検診を受診していない人は約4割となっている。

☆むし歯のない子どもは増加傾向だが、1歳6か月から3歳、3歳から4歳にかけてむし歯のある子どもの割合が増え、永久歯に生え変わる中学生でのむし歯罹患率が県より高くなっている。

☆歯や歯ぐきの健康に気を付けている人の割合は、H29と比較するとほとんどの項目で増加したが、毎日歯磨きをしている人の割合は減少している。

☆20～40代で、かかりつけ歯科を持つ人の割合は約7割、年1回歯科検診を受けている人の割合は約5割となっている。

☆成人歯科検診の結果、要精密検査になった者の割合は全体で約7割。特に40代、60代男性が高く、女性は40代で約6割、その後年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。

☆60代で24歯以上の割合はH29と比較し上昇したが、県と比較し低い。

(6) 生きがい・社会参加

☆平成29年と比較し、「誰かのためになにかをしたい」と回答した人が減少している。

☆何かしらの組織活動に参加していないと思われる人が約5割、「自治会活動」が多く、平成29年より増加したのは、「趣味で集まっている団体」となっている。

☆コロナの影響で「体力が落ちた」「孤独を感じた」と回答した人の割合が高く、「孤独を感じた」人は30代の割合が高くなっている。

(7) 疾病の発症・重症化予防

☆脳血管疾患や虚血性心疾患を発症した人の生活習慣をみると、共通して高血圧がある人の割合が高くなっている。

☆健診結果で有所見（血圧・血糖等）者が県より多く増加傾向、特に収縮期血圧は受診者の半数以上が有所見者となっている。

☆血圧に所見がある人は、ほとんどの年代において、県と比較し高く、特に40代男性が県に比べて高くなっている。

☆特定健診の受診率は、3割を超え上昇傾向ではあるものの県平均に達していない。

☆長寿健診受診率が県より低い。

☆悪性新生物（がん）の標準化死亡比（5年平均）は、男女ともに減少傾向にあるが、胃・大腸などすべての部位で100を超え、死亡率が高いと言える。

☆健診結果で有所見（血圧・血糖等）者が県より多く、増加している。

☆「普段から意識して血圧測定を行っている」と答えた人は全体の3割強。40・50代で男性が多く、60・70代では女性が多くなっている。

☆「適正体重を知っている」と答えた人は全体で約6割、30代で特に多くなっている。

☆介護・介助が必要になった主な原因は骨折転倒の割合が増加している。

☆骨密度検査受診率は上昇傾向にある。

☆骨密度検査の精密検査割合は、約3割となっている。60代の精密検査受診者の結果は8割が骨粗しょう症の診断となっている。

☆精密検査受診割合は、6割と目標値には達していない。

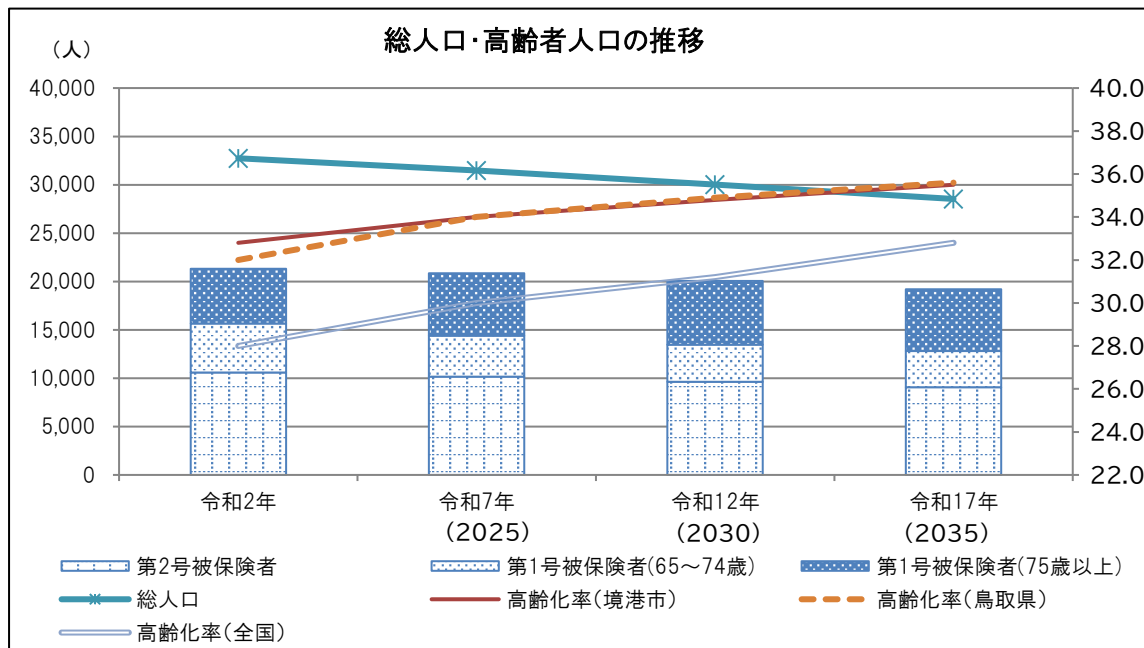
2 境港市の概況

(1) 人口動態

① 人口と世帯の推移

＜要約＞人口減少と高齢化が進んでいる。高齢者人口は令和2年以降しばらく横ばいが続き、その後は減少見込み。出生数は徐々に減少傾向

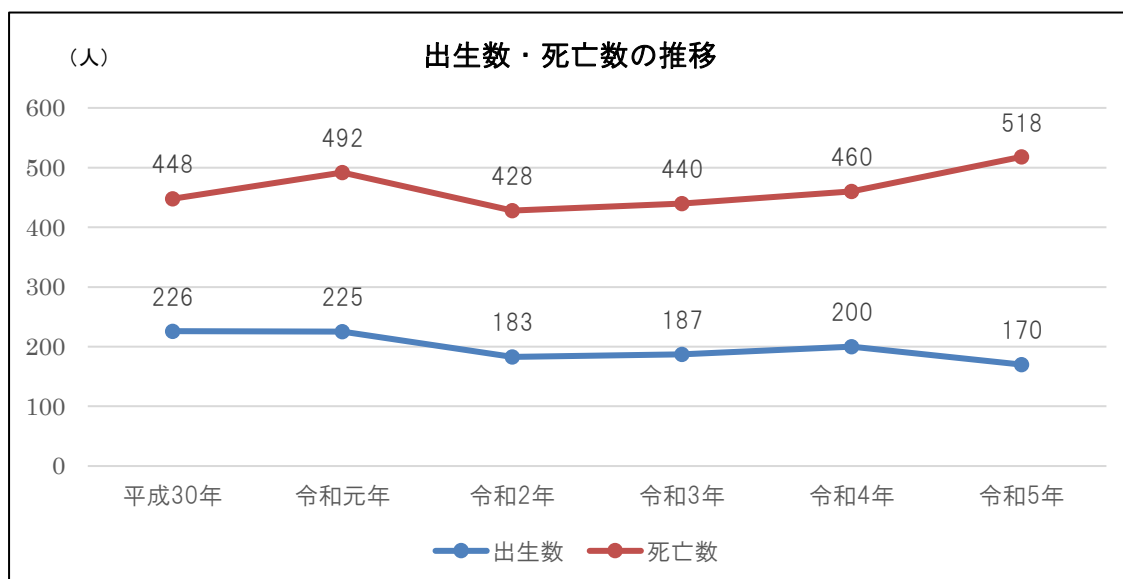
本市の総人口は、減少している一方、高齢化は進んでいます。しかし、高齢者人口は令和2年以降しばらく横ばいが続き、その後は減少が見込まれています。



資料：第9期高齢者福祉計画、介護保険事業計画

② 出生数・死亡数の推移

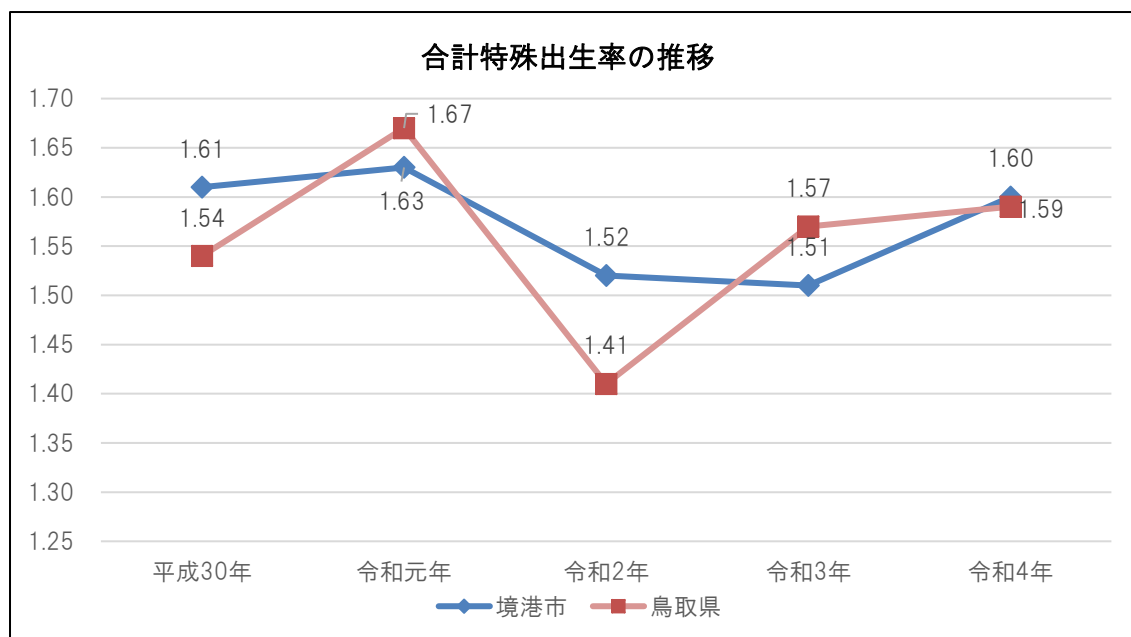
出生数は、令和2年に200人台をきり、徐々に減少しています。死亡数は増加傾向です。



資料：人口動態統計

③ 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、年によって増減がありますが、県並の水準にあります。



資料：人口動態統計

(2) 平均寿命・健康寿命

＜要約＞平成26年と比較し、平均寿命と健康寿命（本市は平均自立期間（要介護度をもとにした鳥取県の健康寿命）を使用する）は、男女ともに上昇

平成26年から令和3年にかけて、本市の平均寿命と健康寿命（本市は平均自立期間（要介護度をもとにした鳥取県の健康寿命）を使用する）は、男女ともに上昇しています。県と比較すると、平均寿命、健康寿命（本市は平均自立期間（要介護度をもとにした鳥取県の健康寿命）を使用する）ともに、女性は長い状況ですが、男性は短い状況です。

※なお、データは、市町村を比較するために、県が独自に算出したもので、国が発表する県データとは一致していません。

① 平均寿命

		平成26年	令和3年
男性	境港市	79.66	80.84
	鳥取県	79.66	81.34
女性	境港市	86.70	88.67
	鳥取県	87.14	87.83

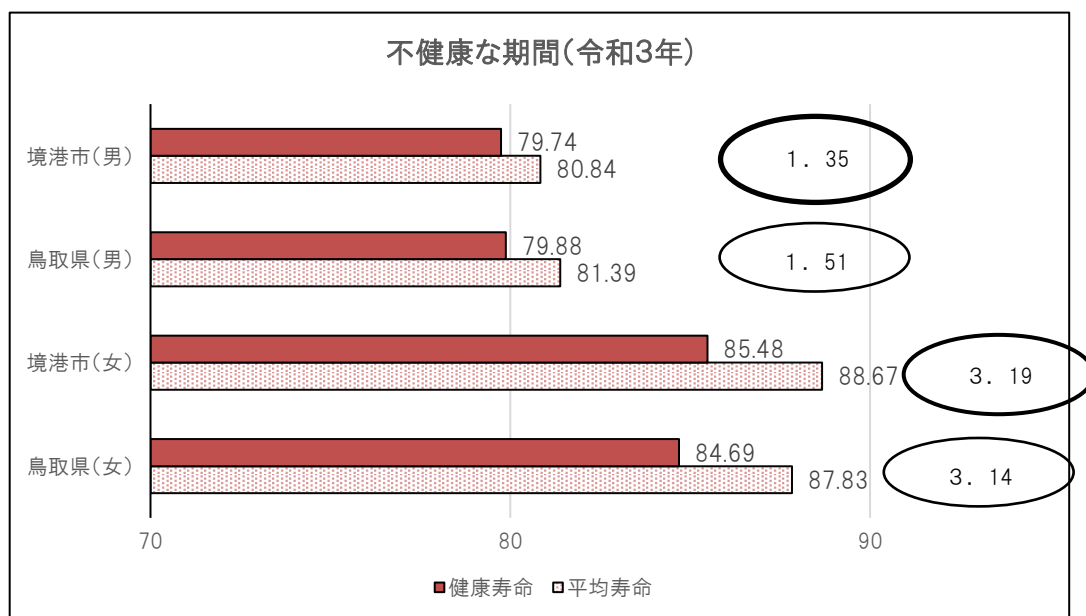
（歳）

② **健康寿命**（本市は平均自立期間（要介護度をもとにした鳥取県の健康寿命）を使用する）

		平成 26 年	令和 3 年	
男性	境港市	78.20	79.74	(歳)
	鳥取県	78.11	79.88	
女性	境港市	83.15	85.48	
	鳥取県	83.74	84.69	

③ **不健康な期間**

		平成 26 年	令和 3 年	
男性	境港市	1.45	1.35	(歳)
	鳥取県	1.54	1.51	
女性	境港市	3.56	3.19	
	鳥取県	3.40	3.14	

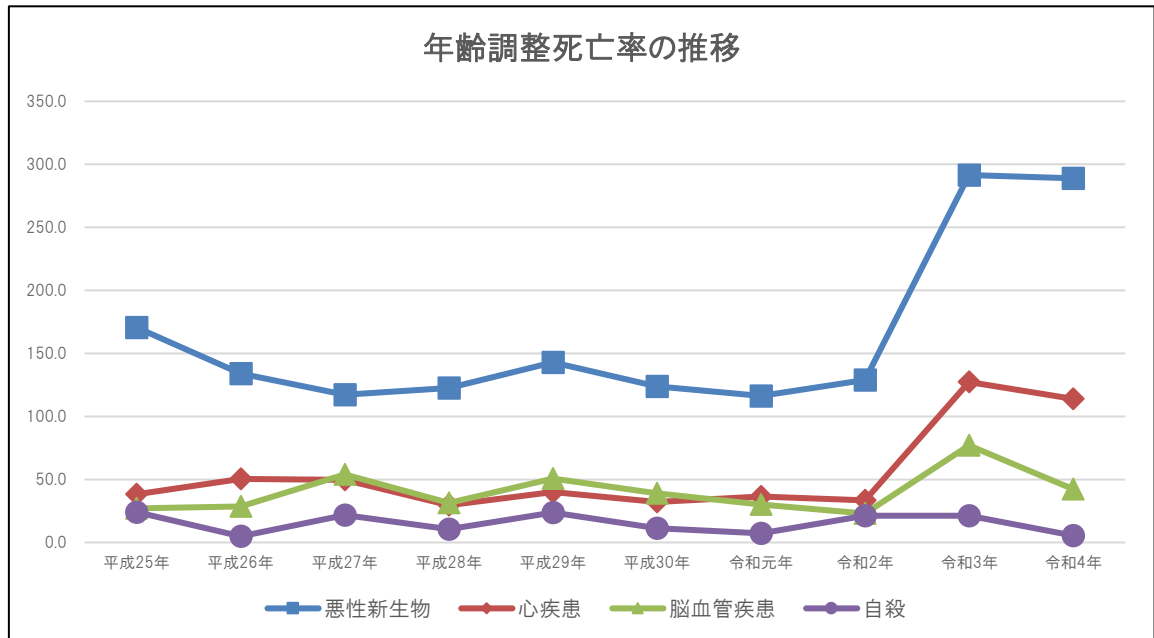


(3) 死亡と疾病

① 死亡率の推移

＜要約＞約半数が「がん」「心疾患」「脳血管疾患」で亡くなっており、標準化死亡比では、男女ともに「がん」「脳血管疾患」が高く、「自殺」は男性が高い

本市の年齢調整死亡率は、悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患の順に高くなっています。

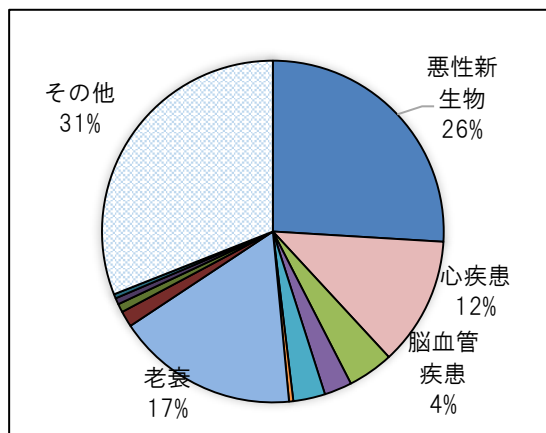


資料：人口動態統計

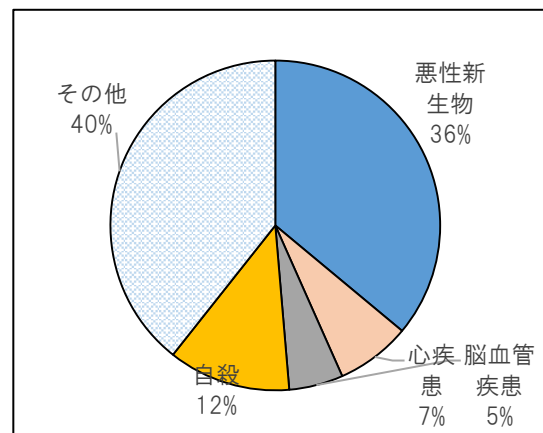
② 死因別死亡割合

本市の死亡割合は、悪性新生物（がん）、心疾患及び脳血管疾患が原因で亡くなる方が42%と約半数を占めています。また、65歳未満では、悪性新生物（がん）で亡くなる方が36%を占めています。

(令和4年 N=460)



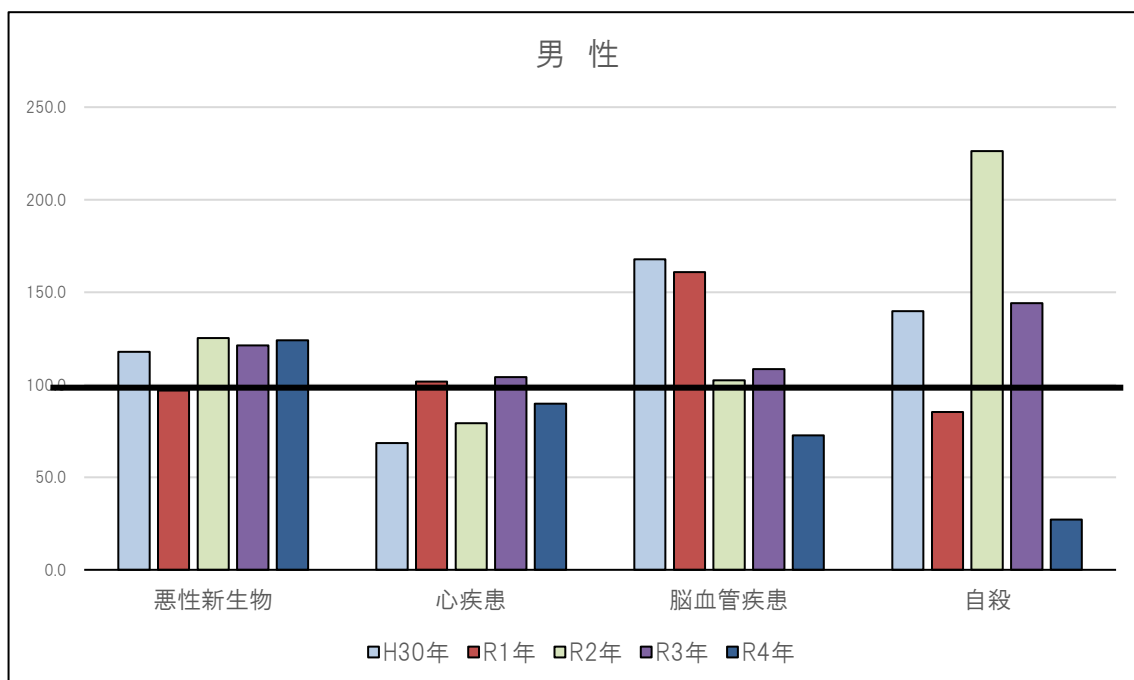
(65歳未満死亡割合) R30~R4 合計 (N=150人)



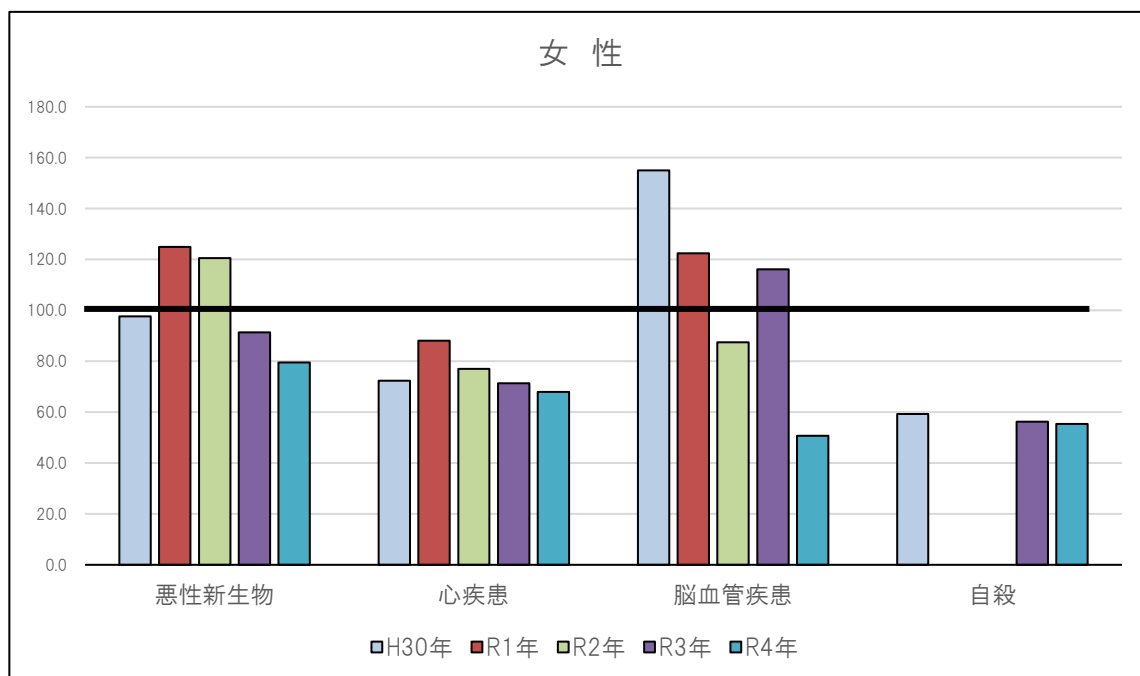
資料：人口動態統計

③ 標準化死亡比

本市の標準化死亡比は、継続して、男女ともに、悪性新生物（がん）、脳血管疾患が 100 を超えています。「自殺」は男性に高い傾向が見られます。



資料：人口動態統計



資料：人口動態統計

(4) 国民健康保険（国保）医療費の状況

＜要約＞国保の疾病中分類による被保険者一人当たり医療費をみると、入院では「統合失調症、統合失調型障害及び妄想性疾患」「その他悪性新生物」「骨折」が、外来では「腎不全」「糖尿病」「脂質異常症」が多くなっている

① 被保険者一人当たり医療費の状況

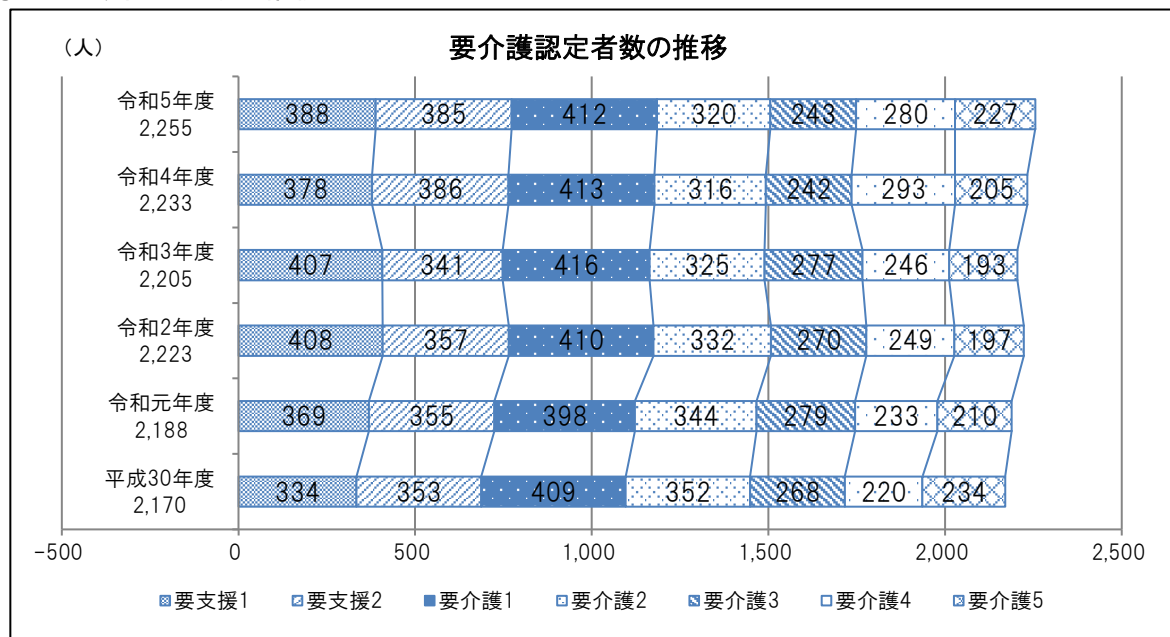
入院	男性	女性
1 位	統合失調症、統合失調型障害及び妄想性疾患	その他悪性新生物
2 位	その他悪性新生物	骨折
3 位	その他心疾患	統合失調症、統合失調型障害及び妄想性疾患
外来	男性	女性
1 位	腎不全	糖尿病
2 位	糖尿病	脂質異常症
3 位	その他心疾患	その他心疾患

資料：KDB システム

(5) 介護保険の認定状況

＜要約＞介護・介助が必要となった主な原因は、虚弱に次いで、骨折・転倒が多く、要介護認定者の有病状況は、心臓病が最多で、次いで筋・骨格疾患、高血圧症が多い

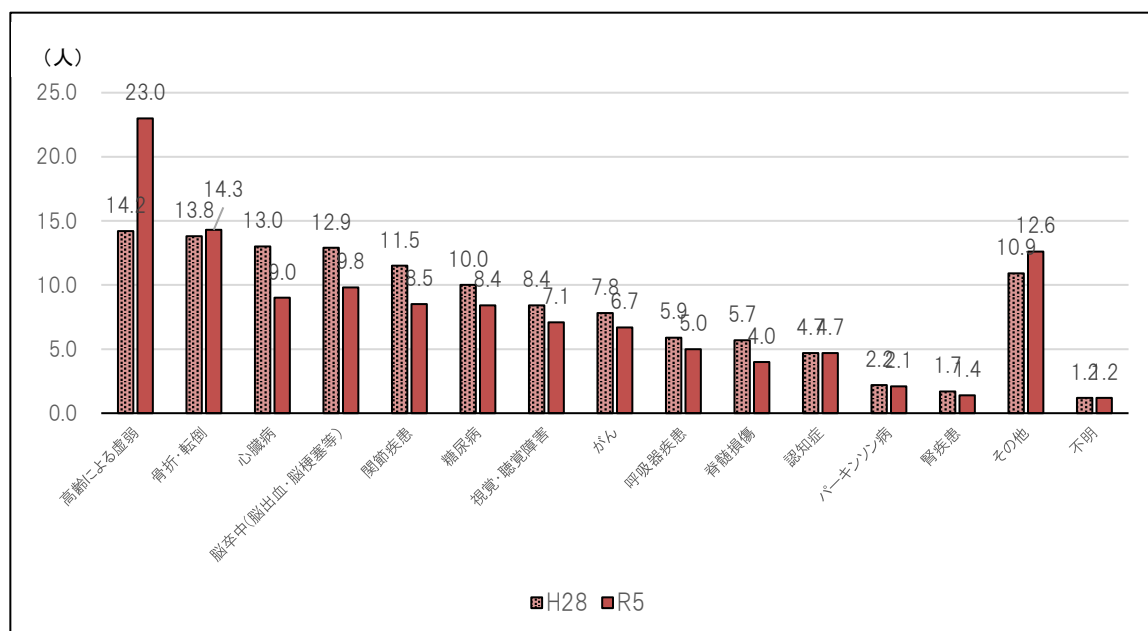
① 要介護認定者数の推移



資料：第9期高齢者福祉計画、介護保険事業計画

② 介護・介助が必要になった主な原因（H28 比較）

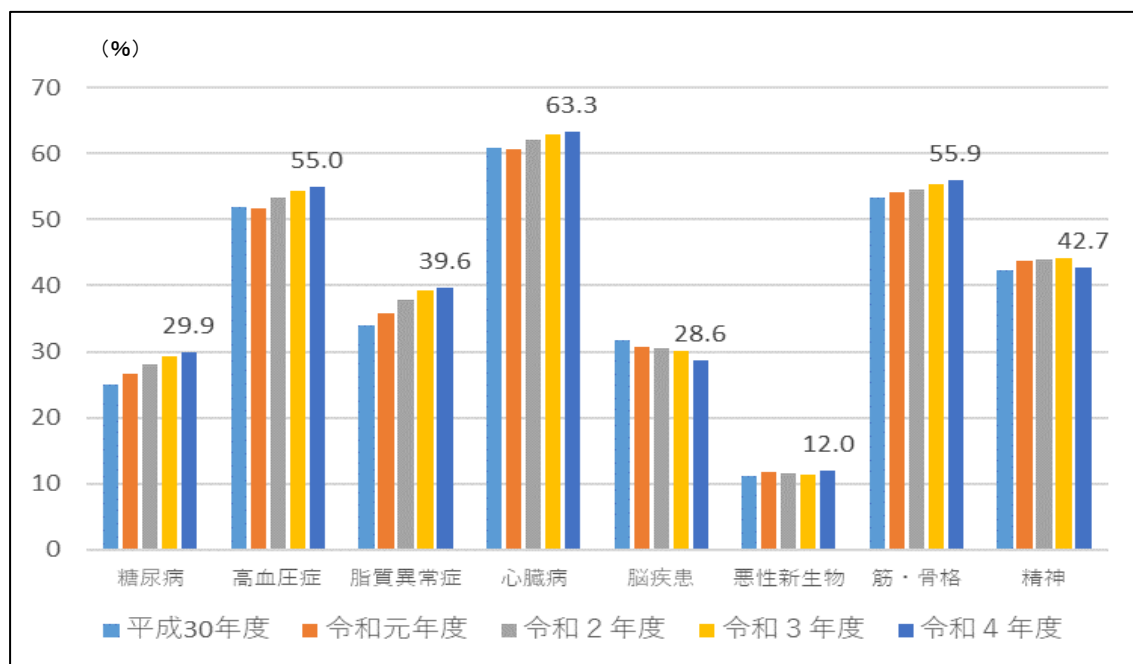
本市の介護、介助が必要となった原因は「高齢による虚弱」が一番多く、次いで「骨折・転倒」となっています。



資料：第9期高齢者福祉計画、介護保険事業計画

③ 要介護・要支援認定者の有病状況

本市の令和4年度の要介護・要支援認定者の有病状況で一番多いのは「心臓病」であり次いで「筋・骨格」となっています。



資料：第3期境港市データヘルス計画・第4期境港市特定健康診査等実施計画

3 分野別の健康実態

(1) 食生活・栄養

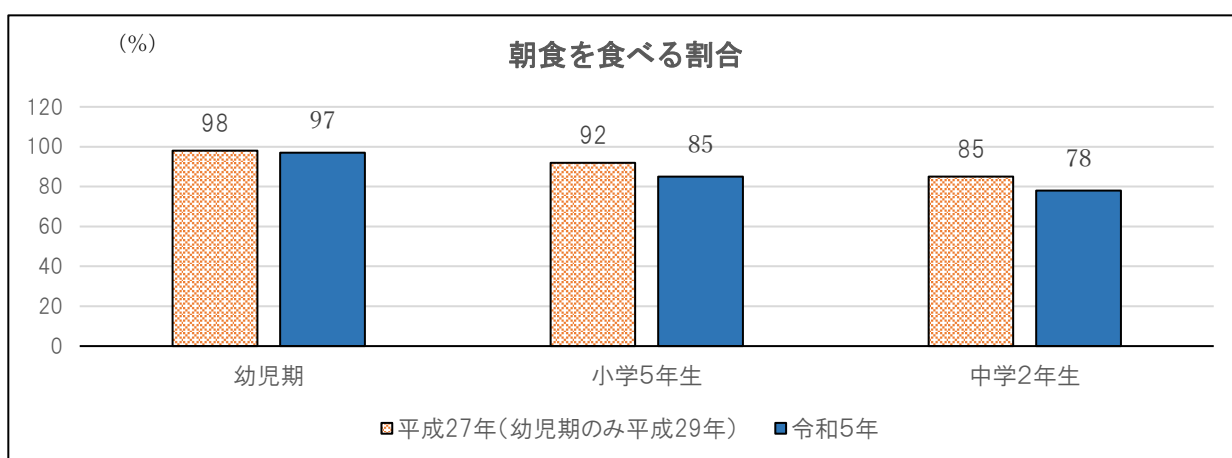
〈要約〉朝食を食べる割合は、前回調査に比べて幼児期はほぼ同じだが、小学5年生、中学2年生では減少している。また、成人期では、18～29歳女性と40代男性で朝食を食べる割合が低い

① 朝食について

毎日朝食を食べる人は、前回調査に比べて幼児期はほぼ同じ傾向ですが、学齢期では減少しています。成人期では、朝食をほとんど毎日食べると回答した人は40代男性が60.0%と最も低く、次いで18～29歳女性が63.6%と低い状況です。一方、毎日食べている割合が高いのは、70代・80代女性で100%でした。

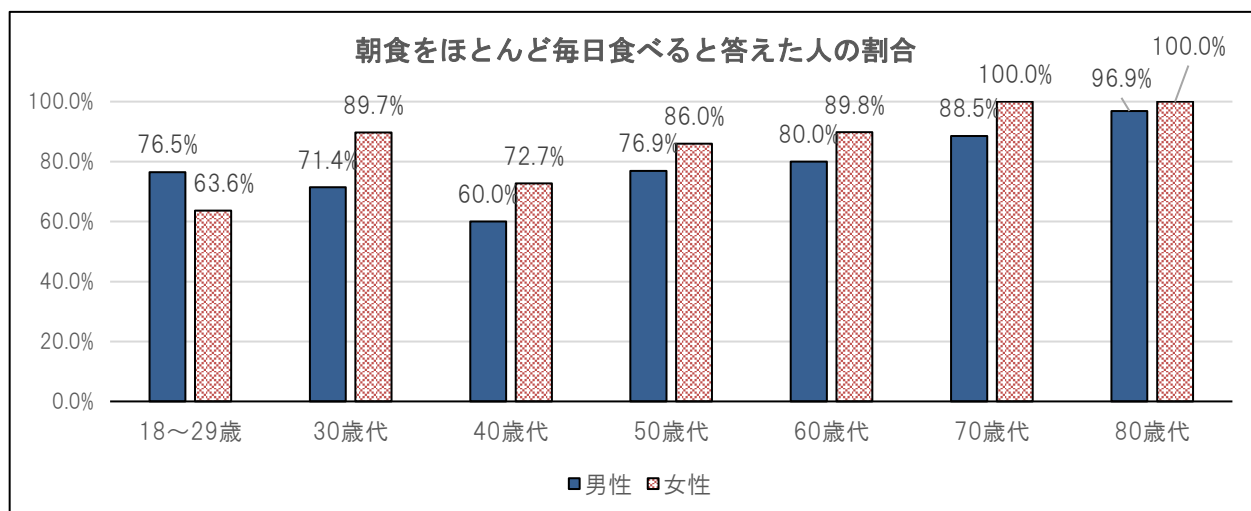
男女別では、18～29歳を除いたすべての年代において、男性より女性が高い傾向となっています。

◆幼児期・学齢期



資料：「幼児の生活習慣と食に関するアンケート（平成29年度・令和5年度）」及び「食事と生活についてのアンケート(R5)」（鳥取県学校栄養士協議会）

◆成人期



※朝食を「ほとんど毎日食べる」と回答した方の年代別内訳

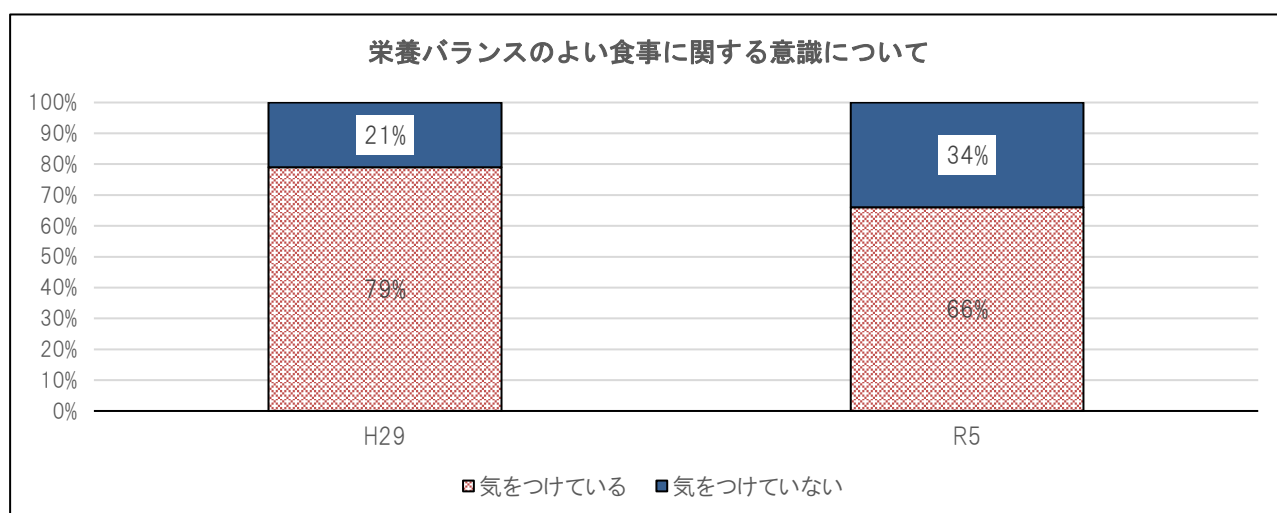
資料：「令和5年度境港市の健康づくりに関するアンケート」

② 栄養バランスについて

〈要約〉栄養バランスについて気をつけている割合は、前回調査に比べて幼児期では減少している。成人期では「1日2食以上、主食・主菜・副菜の揃った食事をする人」の割合は半数であり、県に比べて低く、特に女性が低い

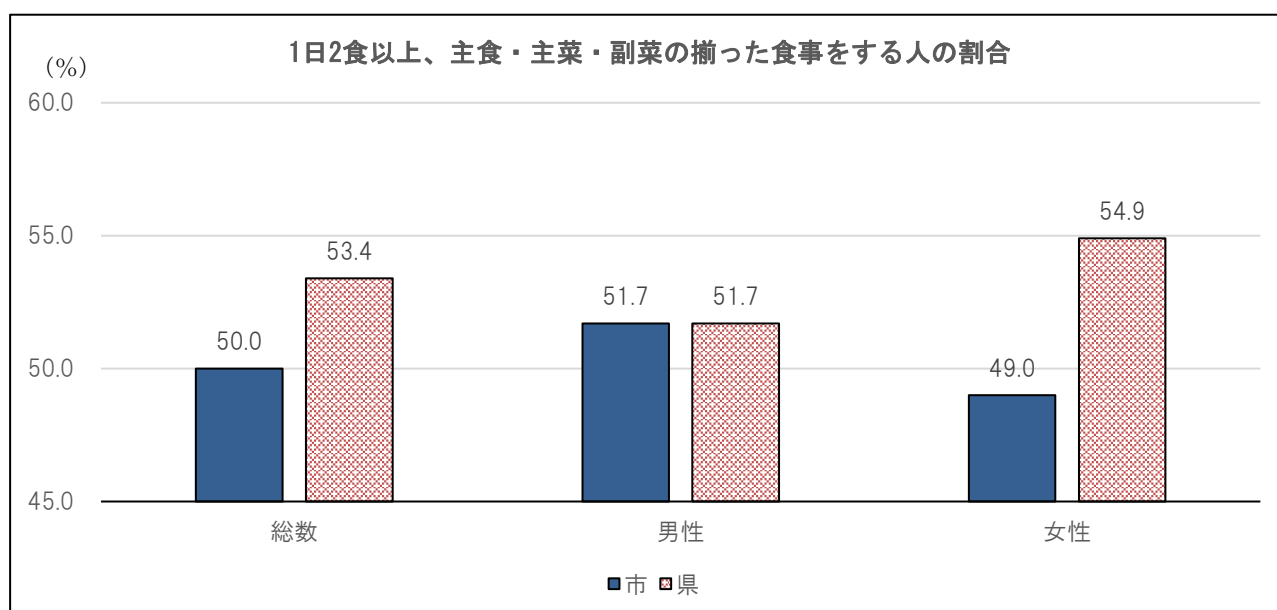
栄養バランスについて気をつけている人は、幼児期では前回調査に比べて減少しています。また、成人期では、1日2食以上、主食・主菜・副菜の揃った食事をする人の割合は半数であり、県平均よりも低くなっています。特に、女性の割合が低くなっています。

◆幼児期



資料：「幼児の生活習慣と食に関するアンケート（平成29年度・令和5年度）」

◆成人期

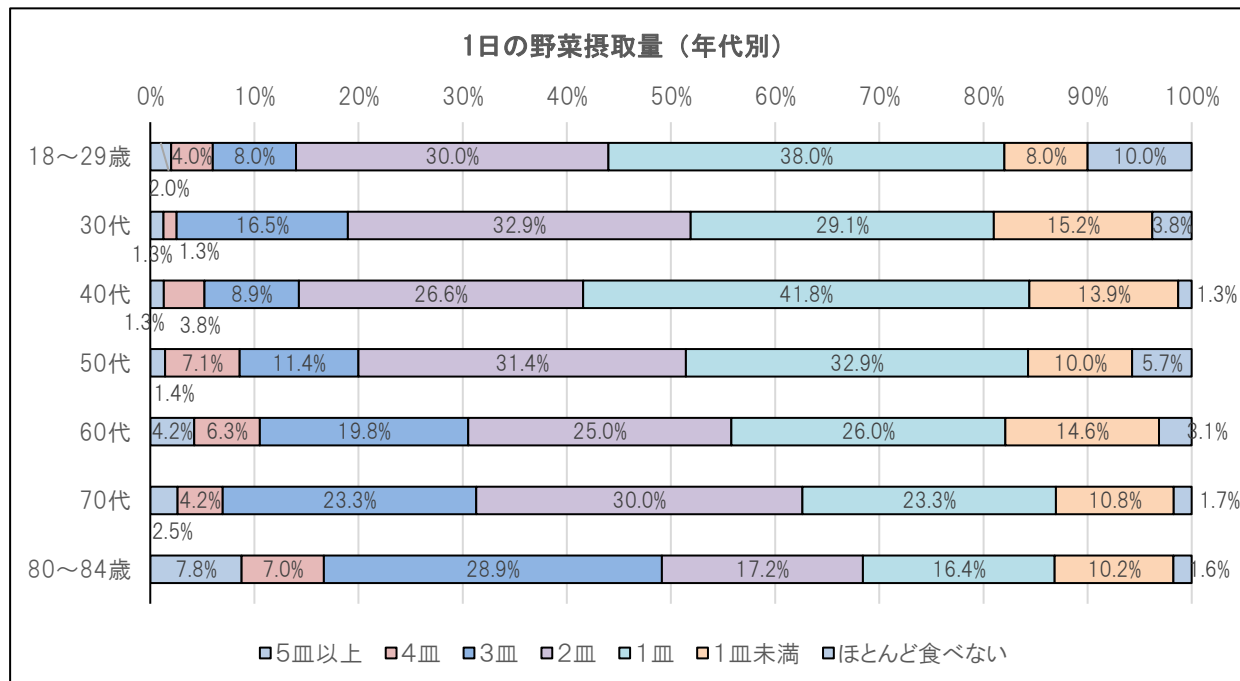


資料：「令和5年度境港市の健康づくりに関するアンケート」及び
「令和4年（第8回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査」

③ 野菜摂取量について

〈要約〉全ての世代において、目標量の 350g に達しておらず、年齢が若いほど摂取量が少ない

野菜の一日摂取量は、国が示す一人一日あたりの目標量 350g（1皿70グラムを目安として5皿）に対して全世代で達していない状況にあります。年齢が若い人ほど摂取量が少ない状況です。



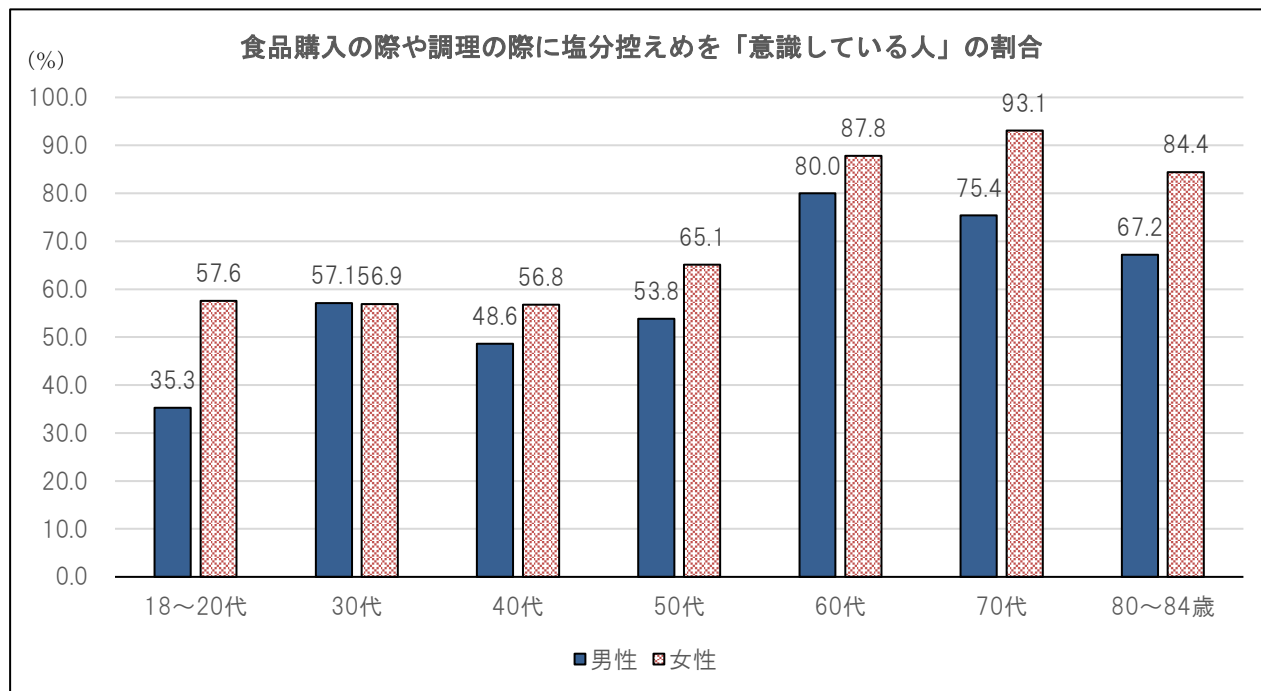
※「未回答」を除く

資料：「令和 5 年度健康づくりに関するアンケート」

④ 塩分について

〈要約〉食品を購入する際や料理を行う時に、塩分控えめを意識している人の割合は、年齢が上がるにつれて増加

塩分について意識している人は、18～29 歳男性が 35.3%と最も低く、年齢が上がるにつれて増加傾向にあります。また、女性より男性で意識している人が低い傾向です。



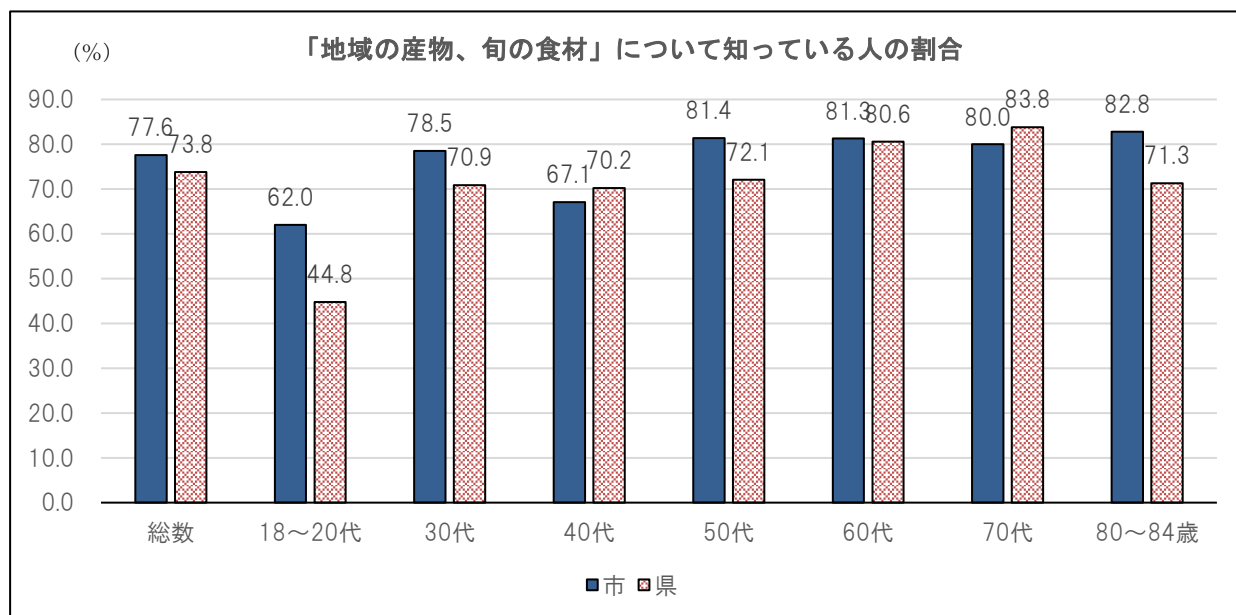
※食品を購入する際や料理を行う時に、塩分控えめを「とても意識している」「少し意識している」と回答した方の割合

資料：「令和5年度健康づくりに関するアンケート」

⑤ 地産地消について

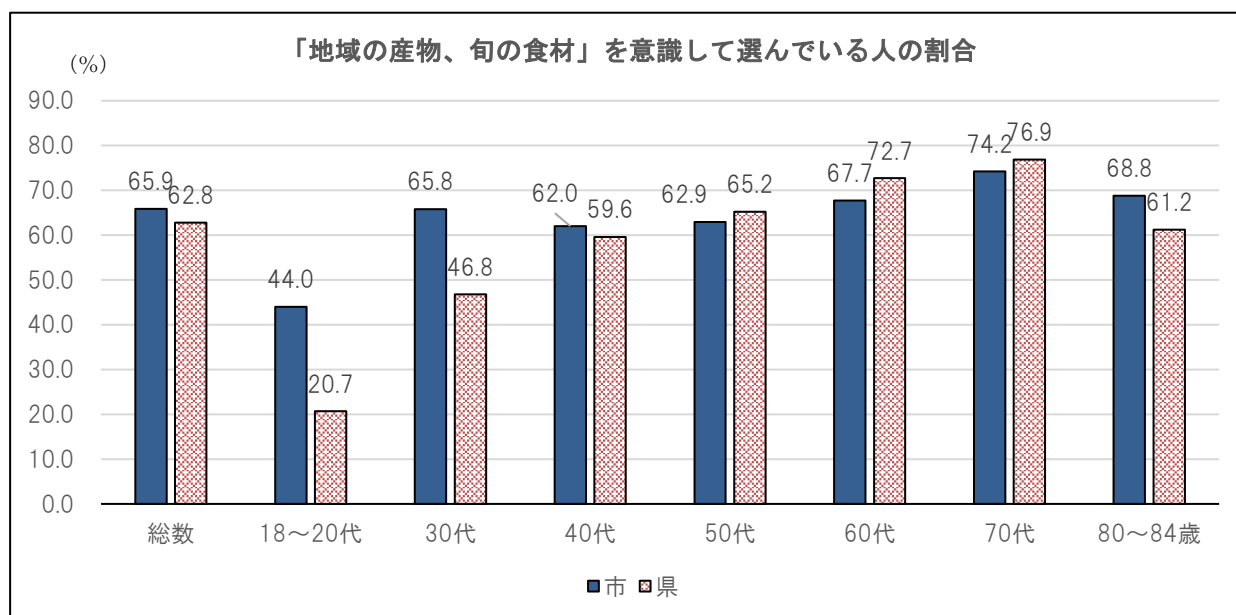
〈要約〉地域の産物や旬の食材について、知っている人、意識して選んでいる人の総数は県より高く、特に18歳～20代では大きな差がある

地域の産物や旬の食材について、知っている人、意識して選んでいる人（総数）は県より高く、特に18歳～20代では大きな差があります。全ての年代において、知っている人の割合より意識して選んでいる人の割合が少ないことから、知っていても意識して選ぶという行動に移せていない人がいる状況です。



※「地域の産物、旬の食材」について、「十分に知っている」「ある程度知っている」と回答した方の割合

資料：「令和4年（第8回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果」及び「令和5年度健康づくりに関するアンケート」



※「地域の産物、旬の食材」について「いつも選んでいる」「ときどき選んでいる」と回答した方の割合

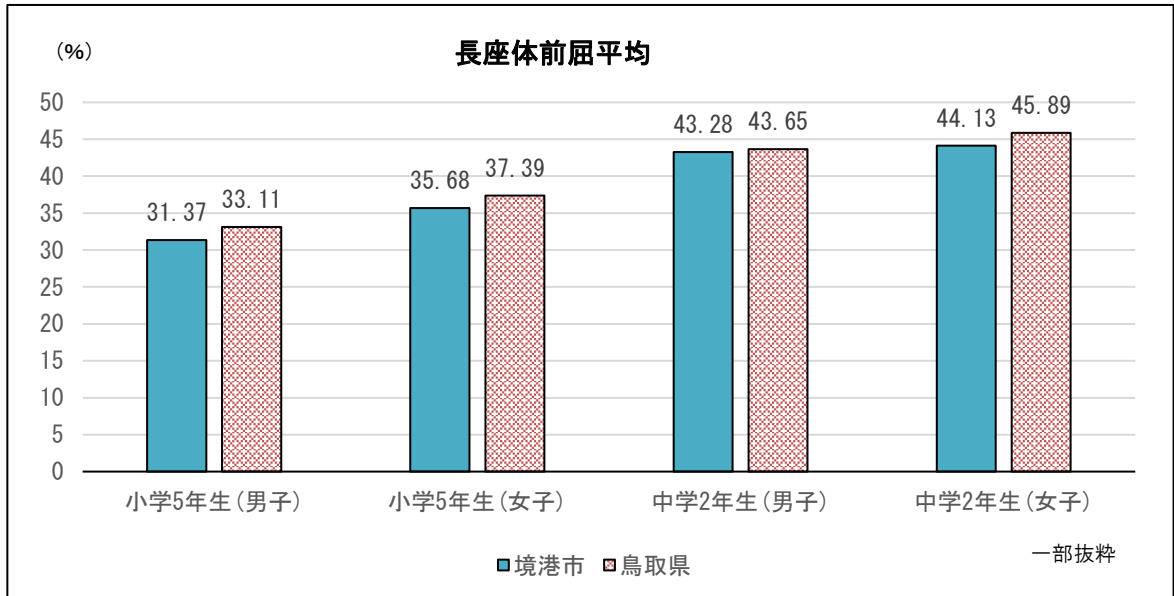
資料：「令和4年（第8回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果」及び「令和5年度健康づくりに関するアンケート」

(2) 運動・身体活動

① 小学生、中学生の運動状況

＜要約＞反復横とび、50m走などの体力合計点や柔軟性について、小学生、中学生ともに県より、柔軟性を示す「長座体前屈」が低い

H29年同様、県と比較して柔軟性が低い状況にあります。



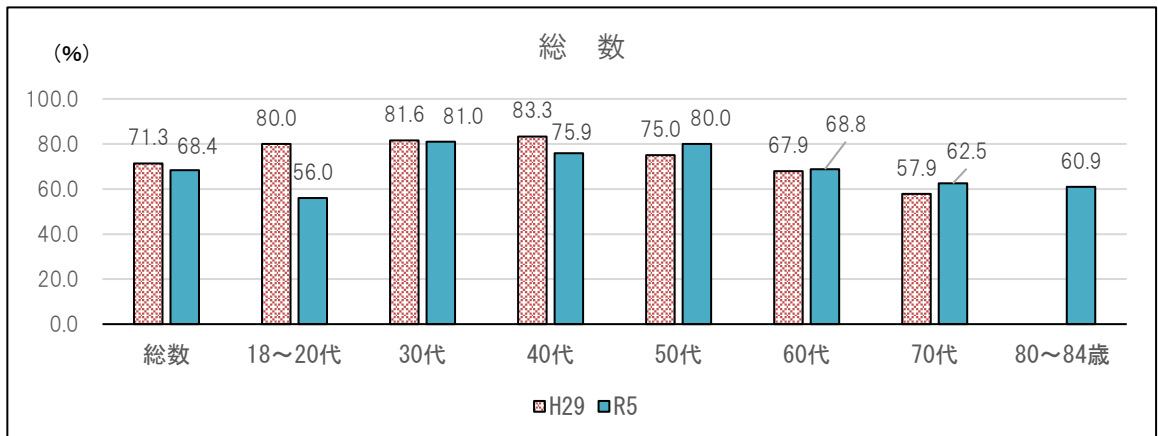
資料：令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

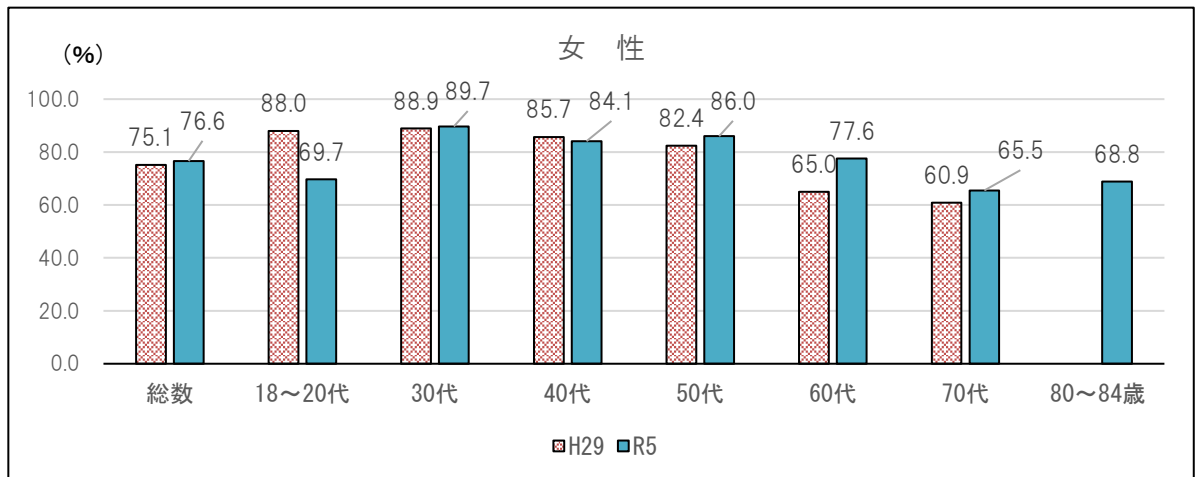
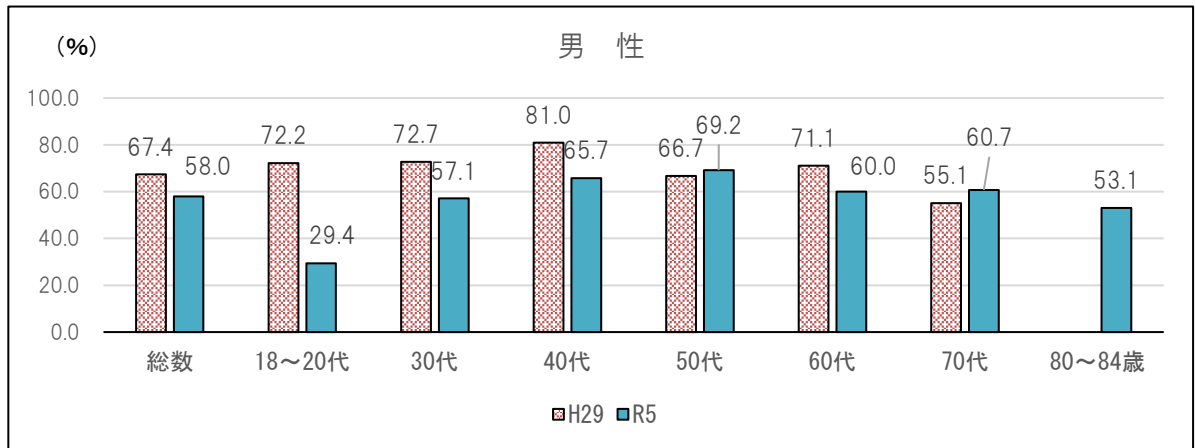
② 運動に関する意識について

＜要約＞運動不足と感じている人の割合が、平成29年度と比較し減少したが、50、60、70代は増加
意識的に運動を心がけている人の割合は、男性は増加したが女性は減少

◆ 普段、運動不足と感じている人の割合

H29と比較すると、運動不足と感じている人の割合は全体では減少しましたが、50、60、70代では、増加しました。

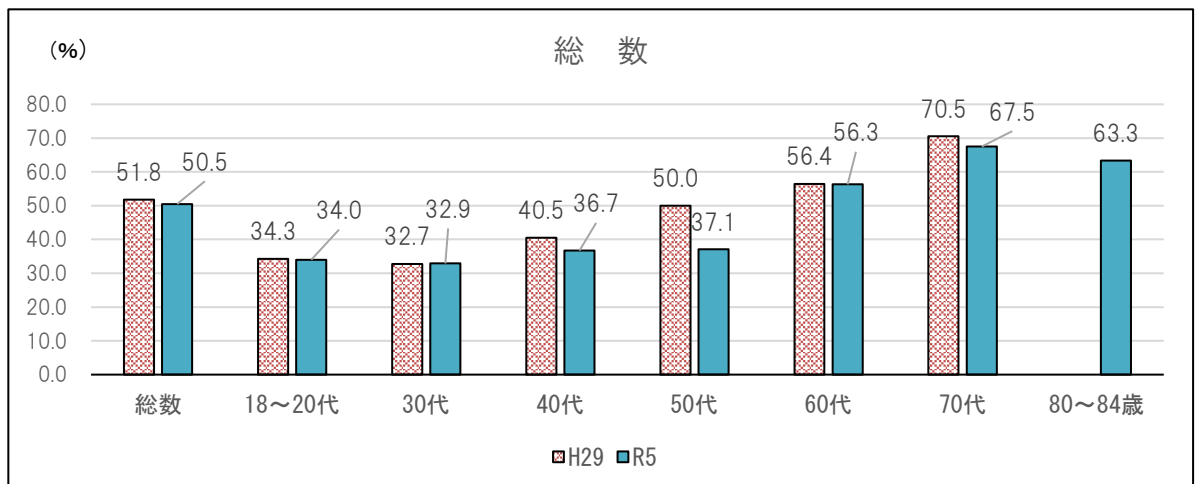


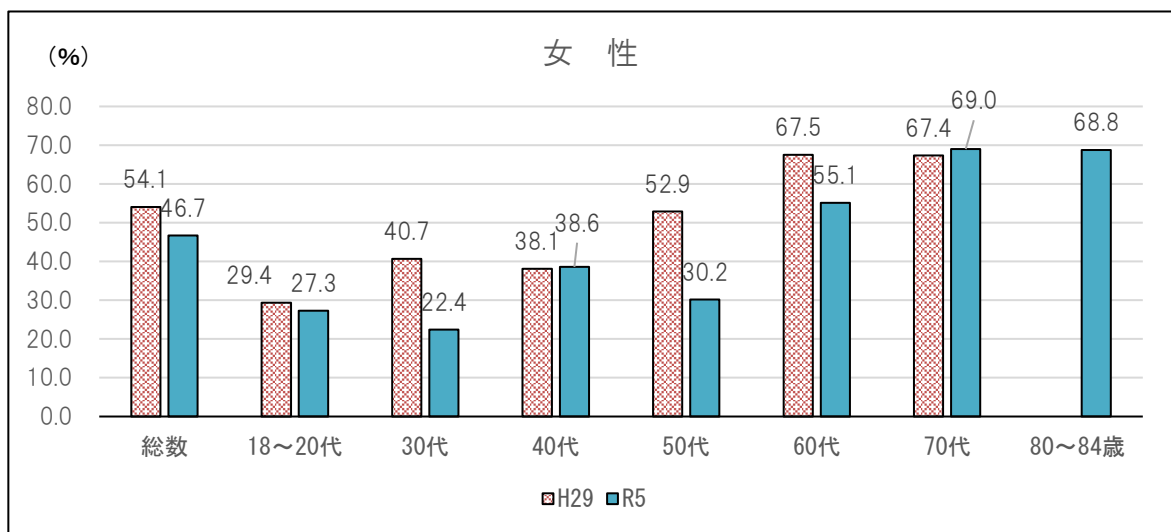
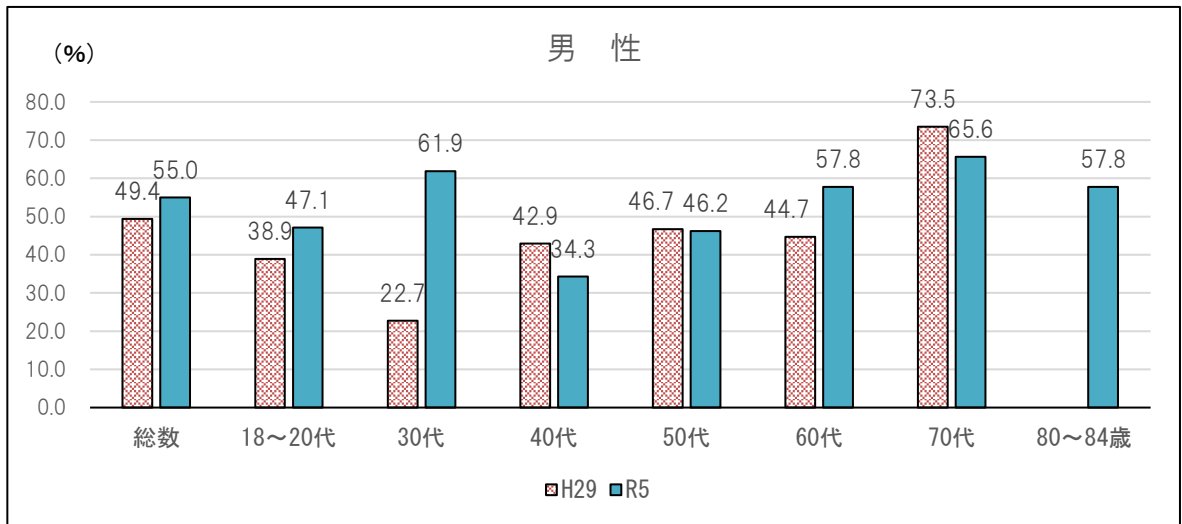


資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査

◆ 日ごろから、健康の維持のため、意識的に体を動かすように心がけている人の割合

H29 と比較すると、意識的に運動を心がけている人の割合が、男性は増加しましたが、女性は減少しました。





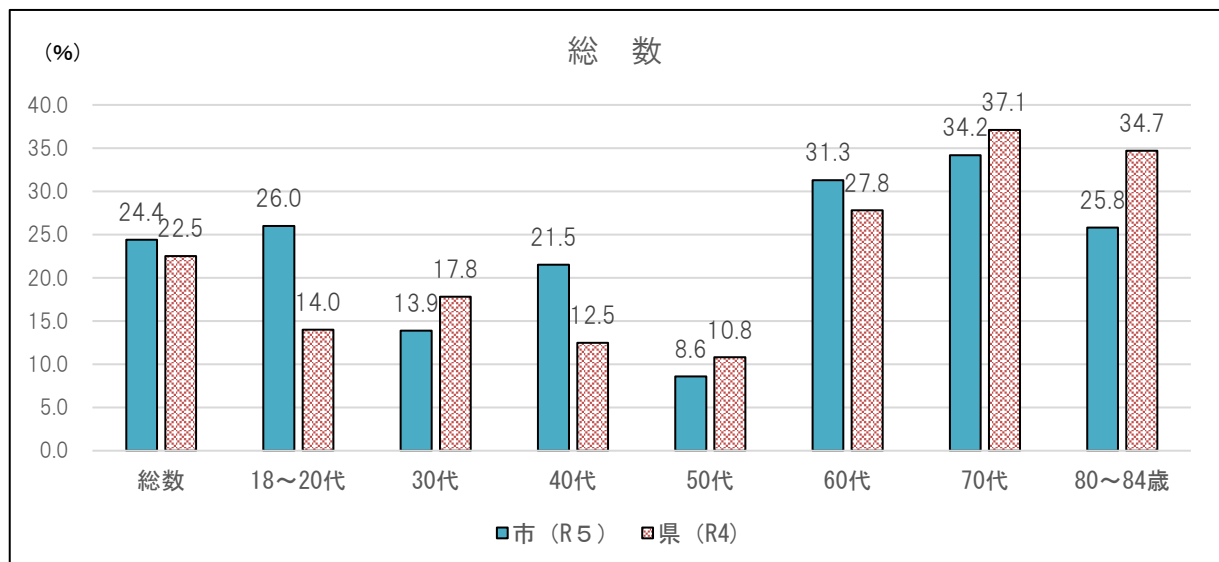
資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査

③ 運動の取り組み状況

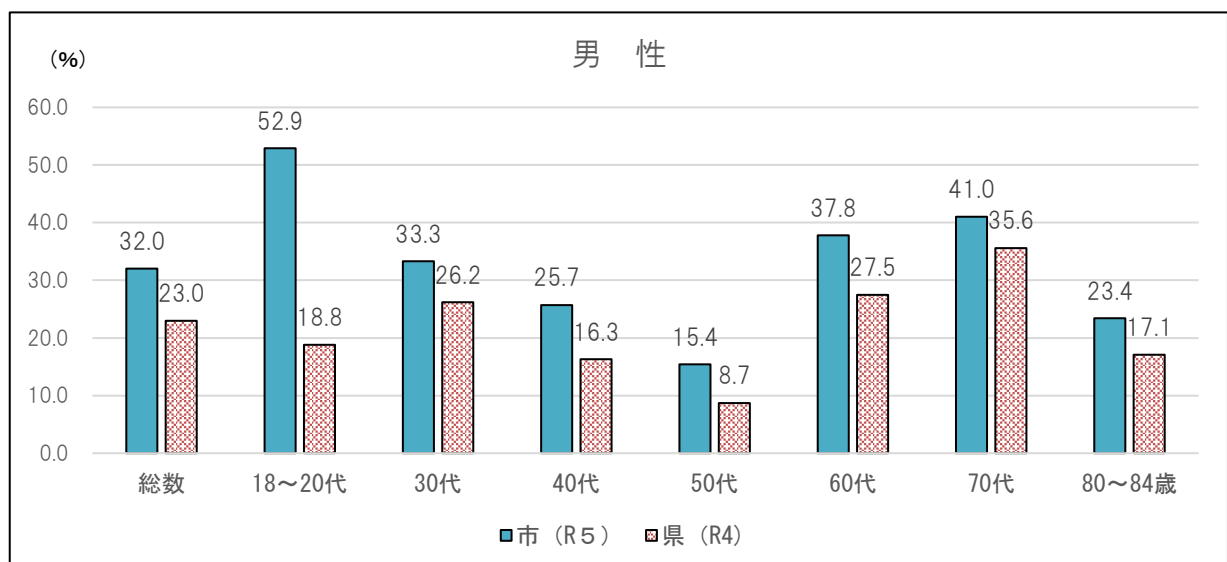
＜要約＞定期的に運動する人の割合が、男性の全ての世代で、県と比較し高い。男女計では、年代別に見ると、50代が低くなっており、県と比較しても割合が低くなっている

◆定期的に運動する人の割合

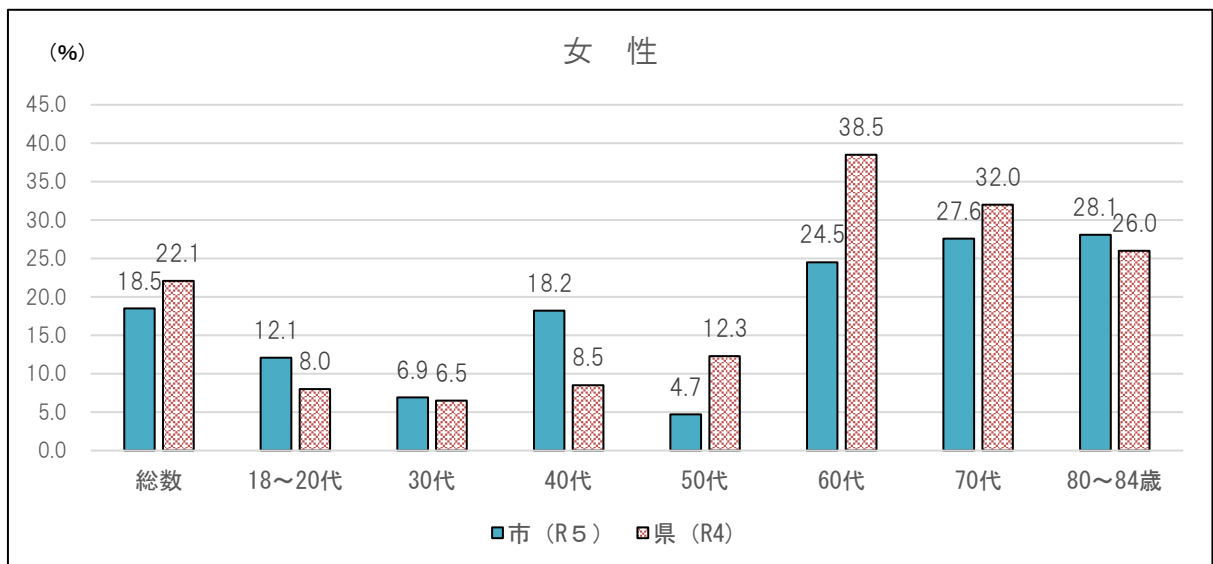
定期的に運動する人の割合は、男性の全ての世代で、県と比較して高くなっています。男女計では、年代別に見ると50代が低くなっており、県と比較しても割合が低い状況です。



資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査、
令和 4 年（第 8 回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果



資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査
令和 4 年（第 8 回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果



資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査
令和 4 年（第 8 回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果

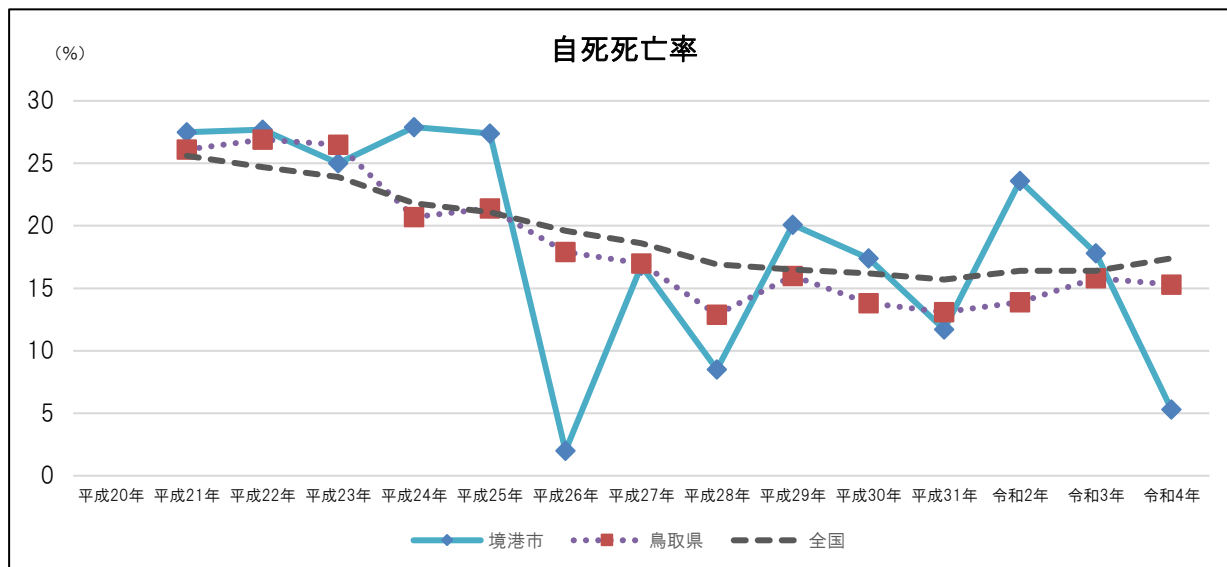
(3) ころ・休養

<要約>30～70代の男性に自死でなくなる人が多い傾向がある

① 自死の状況

◆自死死亡率（人口10万人当たりの自死者数）の推移

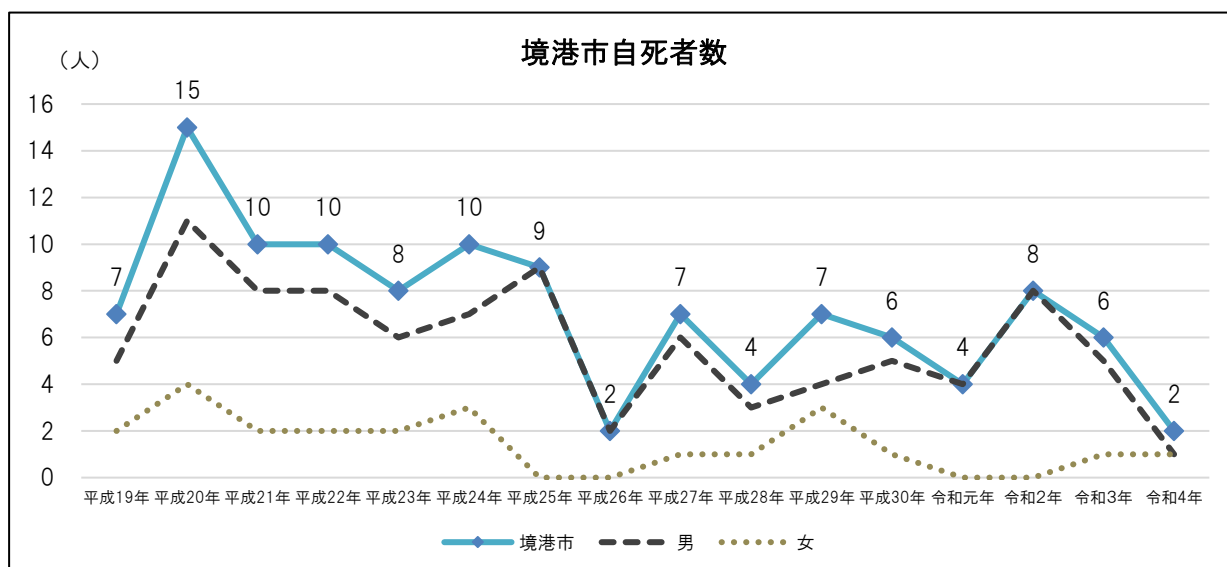
本市の自死者数は最も多かった平成20年から減少傾向にあります。



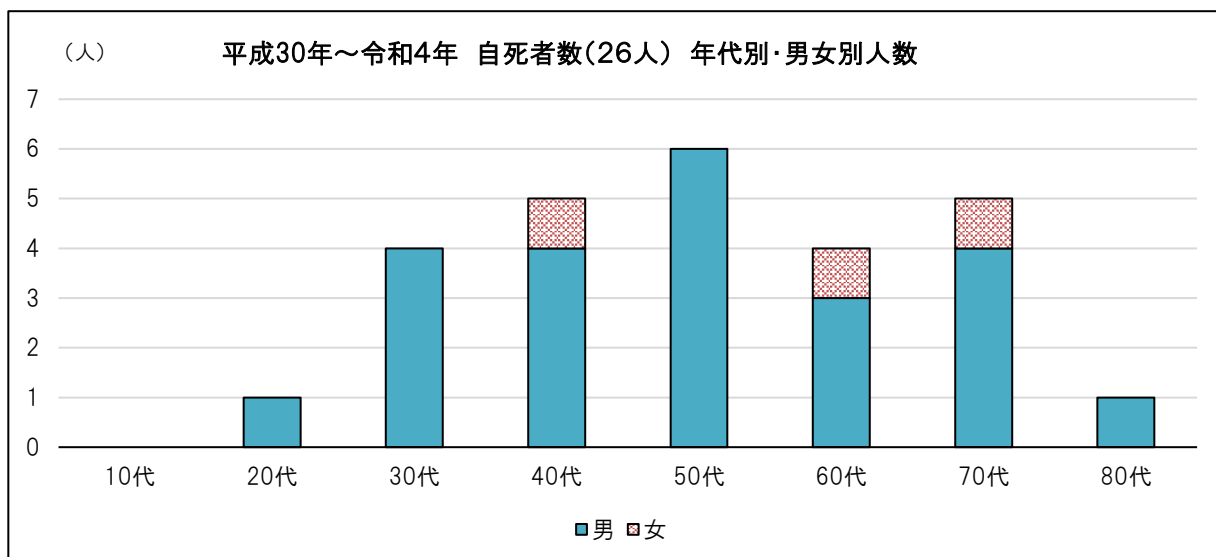
資料：人口動態統計

◆自死者数の推移

本市の自死者数は、平成20年の15人をピークに全体的に減少傾向であり、令和2年に微増したが、その後は減少傾向で令和4年は2人。性別では男性が多く、30代～70代の自死者が多い傾向にあります。



資料：人口動態統計

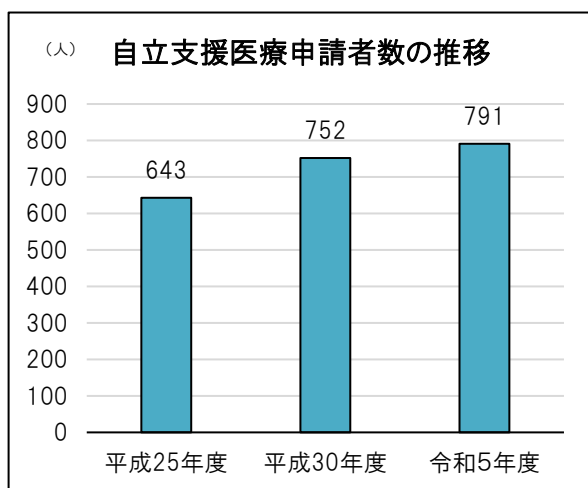


資料：人口動態統計

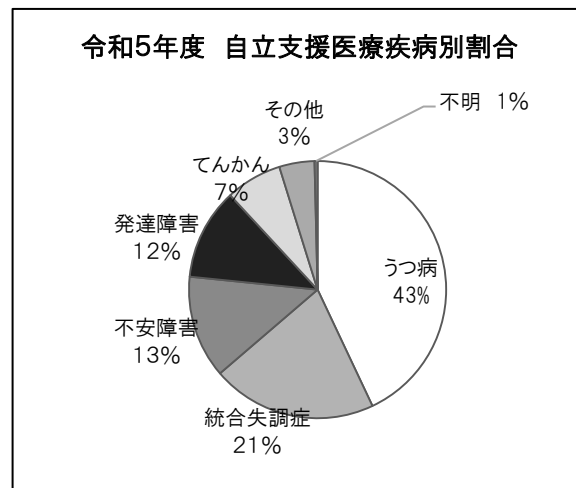
② 自立支援医療・精神通院の状況

<要約> 自立支援医療の申請者が増加しており、中でもうつ病の占める割合は大きい

自立支援医療の申請者は増加しており、令和5年度は791人が申請しています。疾病割合は、うつ病が一番多く、続いて統合失調症、不安障害と続いています。



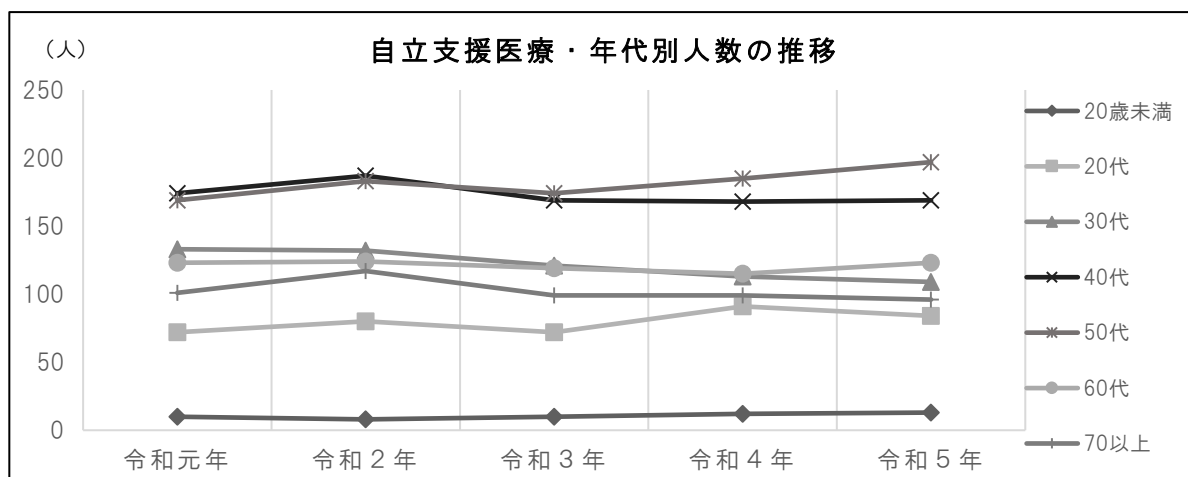
資料：健康づくり推進課



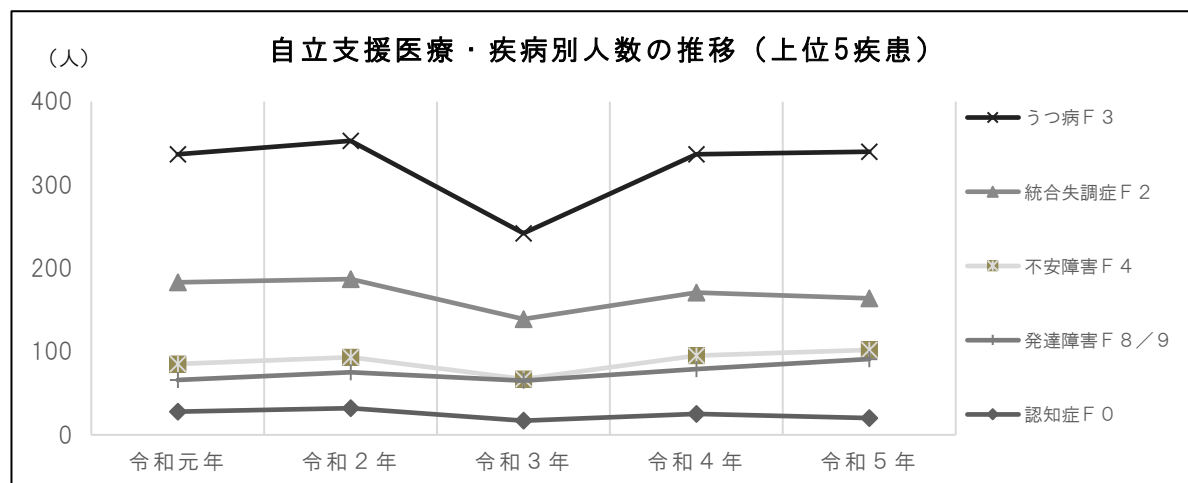
資料：健康づくり推進課

◆自立支援医療・年代別人数の推移

自立支援医療は、40代、50代の利用者が多く、疾病ではうつ病の割合が高くなっています。



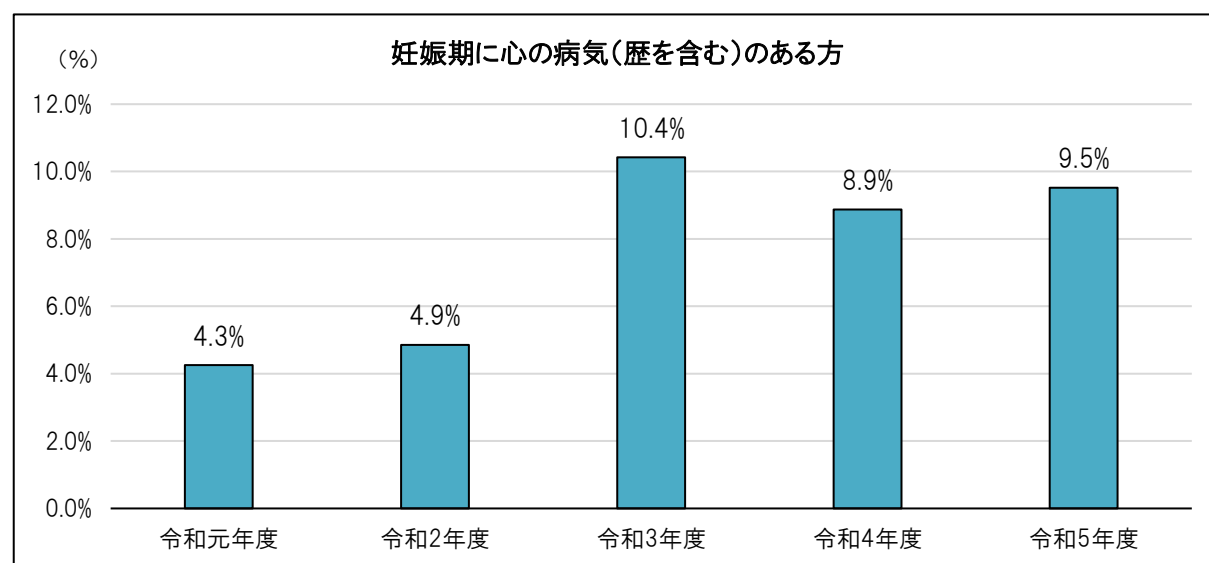
資料：健康づくり推進課



資料：健康づくり推進課

③ 妊娠期の状況

妊娠中に心の病気（歴含む）がある人は、5年前より増加しています。



資料：健康づくり推進課

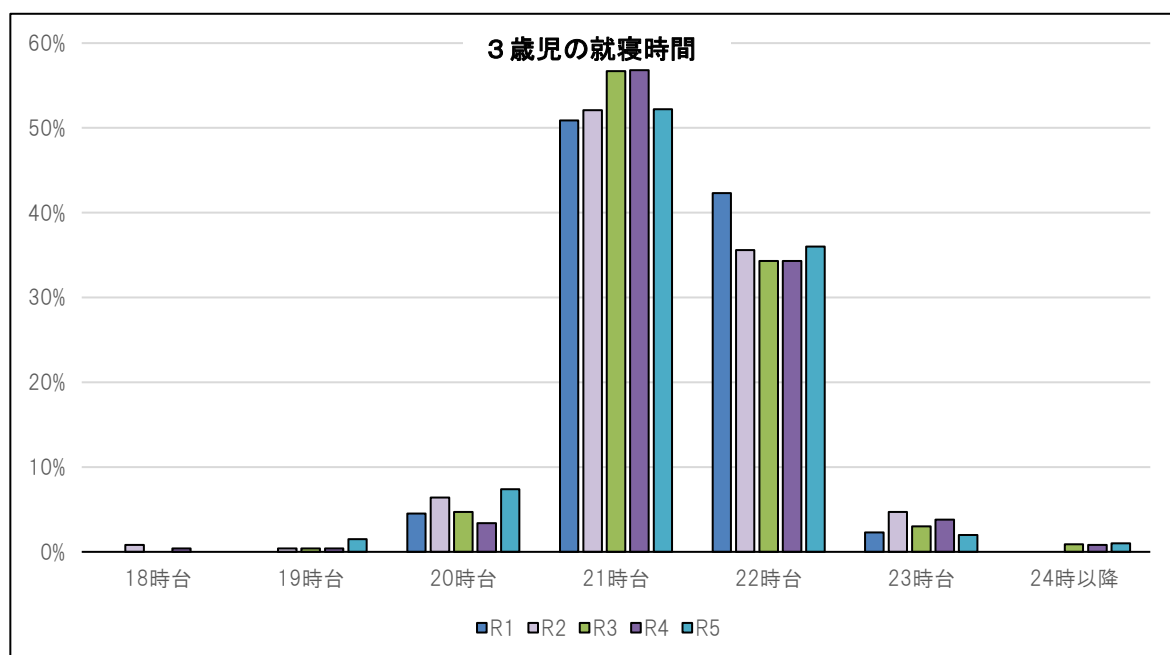
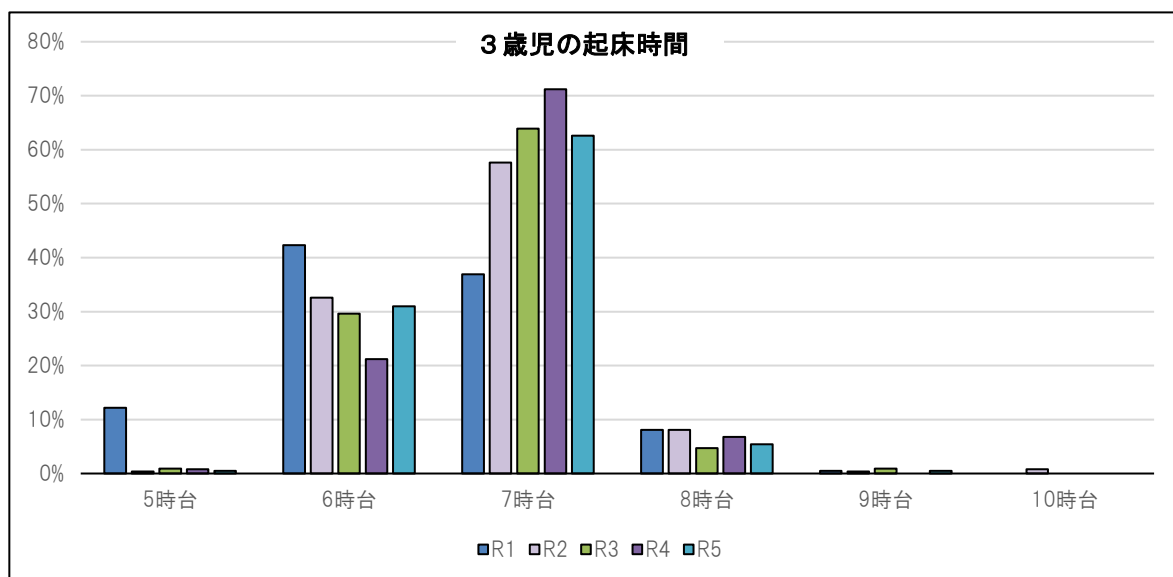
④ 睡眠について

<要約>

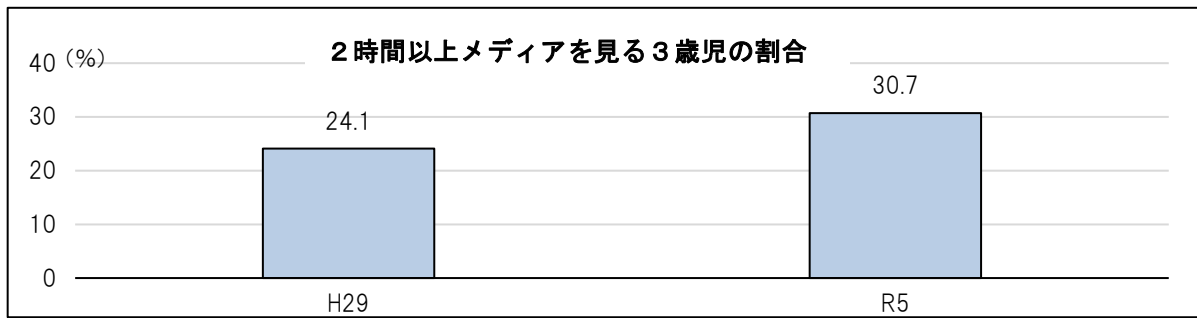
- ・ 1日に2時間以上メディアを見る幼児が増加傾向
- ・ 平日23時以降に寝る児童の割合が増加し「朝眠くて起きられない」と回答した児童の割合が増加
- ・ 睡眠で休養がまったくとれていないと回答する人、成人期に適切な睡眠時間（6時間以上）が確保できていない人の割合は40代が多い

◆幼児期

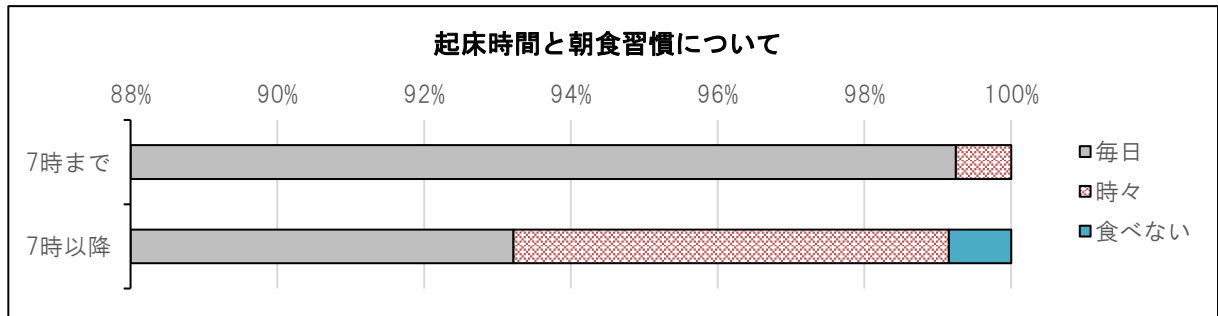
22時以降に就寝する3歳児は横ばいです。起床時間が早い子は朝食を毎日食べている割合が高く、就寝時間が早いと排便習慣が毎日ある傾向にあります。



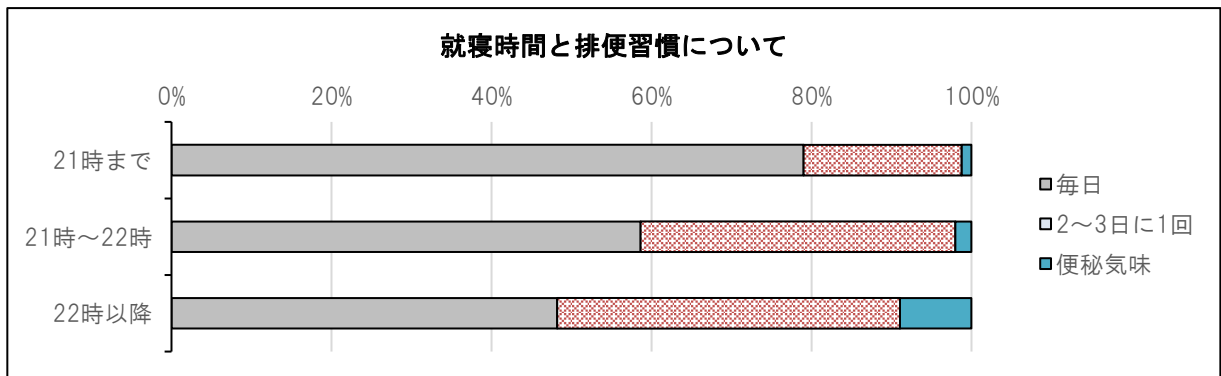
資料：健康づくり推進課



資料：健康づくり推進課



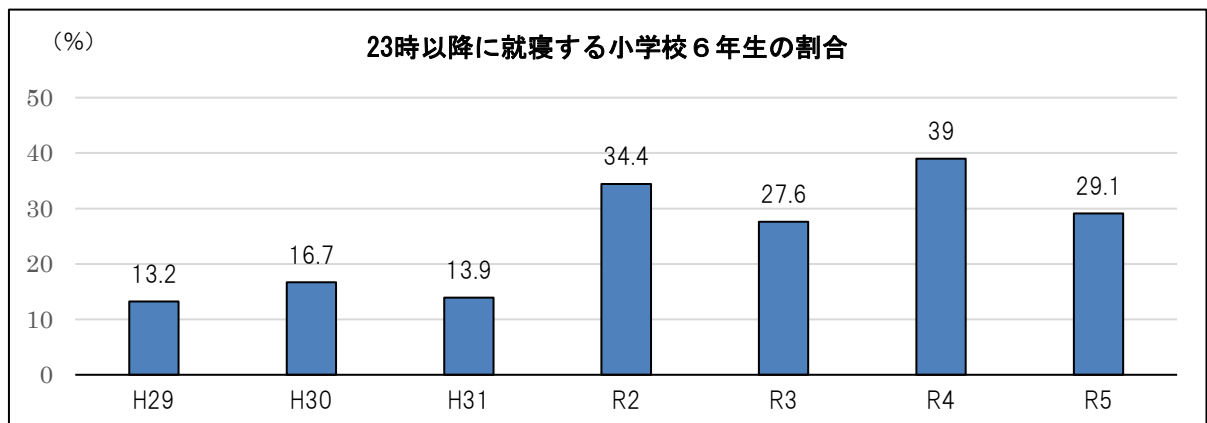
資料：令和5年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート



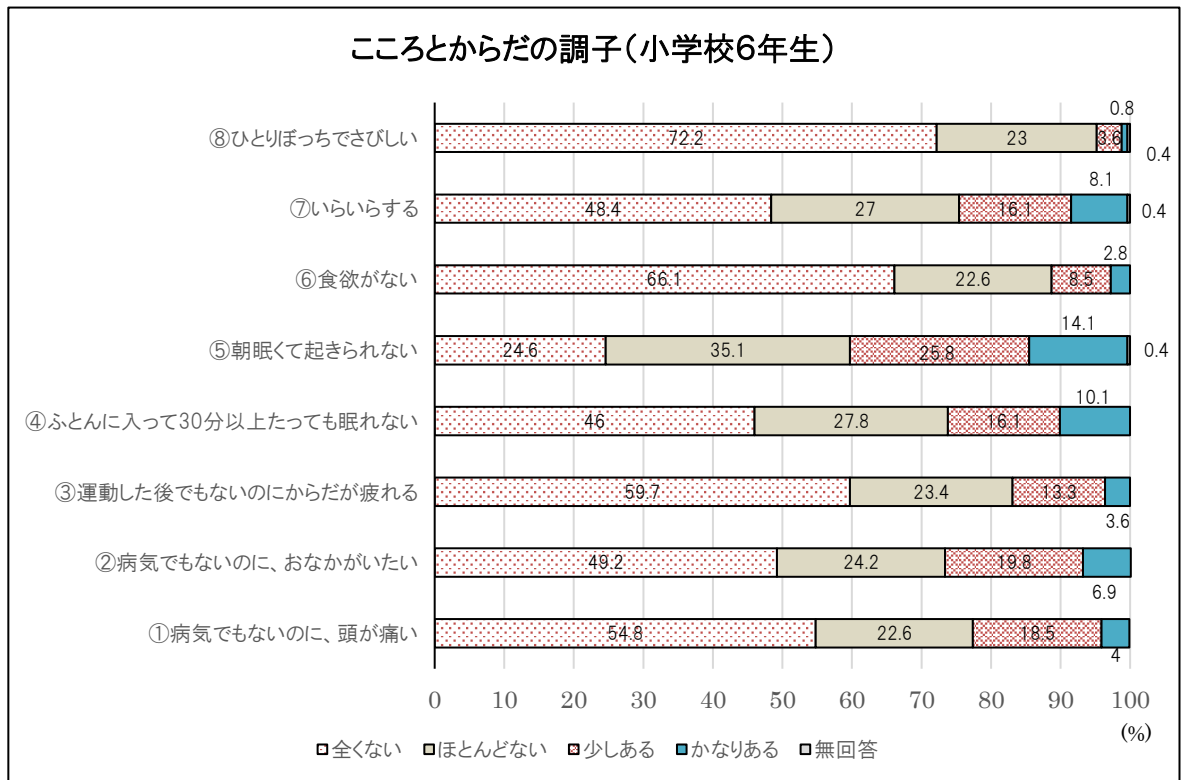
資料：令和5年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート

◆学童期

令和2年度以降、23時以降に就寝する児童が増加しており、こころとからだの調子について、「朝眠たくて起きられない」と回答する児童は40%（少しある、かなりあるの合計）をしめています。



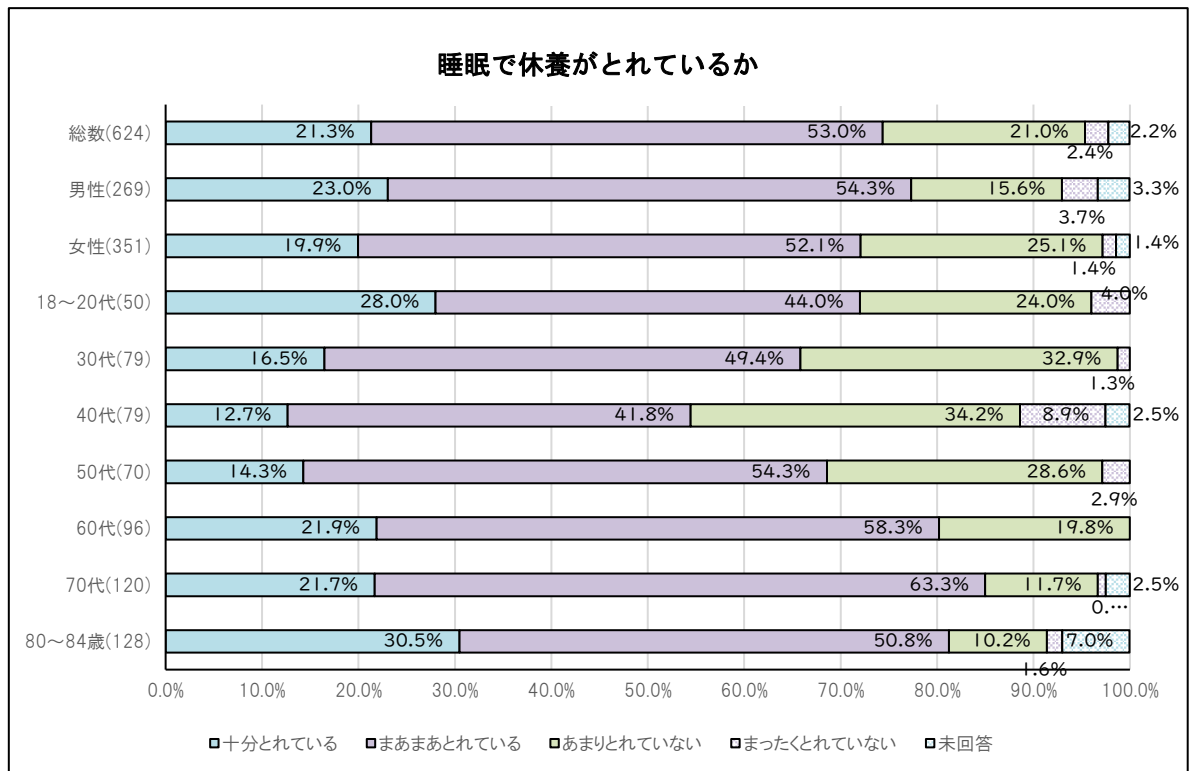
資料：度小学校6年生こころとからだの健康アンケート



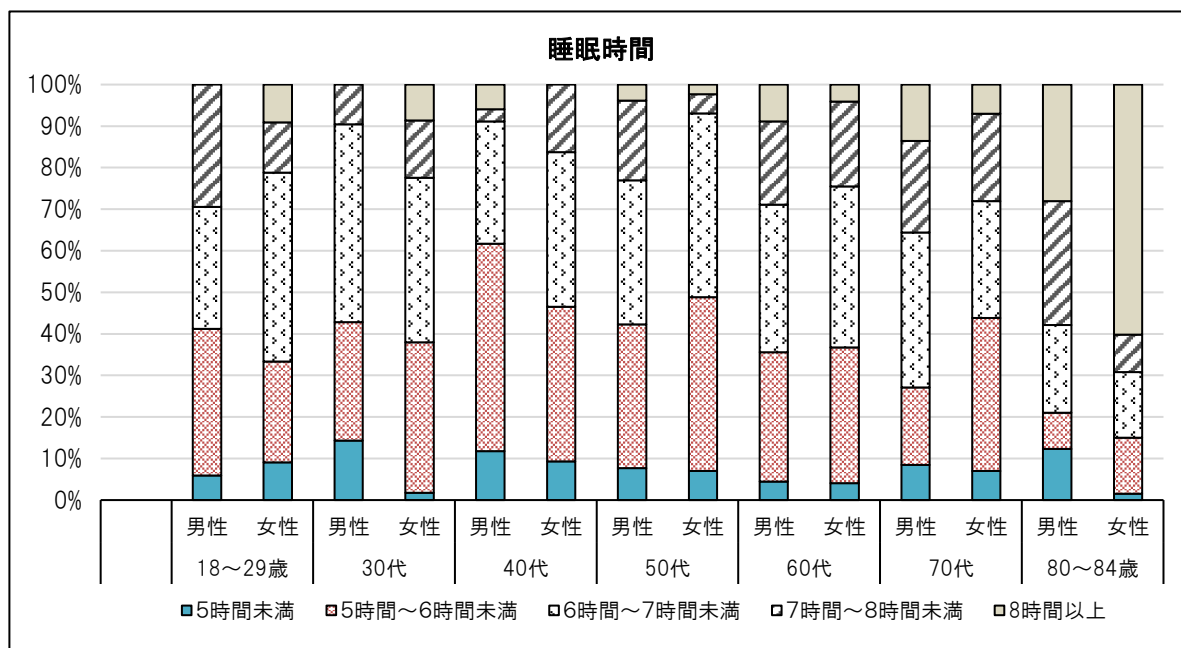
資料：令和5年度小学校6年生こころとからだの健康アンケート

◆成人期

睡眠で休養があまりとれていない、まったくとれていないと感じている人は30～50代が多く、睡眠時間が6時間未満の割合は40代の男性が最も高いです。



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査



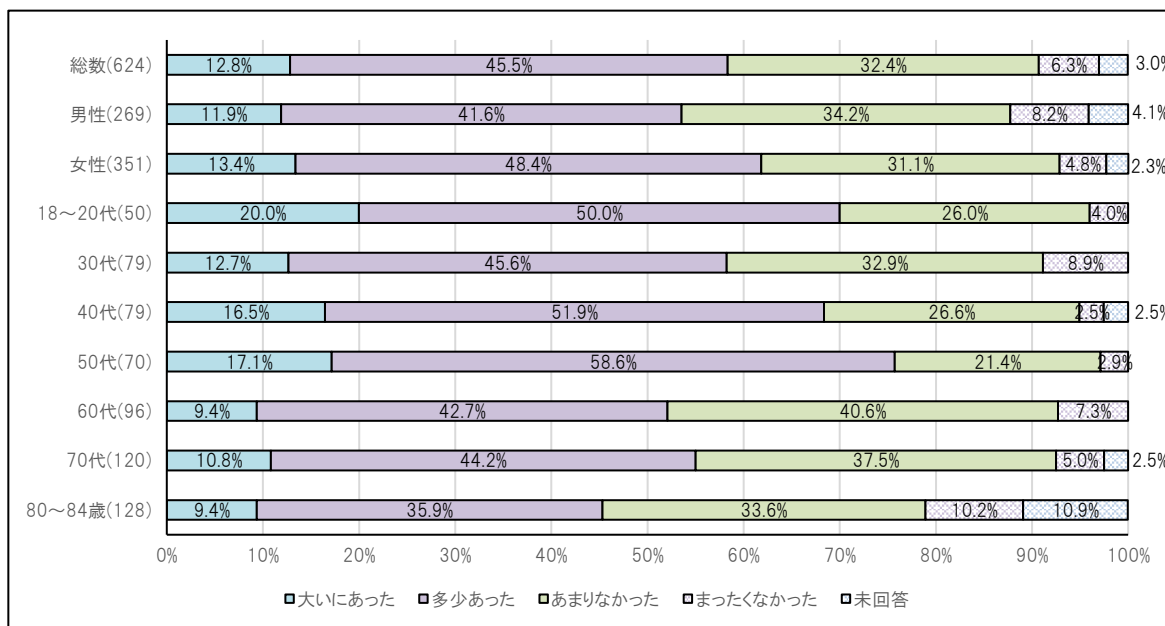
○各地区で実施している「ニコニコ健康くらぶ」の参加者からの聞き取りでは、入眠困難、中途覚醒、熟眠感が得られないなどの症状を自覚している方が多い印象。

⑤ ストレスや悩みについて

<要約> ストレスを感じている人は50代が多い
 ストレスを解消できていない人は、30代に多い

◆ストレスの有無について

ストレスを感じることが「大いにあった」人の割合は、男性と比較し女性が高く、18～20代が高くなっています。



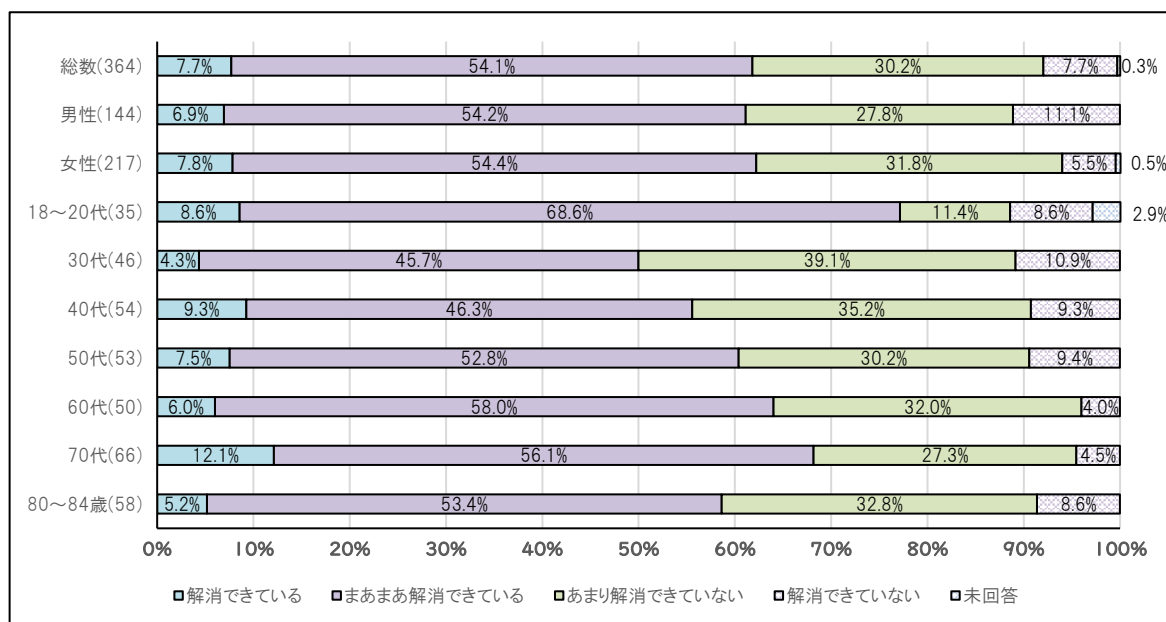
・平成29年度…ふだんストレスを感じることがありますか

・令和5年度…ここ一か月間にあなたは不満、悩み、苦労などによるストレスがありましたか

資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

◆ストレス解消について

ストレスが解消できていない人の割合は、女性と比較し男性が高く、30代が高くなっています。



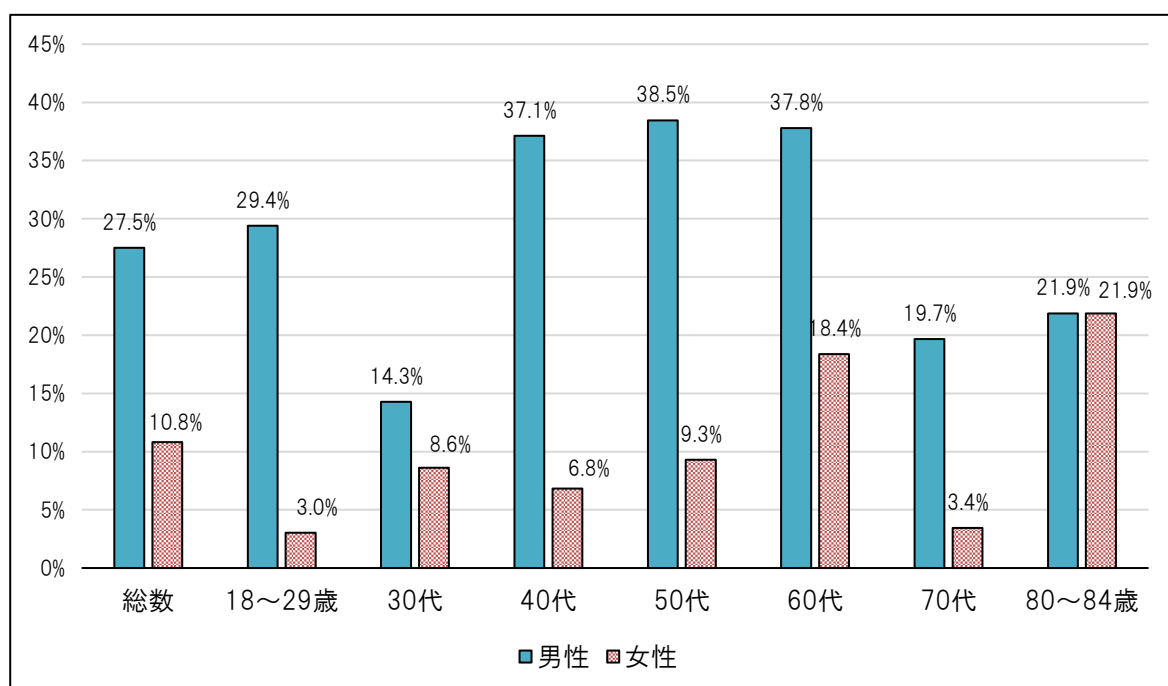
資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

⑥ 相談状況について

＜要約＞自分の気持ちを聞いてくれる人がいない人は40～60代の男性に多く、相談先を知らない人は、50～60代の男性に多い

◆自分の気持ちを聞いてくれる相手がない人の割合

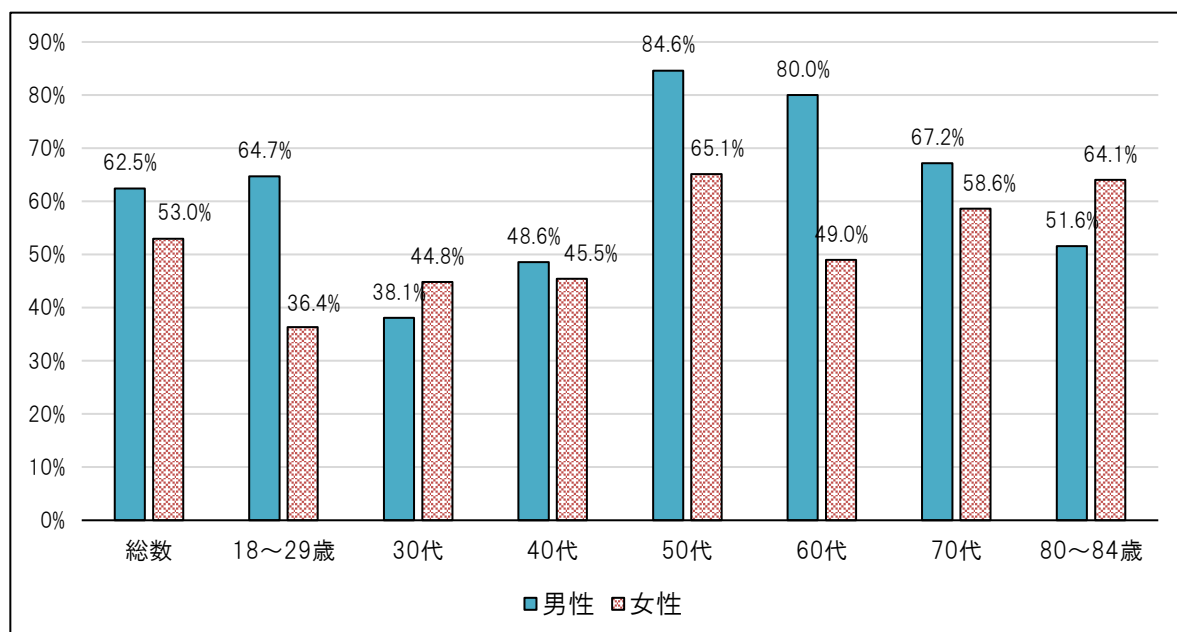
自分の気持ちを聞いてくれる人がいない人の割合は、40～60代の男性が高くなっています。



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

◆心の健康や心の病気について相談できる所（相談窓口）を知らない人の割合

心の健康や心の病気について相談できる所（相談窓口）を知らない人の割合は、50、60代の男性が高くなっています。



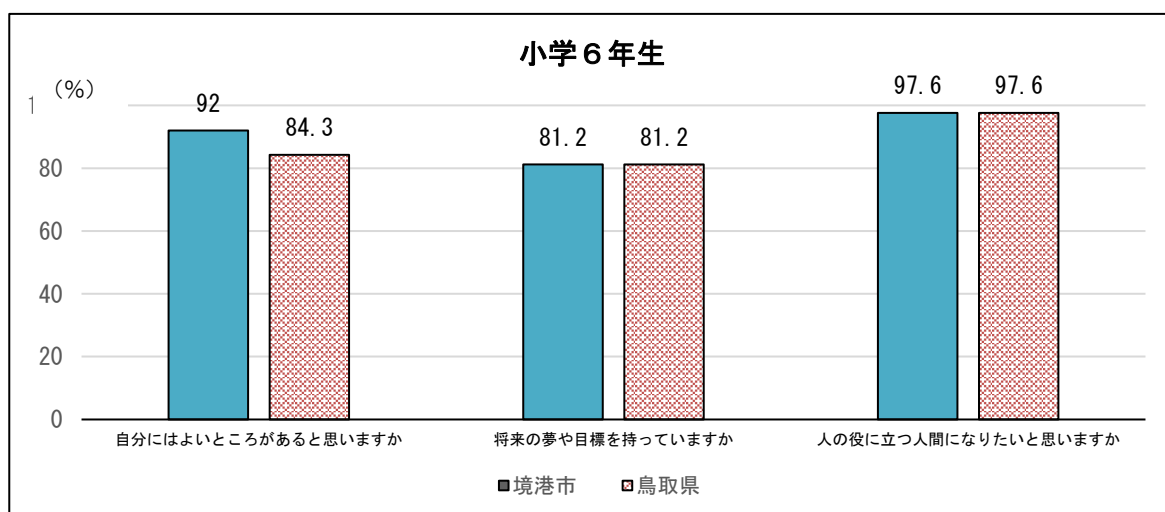
資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

⑦ 自己肯定感や役立ち感について

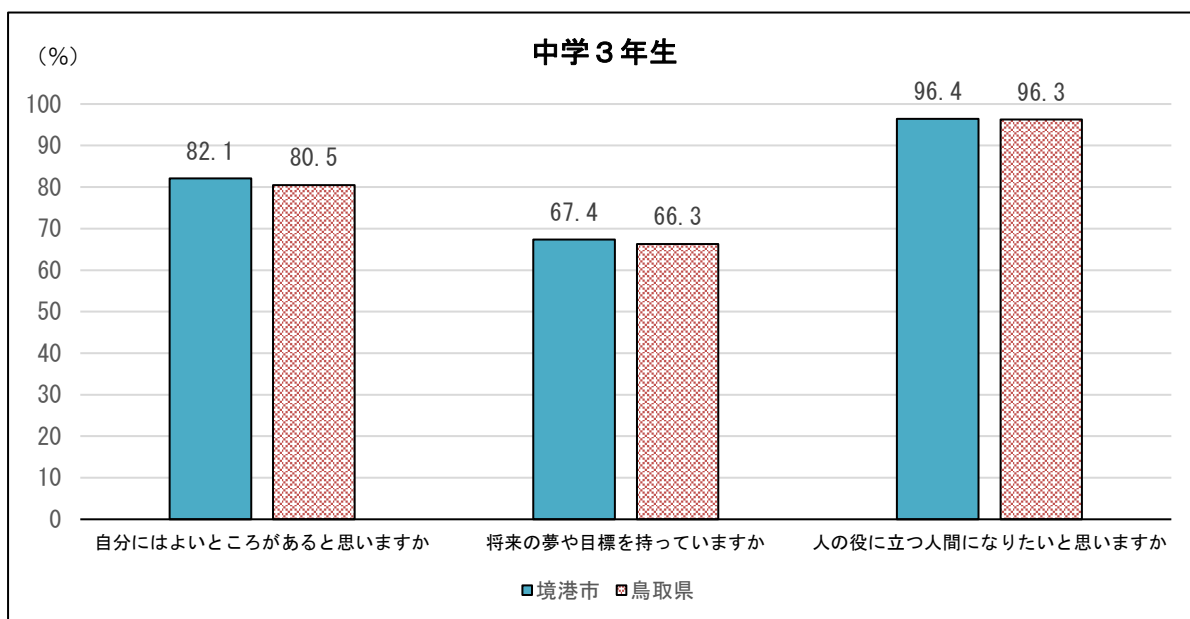
＜要約＞児童の自己肯定感や自己役立ち感は県平均を上回っており、自分の悩みを話せる人がいると、自己肯定感や役立ち感が強い傾向にある

◆小学6年生、中学3年生の自己肯定感や役立ち感の状況（「はい」と回答した人の割合）

小学6年生、中学3年生の「自分にはよいところがありますか」の自己肯定感や自己役立ち感の状況は、県と比較し高くなっています。



資料：令和5年度全国学力・学習状況調査



資料：令和5年度全国学力・学習状況調査

◆自己肯定感や自己役立ち感と悩みを話せる人との関係について

自分の悩みを話せる人が多くいる人は、自己肯定感や自己役立ち感が強い傾向が見られます。

自己肯定感や自己役立ち感		合計	とても弱い	弱い	強い	とても強い
	合計	248	32	73	78	65
		100.0%	12.9%	29.4%	31.5%	26.2%
自分のなやみなどを話せる人(○の数)	いない	9	4	3	2	0
		100.0%	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%
	1～2人	102	12	34	31	25
		100.0%	11.8%	33.3%	30.4%	24.5%
	3人	67	9	15	25	18
		100.0%	13.4%	22.4%	37.3%	26.9%
	4人以上	70	7	21	20	22
		100.0%	10.0%	30.0%	28.6%	31.4%

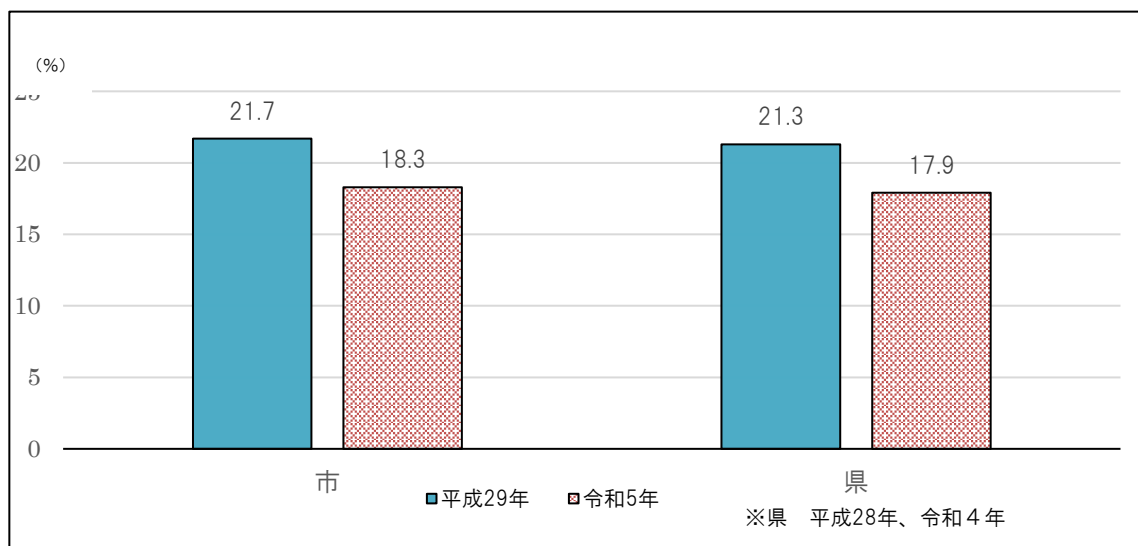
資料：令和5年度小学校6年生こころとからだの健康アンケート

⑧ 知識について

＜要約＞うつ病についてよく知っている人は、県よりも高い割合となっているが、平成 29 年より減少。7 割以上の人が、ゲートキーパーについて、言葉も意味も知らないと回答している

◆うつ病の症状について「よく知っている」と回答した人の割合

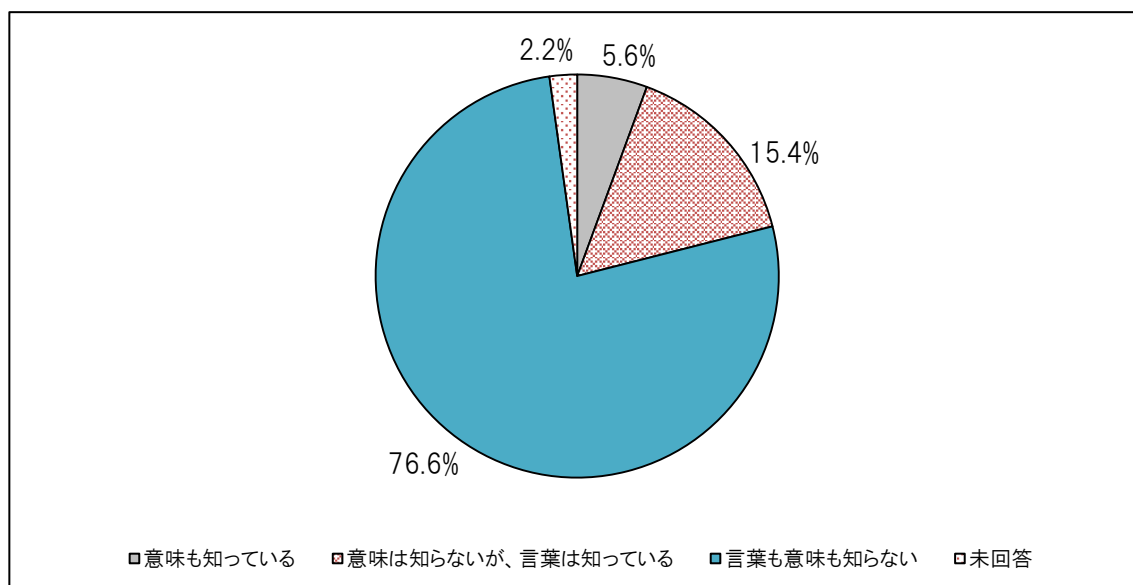
うつ病の症状についてよく知っている人の割合は、平成 29 年と比較し減少しており、県と比較して高くなっています。



資料：【市】健康づくりに関するアンケート調査 【県】県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査

◆ゲートキーパーを知っているか

ゲートキーパーについて「言葉も意味も知らない」と回答した人が7割以上います。



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

※参考（国：内容まで知っていた 3.1%、内容は知らなかったが言葉は聞いたことがある 9.2%、知らなかった 85.3%

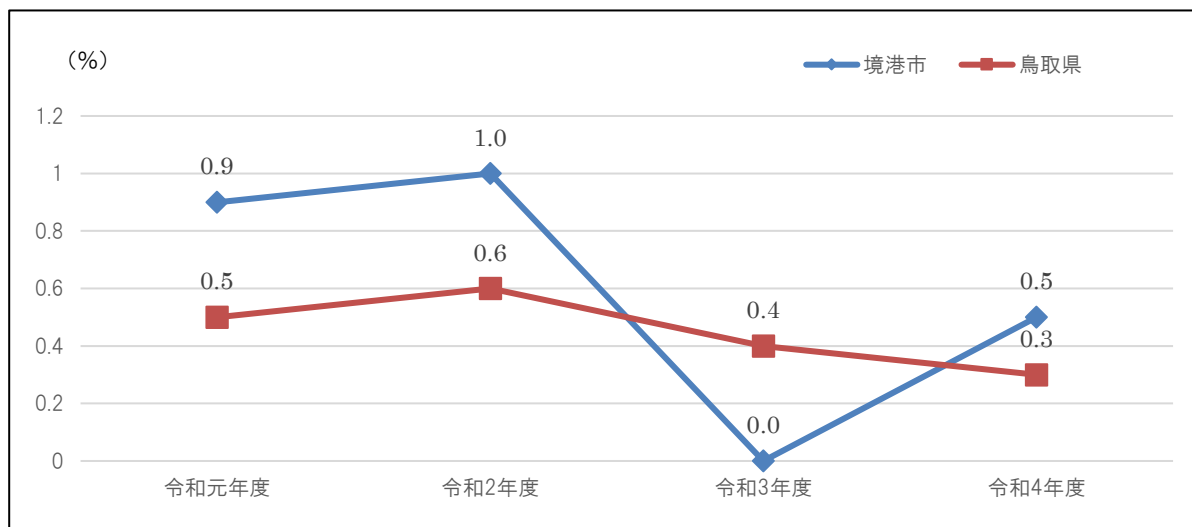
(4) 飲酒・喫煙

＜要約＞妊娠中の飲酒者の割合は県より高い傾向。30代を除いて一時多量飲酒の割合が高く、正しい適正量を認識している人が約半数と減少傾向

① 飲酒について

◆妊娠中の飲酒者の割合

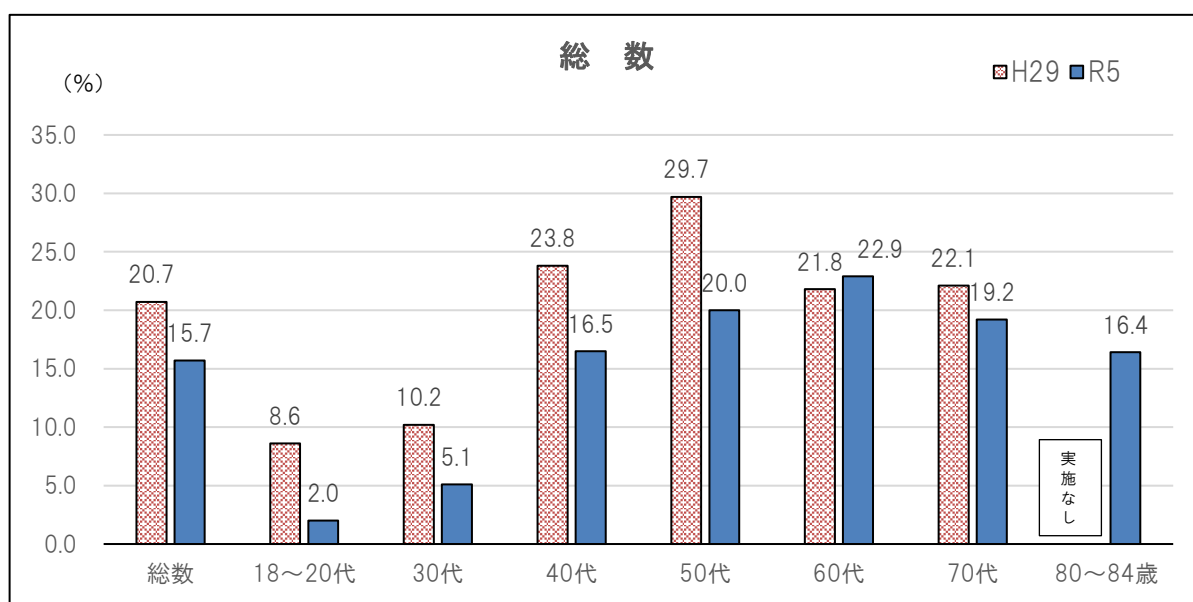
妊娠中に飲酒をしている人の割合は、県と比較すると高い傾向が見られます。



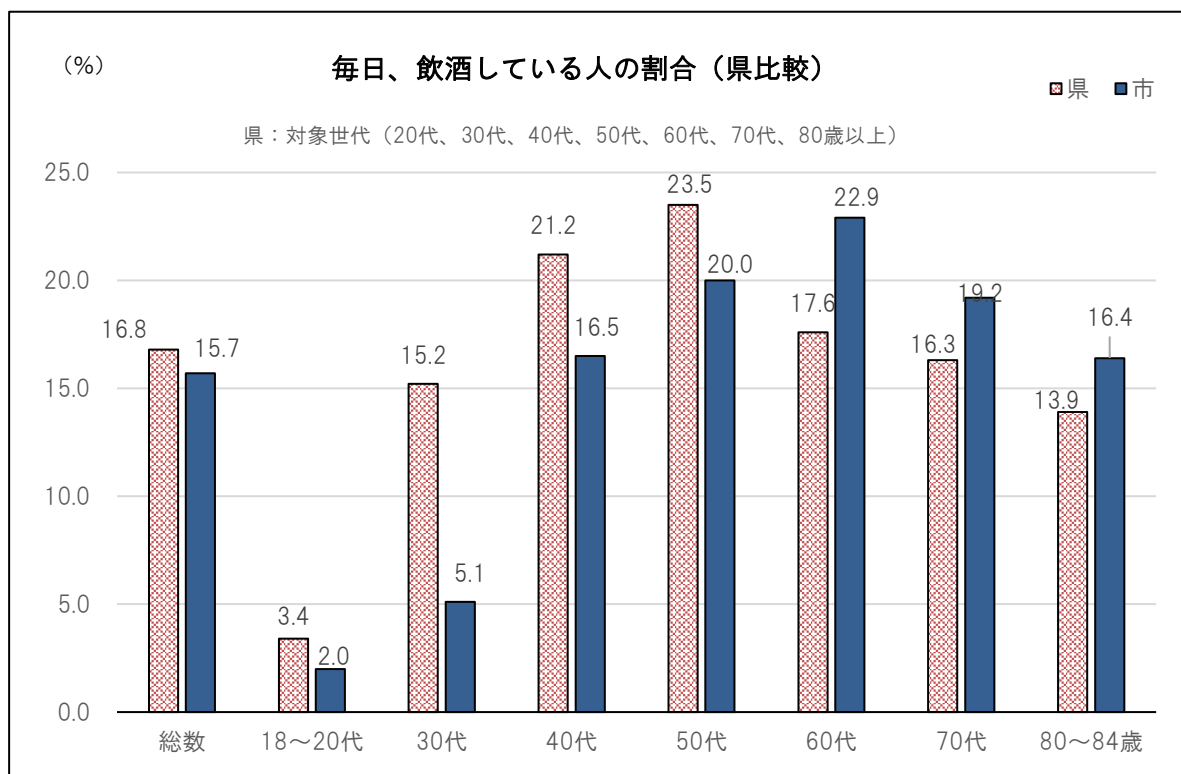
資料：境港市3・4か月児健康診査表及び鳥取県アルコール健康障害・依存症対策推進計画

◆毎日、飲酒している人の割合

毎日、飲酒している人の割合は、平成29年度と比較すると、減少しています。特に若い世代で減少割合が高い状況です。また、県と比較しても低い状況です。



資料：平成29年度、令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

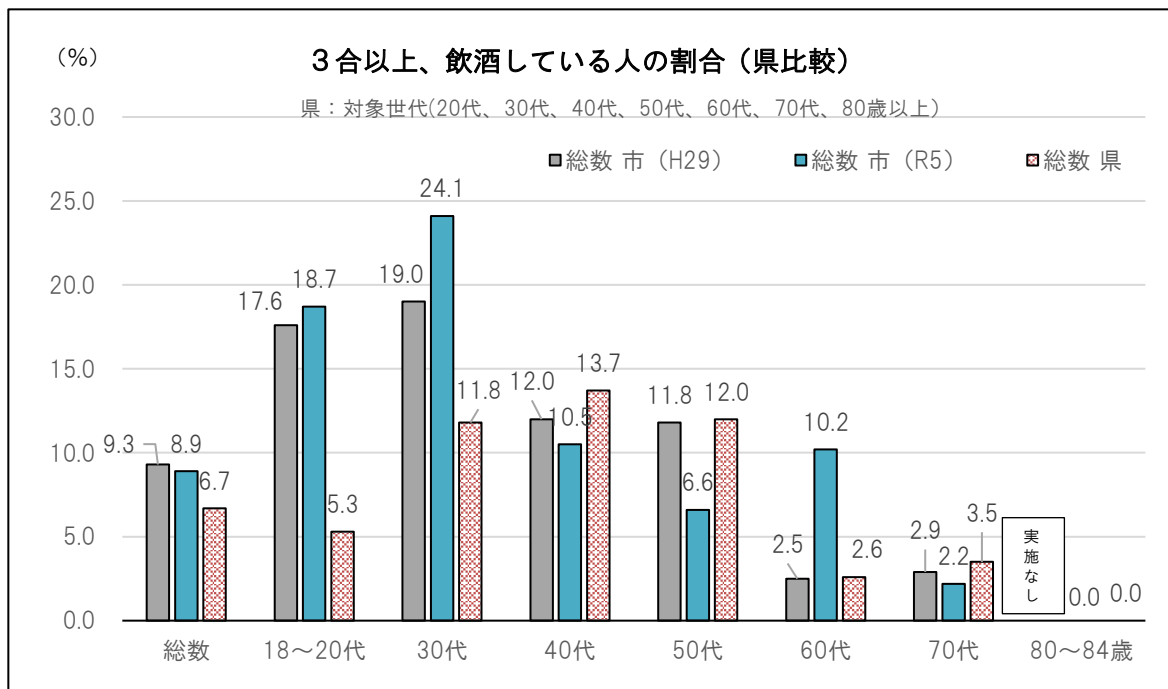


資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査及び

令和4年（第8回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果

◆ 3合以上飲酒する割合

3合以上飲酒している人の割合は、平成29年度と比較し、18～20代、30代、60代で増えています。18～20代、30代、60代では、県より高い割合となっています。



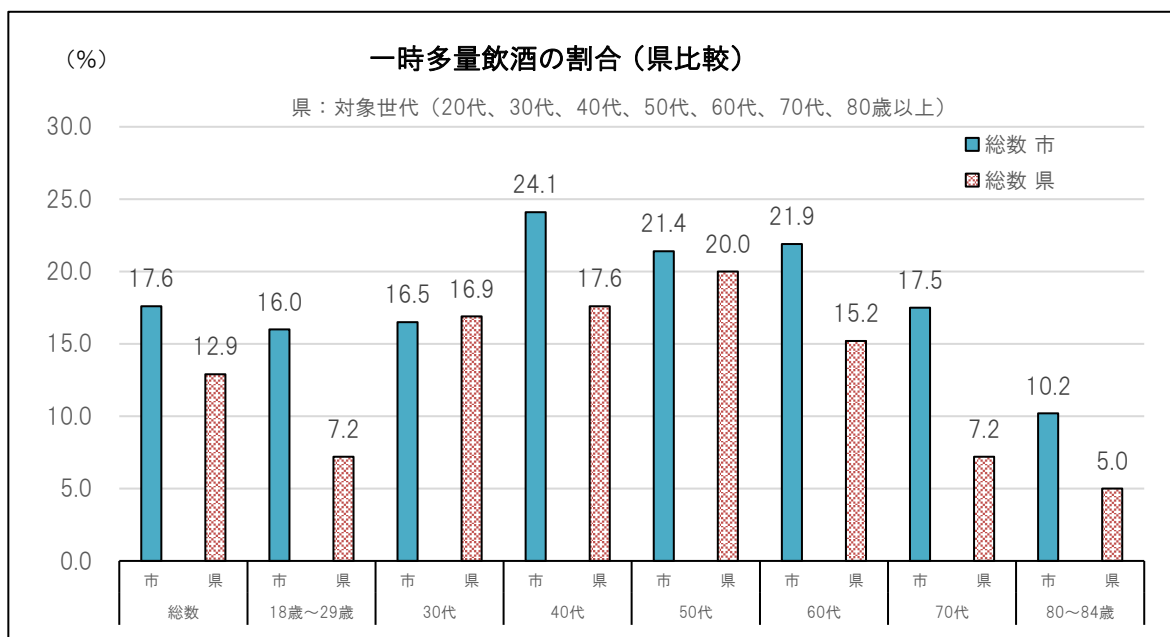
資料：平成29年度、令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

令和4年（第8回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果

◆一時多量飲酒の割合

※過去 30 日間で一度に純アルコール量 60g 以上の飲酒を行った者

一時多量飲酒の割合は、30 代を除いて、県と比較し高い傾向にあります。

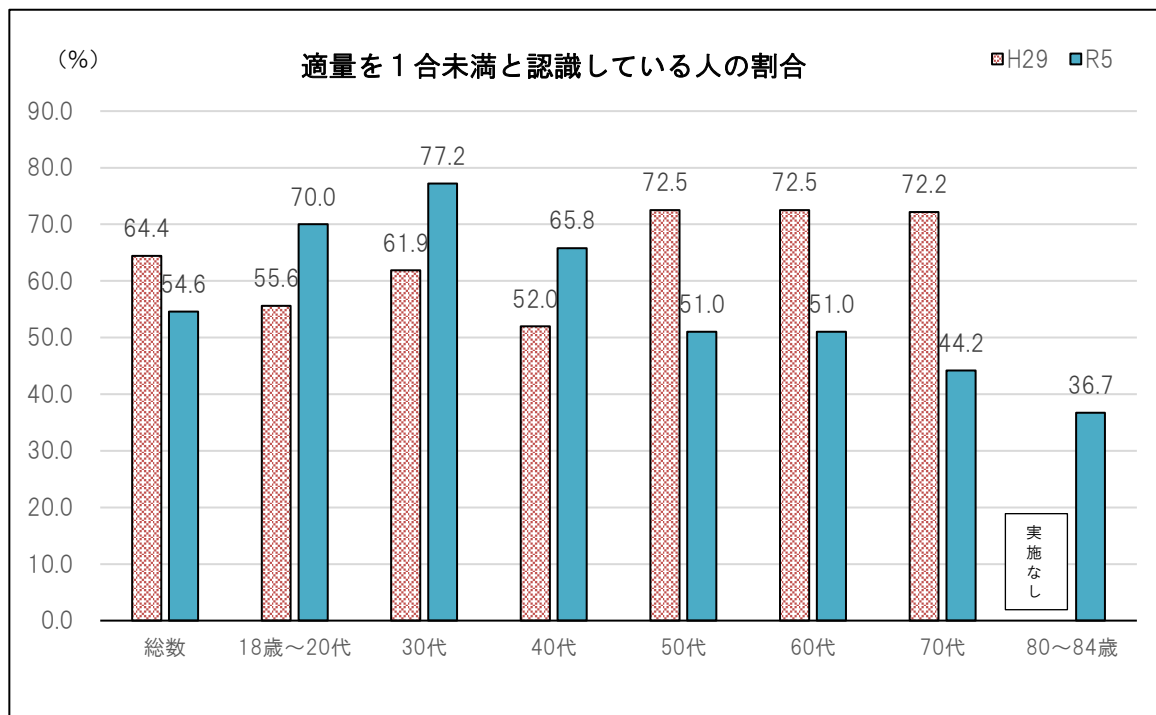


資料：令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査

令和 4 年（第 8 回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果

◆飲酒量の適量を 1 合未満と認識している割合

飲酒量の適量を 1 合未満と認識している人の割合は、平成 29 年度と比較し、50 代以上で減少しています。



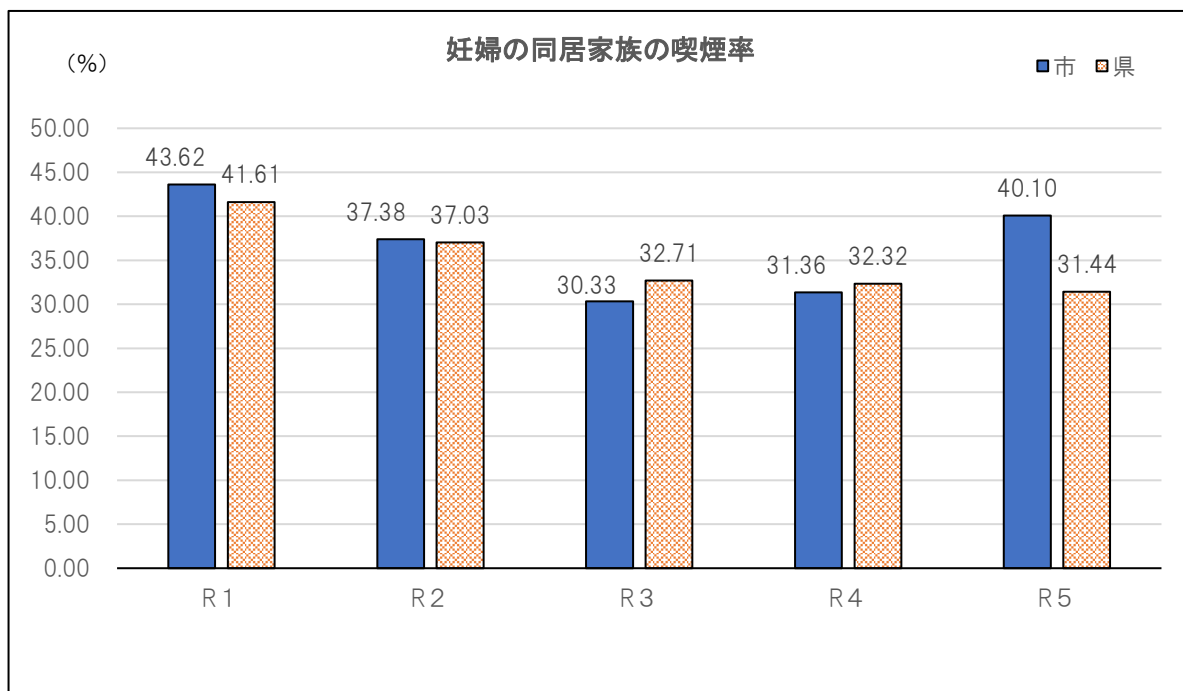
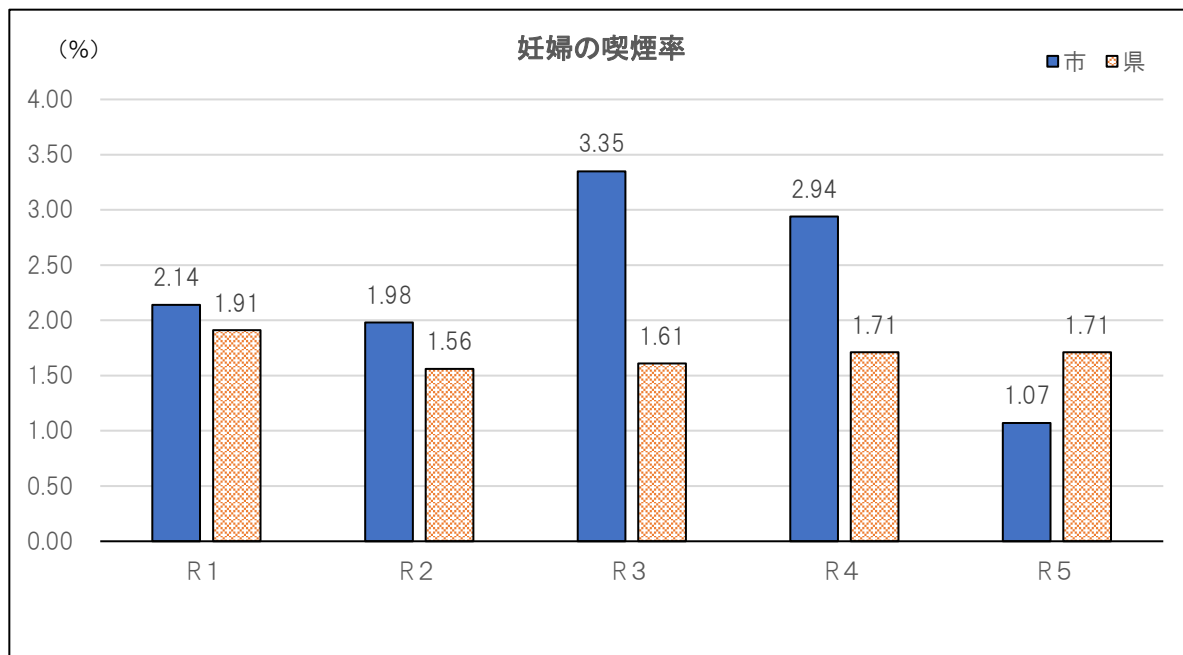
資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート調査

② 喫煙

＜要約＞妊婦の喫煙率は減少。妊婦の同居家族の喫煙率は減少傾向であったが、令和４年度以降増加

◆妊婦および妊婦家族の喫煙状況

妊婦の喫煙率は、減少傾向にあり、令和５年度は県と比較し低い状況です。妊婦の同居家族の喫煙率は、減少傾向にありましたが、本市では令和４年度から増加しています。

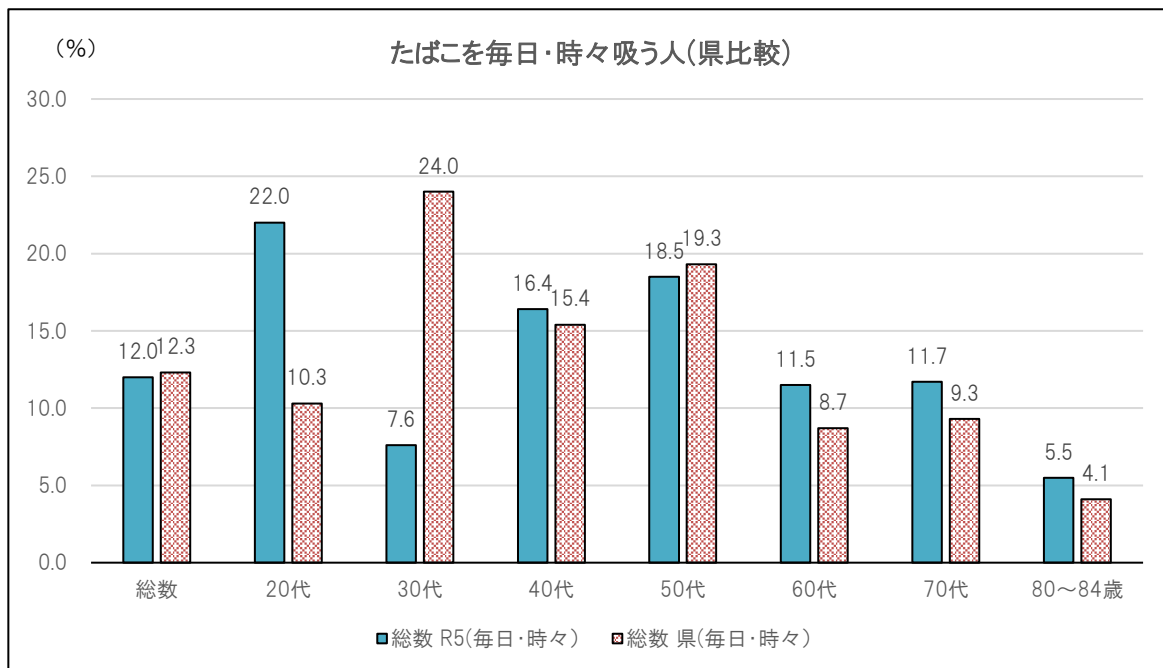


資料：健康づくり推進課（母子手帳交付時）、鳥取県健康政策課

◆喫煙状況

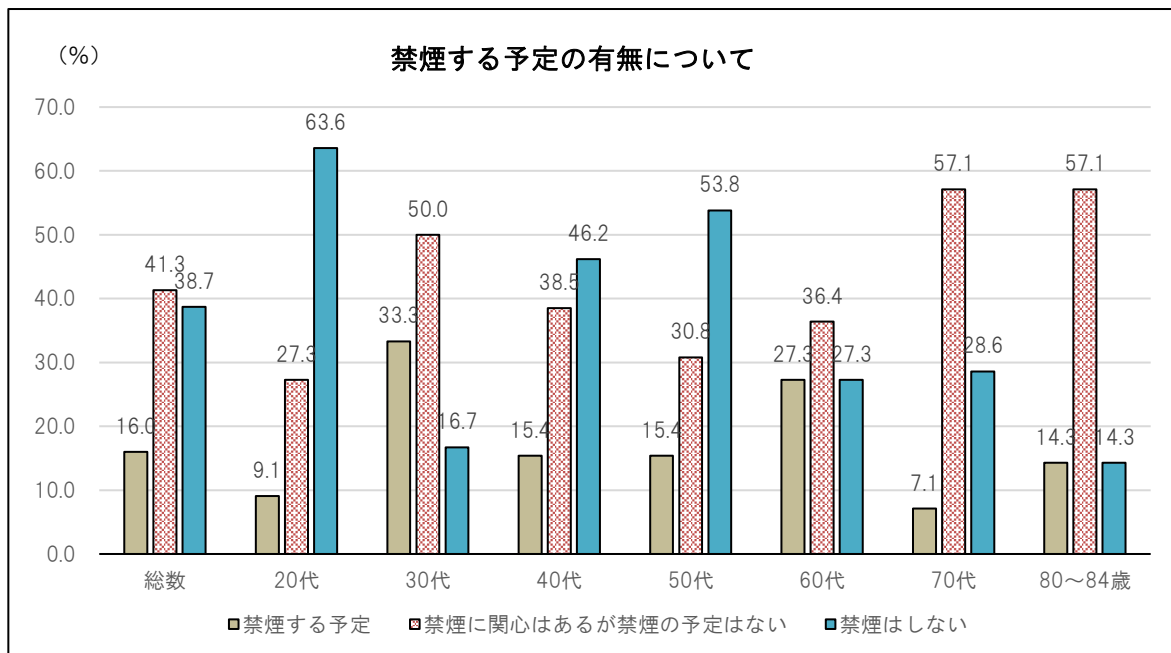
＜要約＞喫煙率は、県と比較し、20代40代が高く、禁煙の意識も低い。未成年者や妊婦のいるところで吸わない割合が30代、40代が低い

たばこを毎日、時々吸う人の割合は、県と比較し、20代、40代が高くなっています。また、20代、40代は禁煙する予定はないと回答した人の割合が高くなっています。

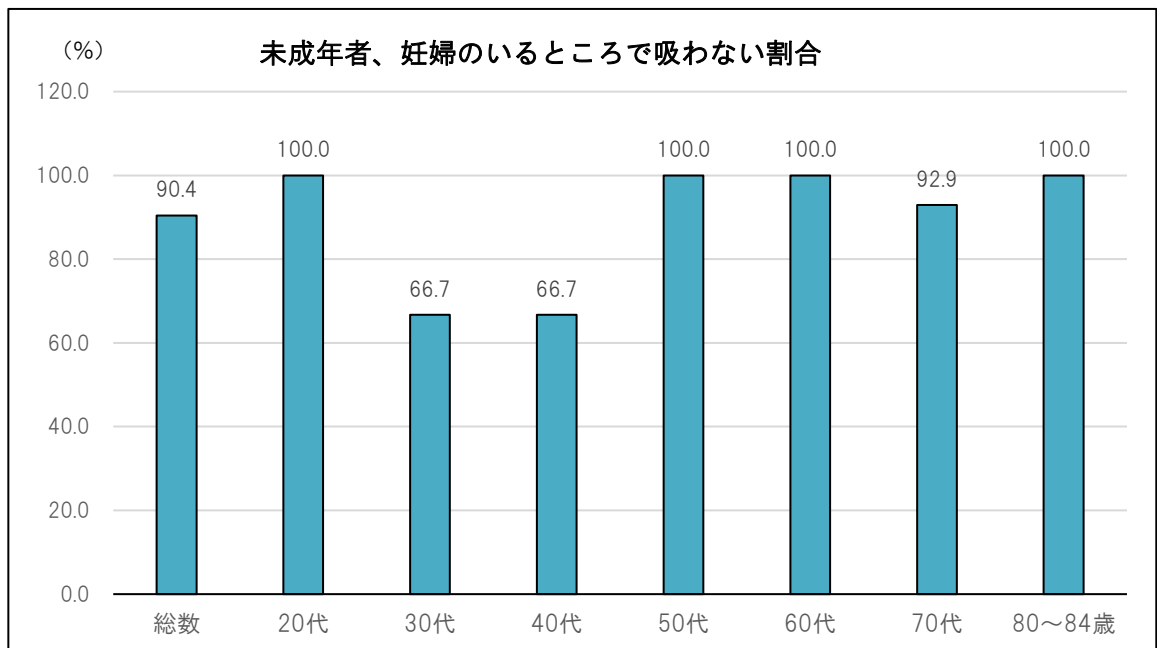


資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

令和4年（第8回）県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査結果



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

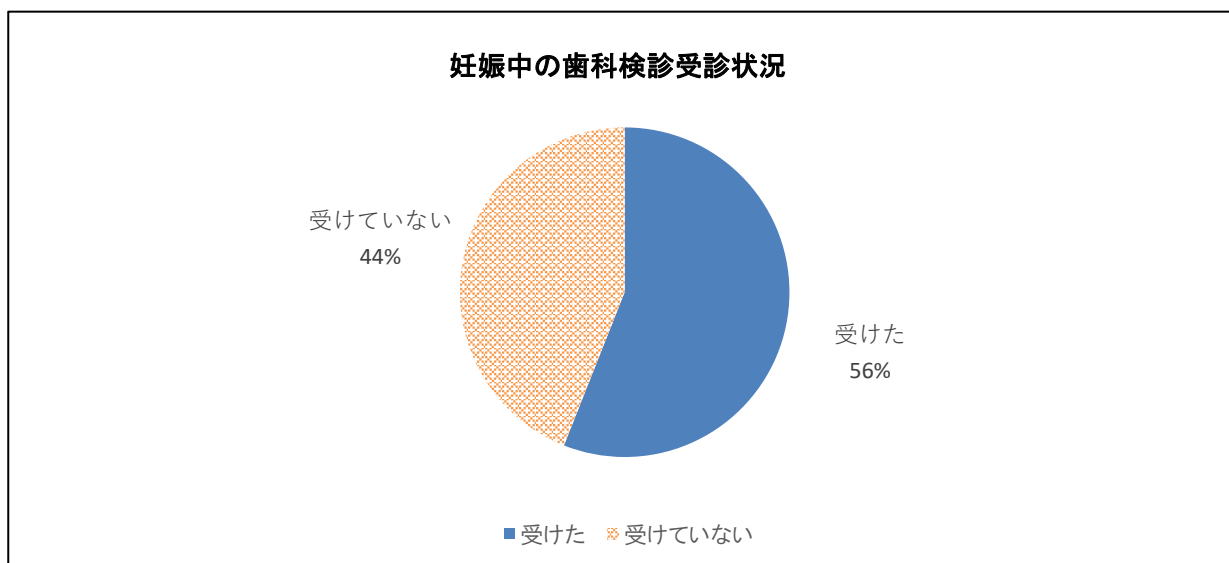
(5) 歯・口腔

① 妊娠中～中学生までの歯科の現状

＜要約＞口腔トラブルが発生しやすい妊娠期に歯科検診を受診していない人は約 4 割いる
むし歯のない子どもの割合は増加傾向だが、1 歳 6 か月から 3 歳、3 歳から 4 歳にかけてむし歯のある子どもの割合が増えている
永久歯に生え変わる中学生でのむし歯罹患率が県より高くなっている

◆妊娠中の歯科検診の受診状況

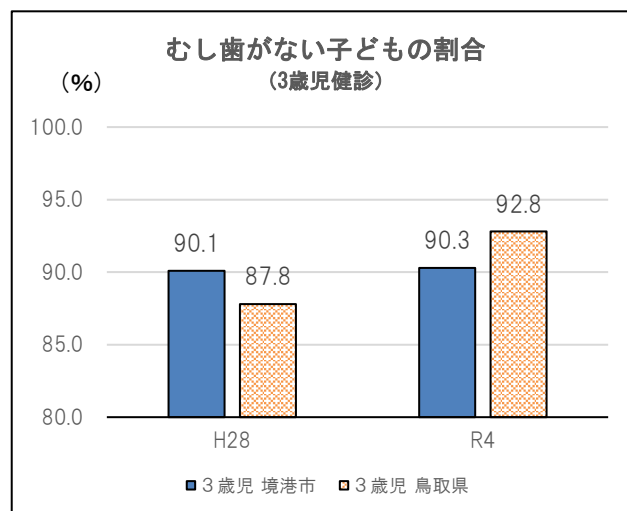
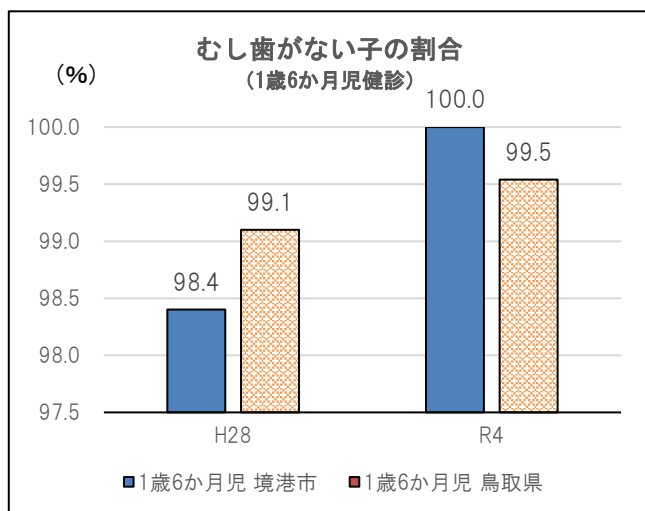
妊娠中に歯科検診を受診していない人は約 4 割となっています。



資料：令和 6 年度本市の歯科保健に関するアンケート調査（20 代～40 代女性）

◆むし歯のない子どもの割合

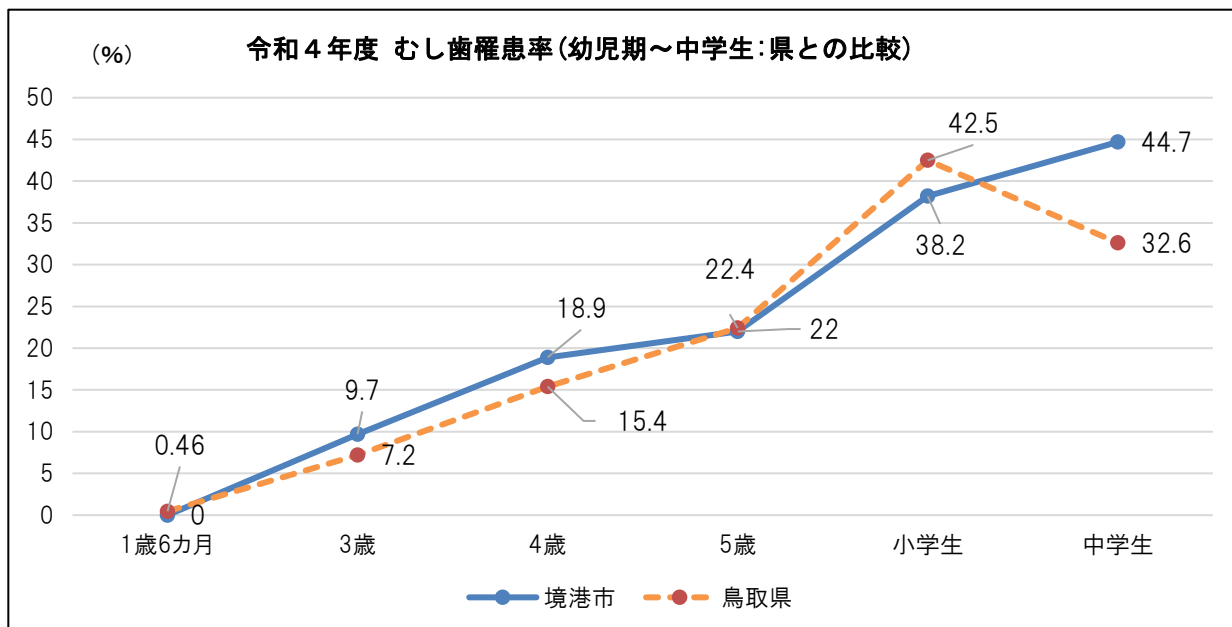
1 歳 6 か月児及び 3 歳児の歯科健診の結果から、むし歯のない子どもの割合を H28 年と令和 4 年で比較すると高い水準でほぼ横ばいの状況です。令和 4 年度では 1 歳 6 か月児健診でむし歯のない子どもの割合は 100%でした。



資料：1 歳 6 か月児及び 3 歳児の歯科健康診査結果

◆むし歯罹患率（幼児期～学齢期:県との比較）

幼児期から年齢が上がるにつれ、むし歯罹患率は増加しています。
 県平均では大人の歯に生えかわる中学生から減少しますが、境港市では中学生の永久歯においてもむし歯罹患率が高くなっています。



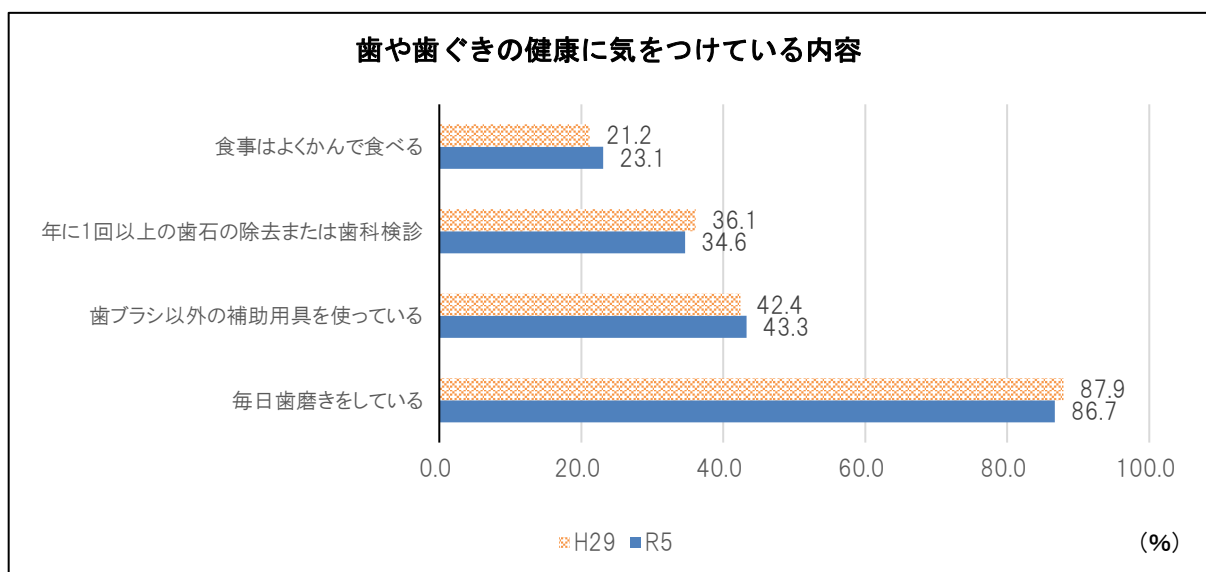
資料: 鳥取県西部地域歯科保健推進協議会資料

② 歯に関する意識・取り組み等

＜要約＞歯や歯ぐきの健康に気を付けている人の割合は、H29と比較するとほとんどの項目で増加したが、毎日歯磨きをしている人の割合は減少
20～40代で、かかりつけ歯科医を持つ人の割合は約7割、年1回歯科検診を受けている人の割合は約5割

◆歯や歯ぐきの健康に気を付けている内容（H29 比較）

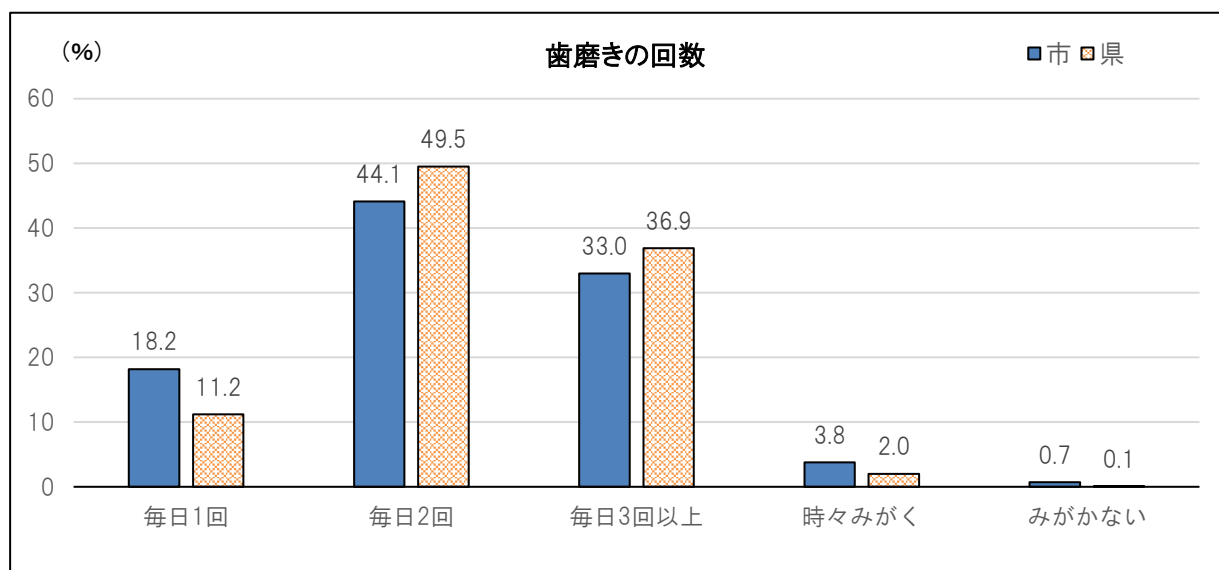
H29と比較すると、毎日歯磨きをしている以外の項目において、気を付けていると回答する人の割合は増加しています。



資料：平成29年度、令和5年度健康づくりに関するアンケート調査

◆歯磨きの回数（市・県比較）

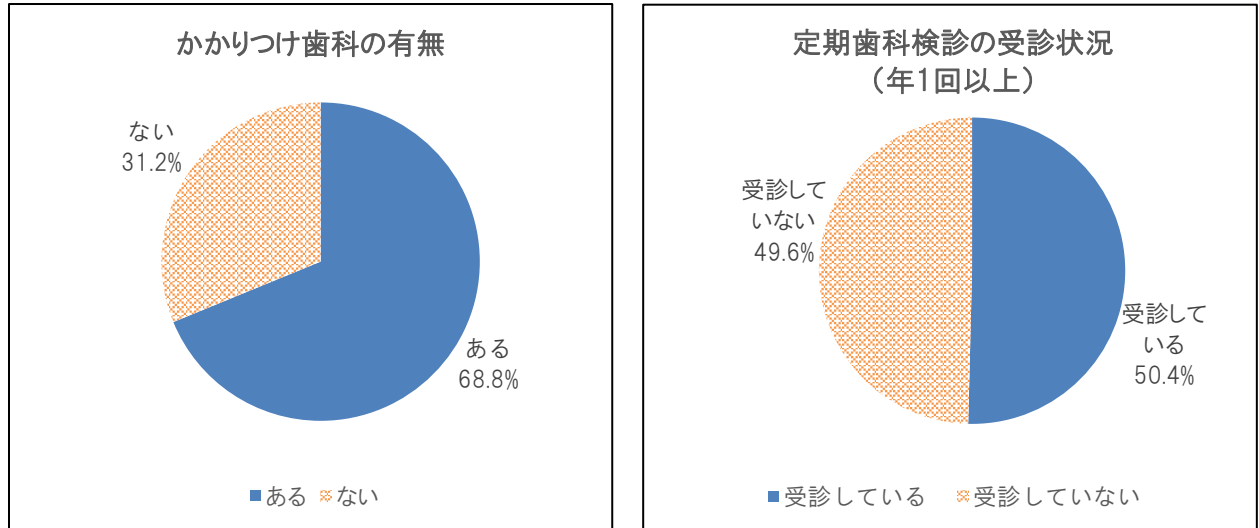
歯磨きの回数について、毎日2回、毎日3回磨く項目において、県と比較すると割合が低くなっています。



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート調査、令和4年度県民歯科疾患実態調査

◆20～40 代の現状

20～40 代でかかりつけ歯科医を持つ人は約 7 割弱で、20～40 代で年 1 回以上歯科検診を受けている人は約 5 割となっています。



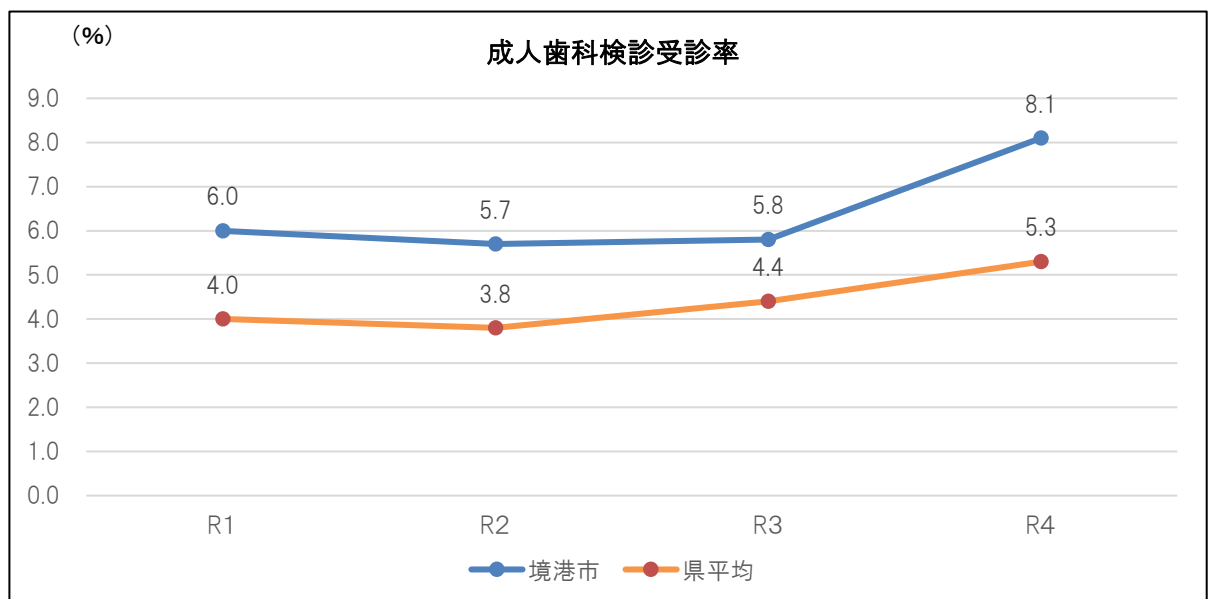
資料：令和 6 年度本市の歯科保健に関するアンケート調査（20 代～40 代女性）

③ 成人・高齢者の現状

＜要約＞要精密検査になった者の割合は、全体で約 7 割。特に 40 代・60 代男性が高く、女性は 40 代で約 6 割、その後年齢が上がるにつれて割合が高くなる

◆成人歯科検診受診率（県比較）

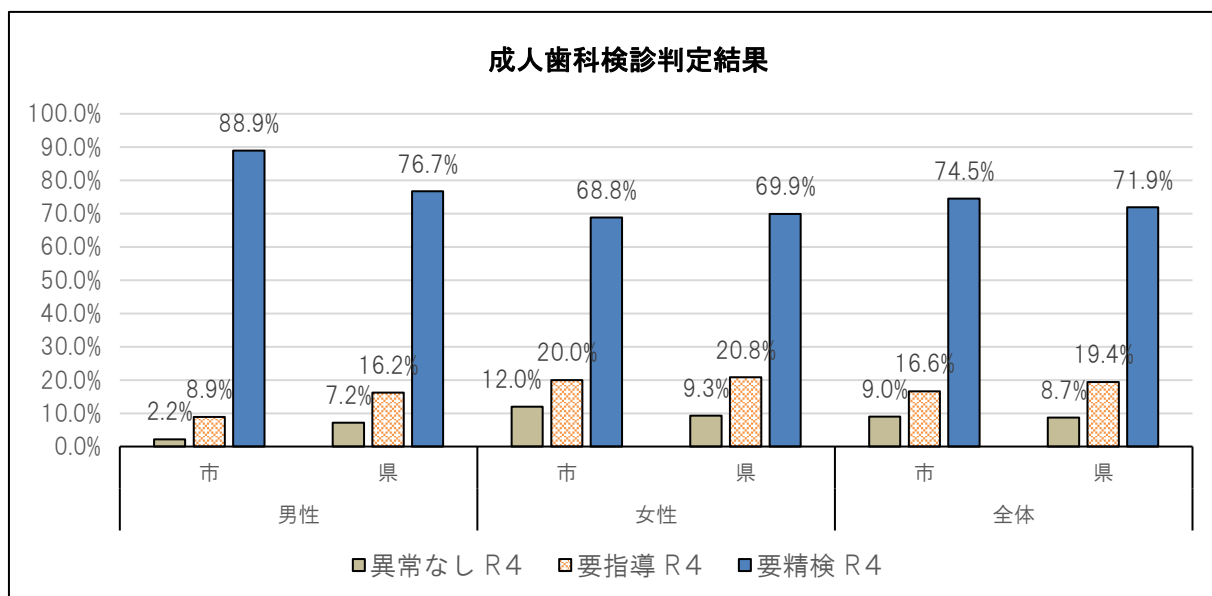
成人歯科検診受診率は県平均を上回っています。



資料：歯周病検診結果

◆成人歯科検診結果（県比較）

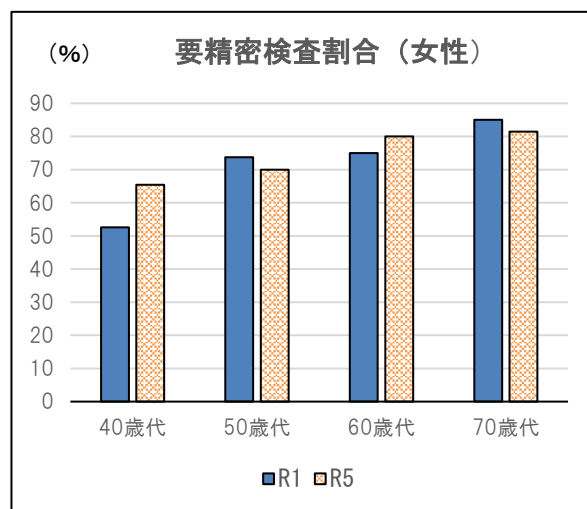
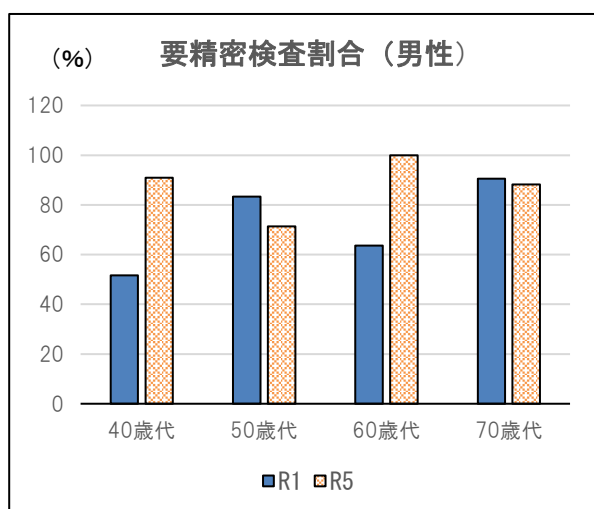
成人歯科検診の結果から、約7割の受診者が要精密検査となっています。



資料：歯周病検診結果

◆成人歯科検診結果

特に40代・60代男性が高く、女性は40代で6割弱、その後年齢が上がるにつれて割合が高くなっています。

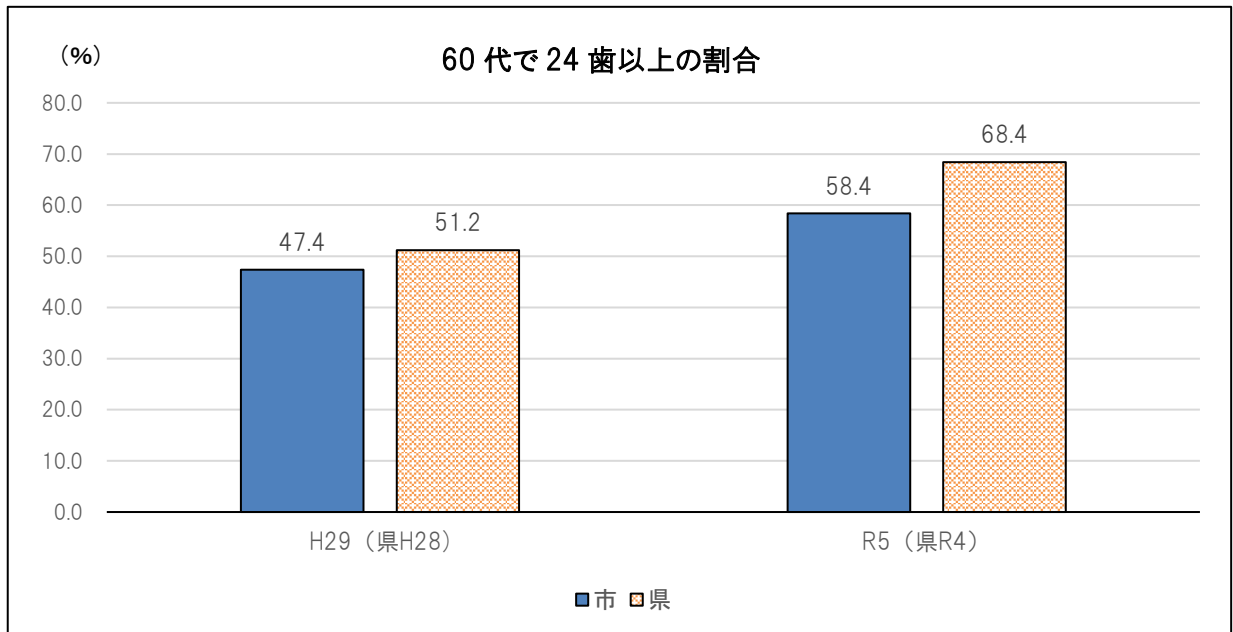


資料：歯周病検診結果

④ 60代で24歯以上の割合（県比較）

<要約>60代で24歯以上の割合はH29と比較し増加したが、県と比較し低い

60代で24歯以上の割合はH29と比較し増加していますが、県と比較し低い状況です。



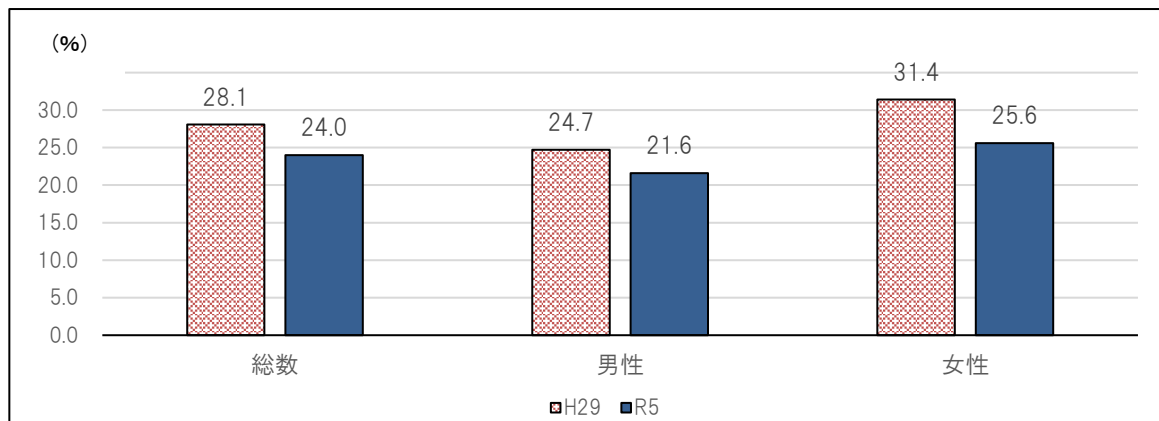
資料：平成29年度、令和5年度健康づくりに関するアンケート調査、令和4年度県民歯科疾患実態調査

(6) 生きがい・社会参加

＜要約＞平成 29 年と比較すると、「誰かのために何かをしたい」と回答した人が減少。

① 誰かのために何かをしたいと思う人の割合（H29 比較）

誰かのために何かをしたいと思う人の割合は、平成 29 年と比較して、男女ともに減少しています。



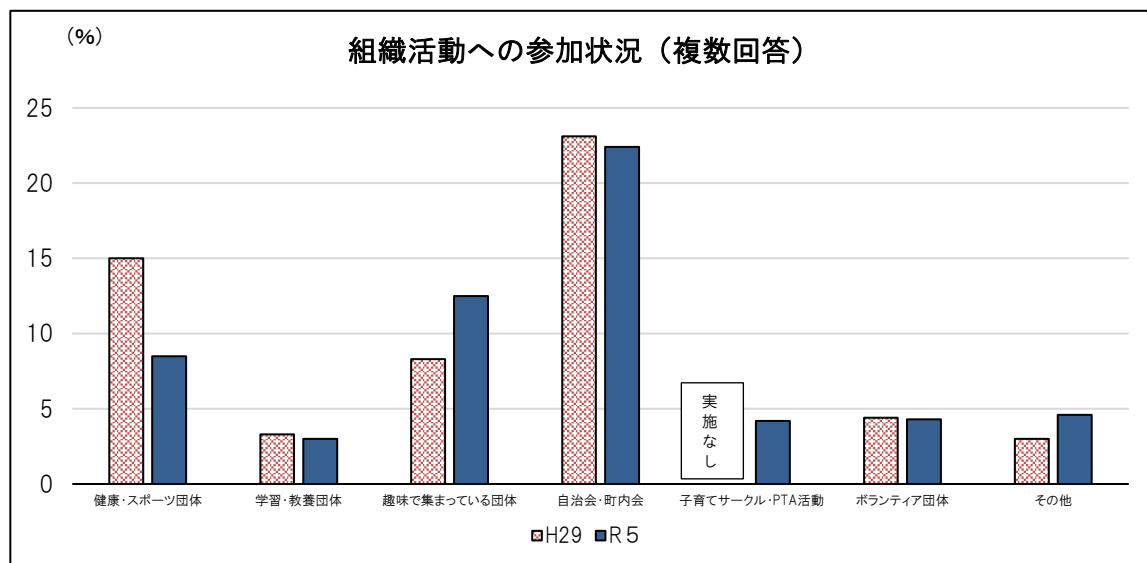
資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート

② 組織活動への参加状況

＜要約＞何かしらの組織活動に参加していないと思われる人は約 5 割。「自治会活動」が多く、平成 29 年より増加したのは、「趣味で集まっている団体」

◆組織活動の参加状況

未回答者が全体の 5 割以上おり、何かしらの組織活動に参加していないことが予測されます。活動内容として一番多いのは、「自治会活動」であり、平成 29 年から増加したのは、「趣味で集まっている団体」です。

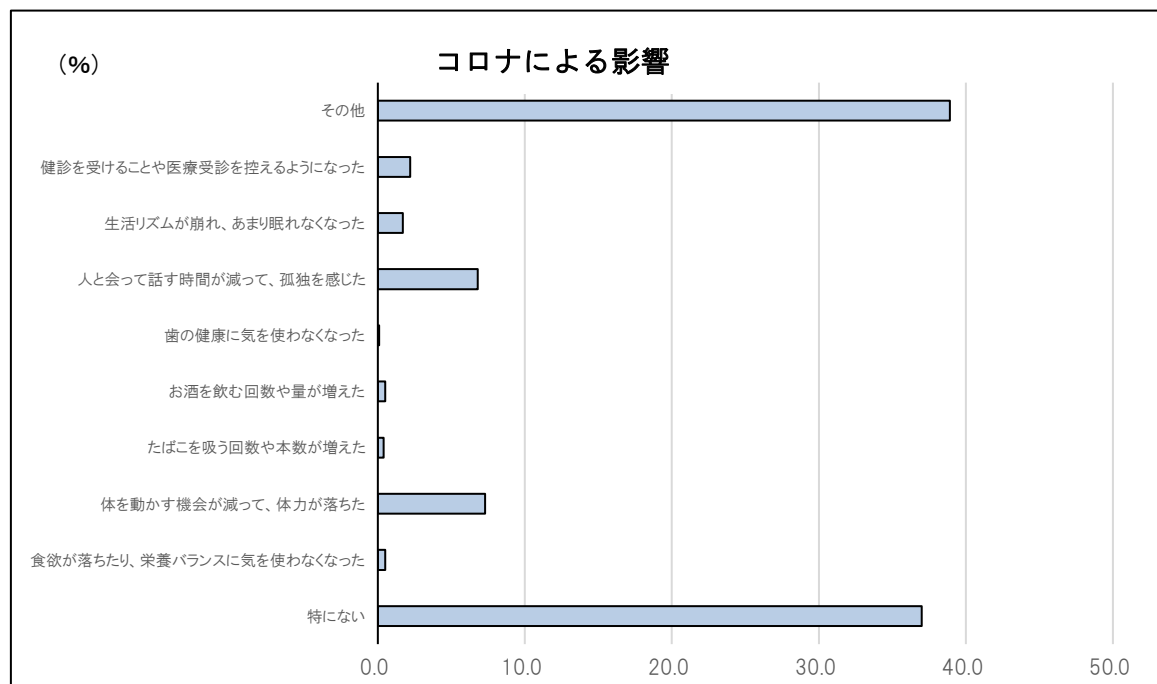


資料：平成 29 年度、令和 5 年度健康づくりに関するアンケート

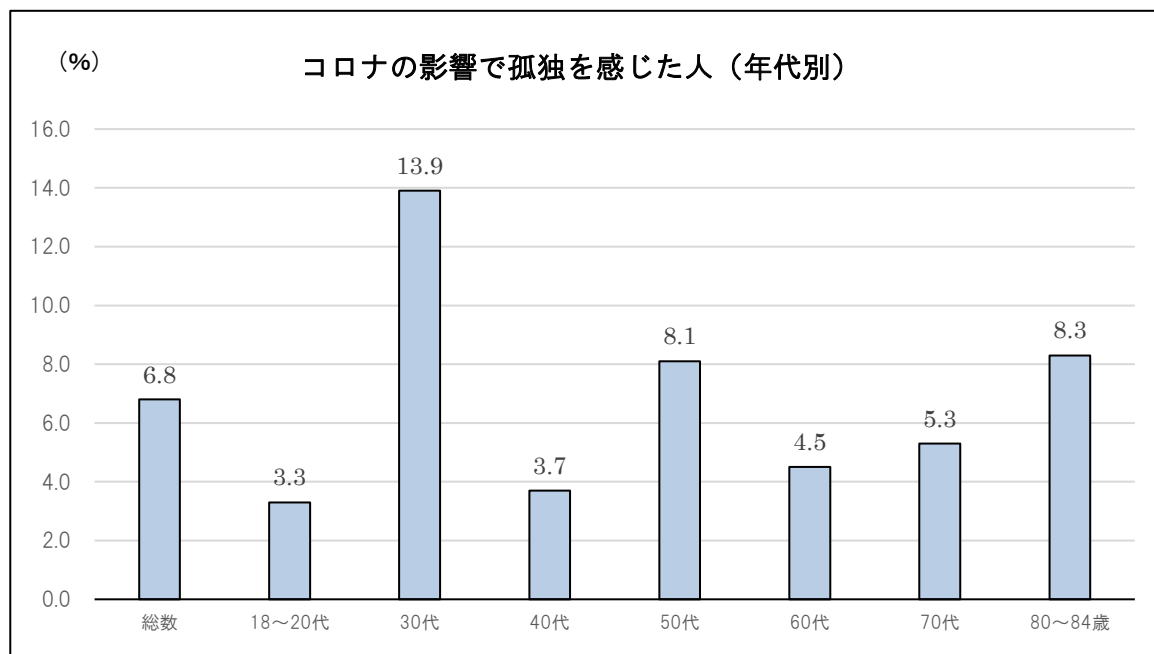
③ コロナの影響

＜要約＞コロナの影響で「体力が落ちた」「孤独を感じた」と回答した人の割合が高く、「孤独を感じた」人は30代の割合が高い

新型コロナウイルス感染症による影響で「人と会って話す時間が減って、孤独を感じた」「体を動かす機会が減って体力が落ちた」と回答した人が多く、孤独を感じた人は30代の割合が一番高くなっています。



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート



資料：令和5年度健康づくりに関するアンケート

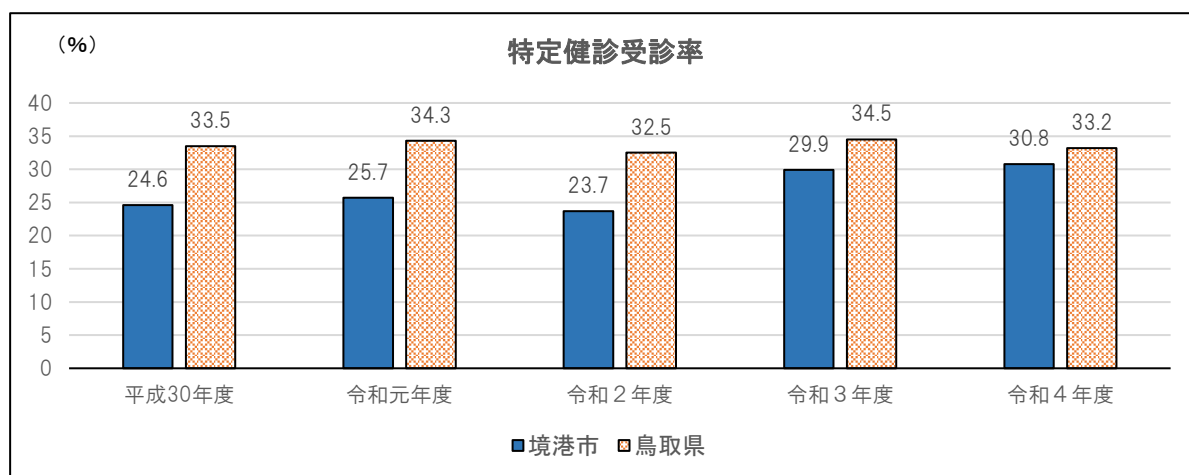
(7) 疾病の発症・重症化予防

- ＜要約＞ ・脳血管疾患や虚血性心疾患を発症した人の生活習慣をみると、共通して高血圧がある人の割合が高い
- ・健診結果で有所見（血圧・血糖等）者が増加、特に収縮期血圧は受診者の半数以上が有所見者。また、血圧に所見がある者は、ほとんどの年代において、県と比較し高く、特に40歳代男性が県に比べて高い
- ・特定健診の受診率は、3割を超え上昇傾向ではあるものの県平均には達していない。

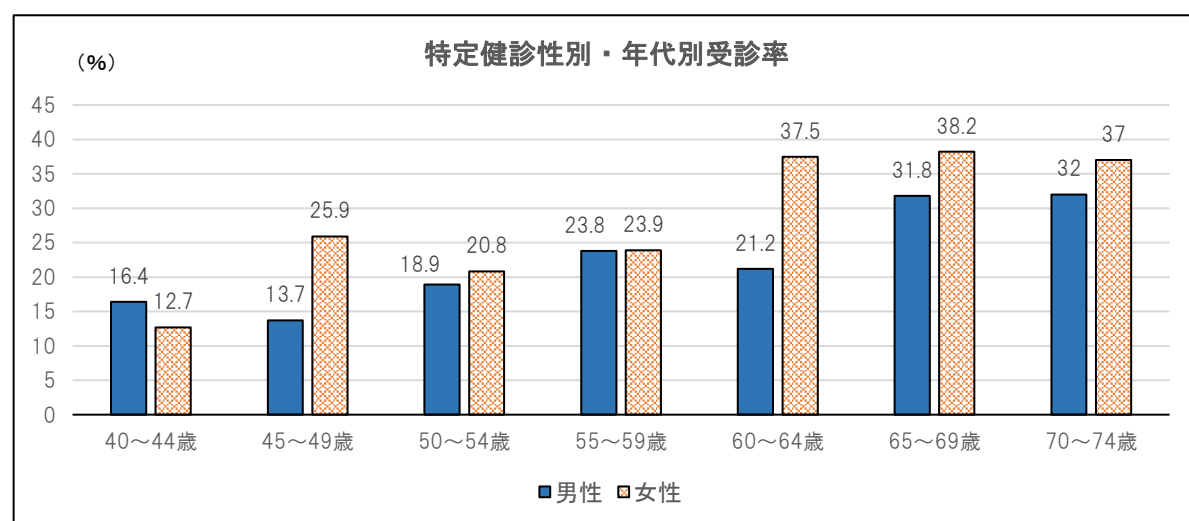
生活習慣病

① 特定健診（国民健康保険における受診者）の受診状況について

特定健診の受診者数は増加傾向となっていますが、県よりも低い状況が続いています。若い年代ほど受診率は低くなっています。



資料：KDBシステム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

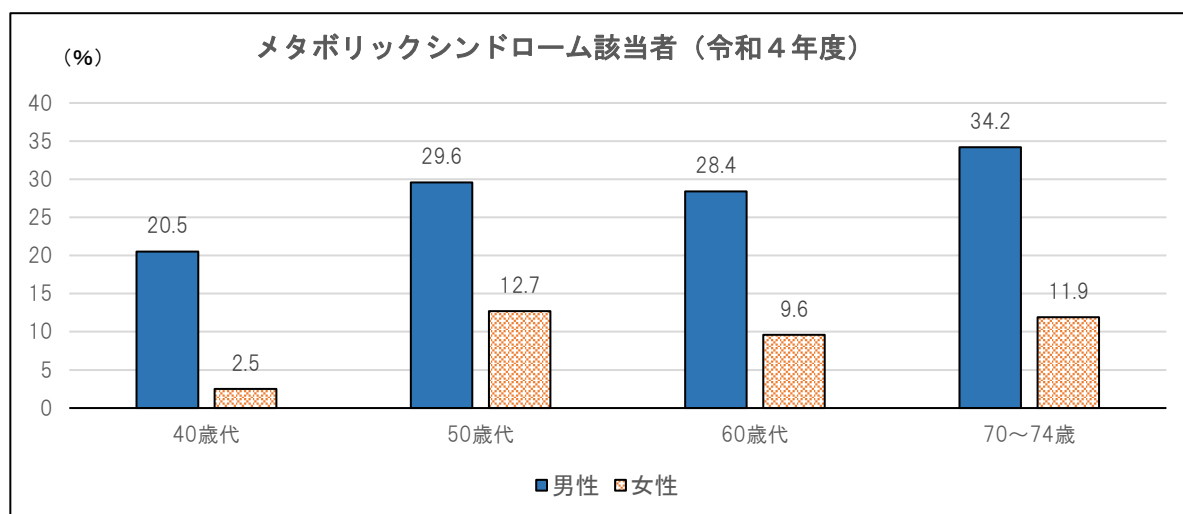


資料：KDBシステム「厚生労働省様式（様式5-4）」

② メタボリックシンドロームおよび特定健診有所見者の状況について

◆メタボリックシンドロームの状況

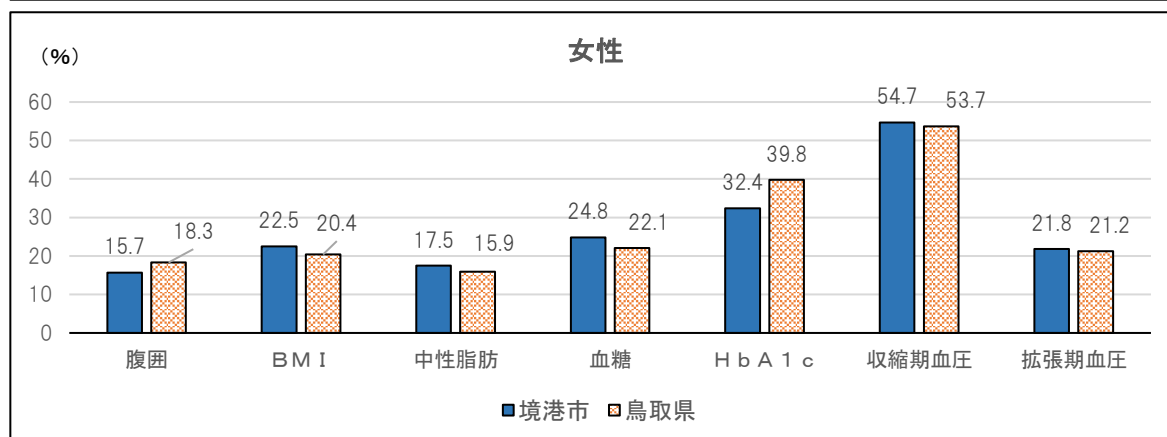
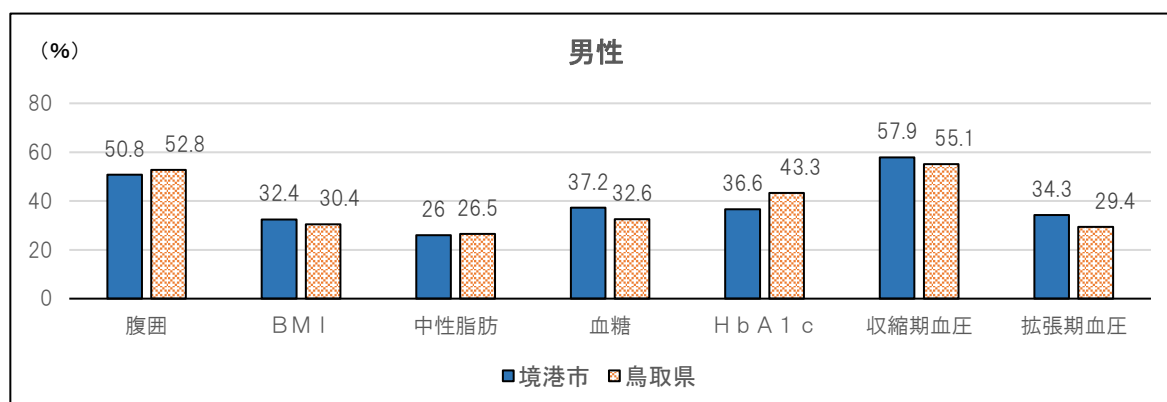
特定健診結果をみると、メタボリックシンドロームは特に男性では年代が上がるにつれて該当者の割合が高くなっています。



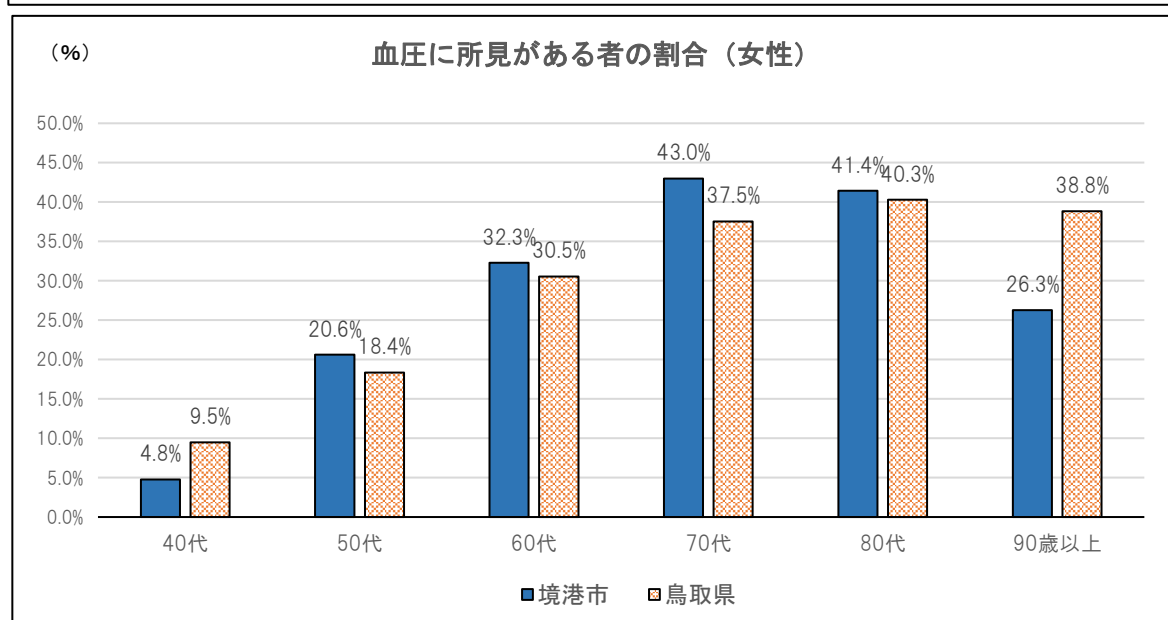
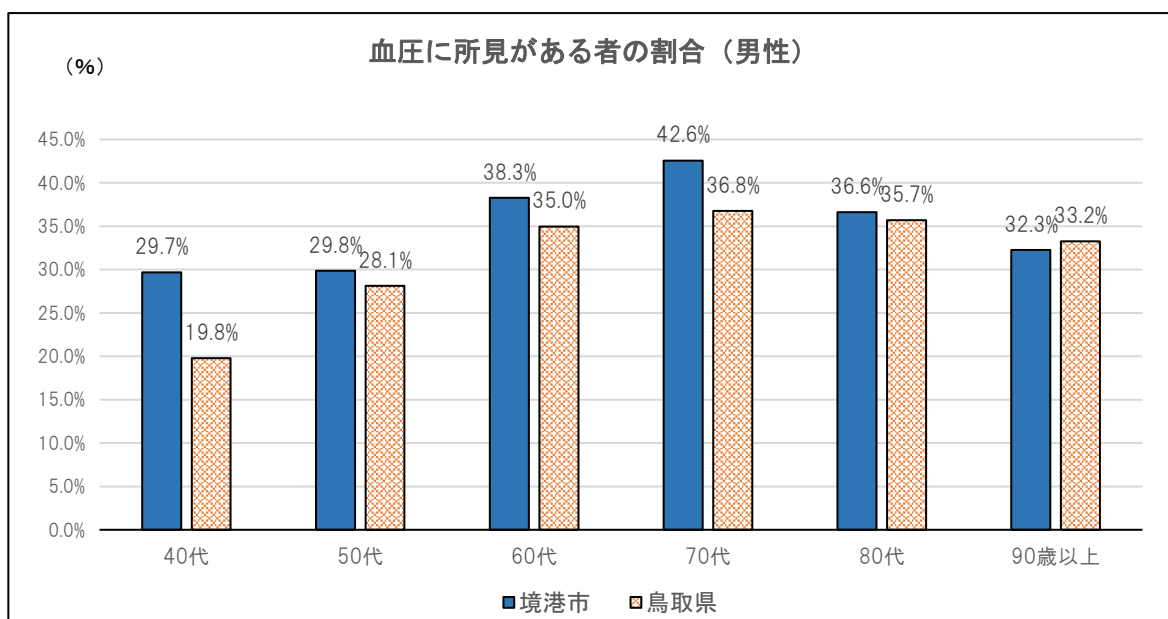
資料：KDBシステム 厚生労働省様式（様式6－8） 令和4年度累計

◆所見がある者の状況

有所見者の割合が県より高い項目は、男性は BMI、血糖、収縮期血圧、拡張期血圧で、女性では BMI、中性脂肪、血糖、収縮期血圧、拡張期血圧となっています。収縮期血圧は受診者の半数以上が有所見者となっています。



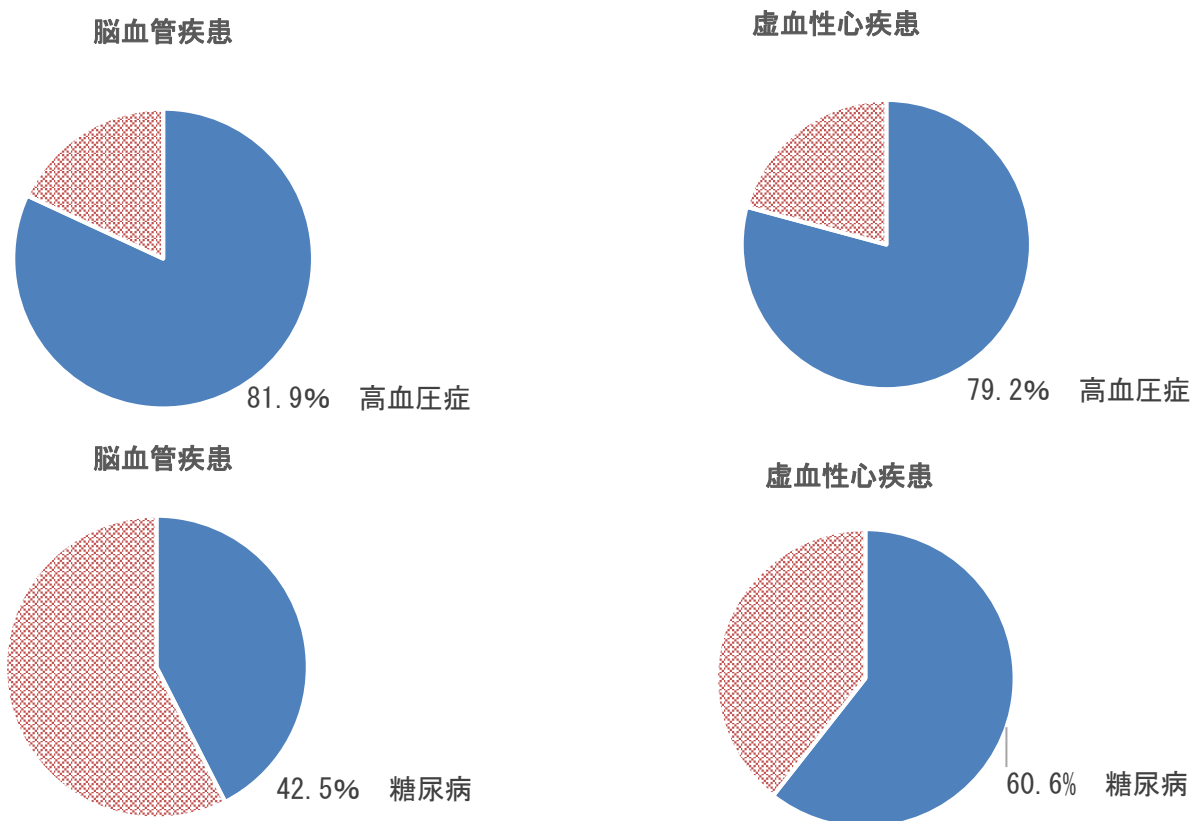
資料：KDBシステム厚生労働省様式（様式5－2）健診有所見者状況（男女別・年代別）



資料：KDBシステム厚生労働省様式（様式5-2）健診有所見者状況（男女別・年代別）

③ 脳血管疾患、虚血性心疾患の生活習慣病の重なりについて

国民健康保険被保険者の生活習慣病の状況において、脳血管疾患、虚血性心疾患を発症した人では、共通して高血圧を持っている人の割合が高くなっています。



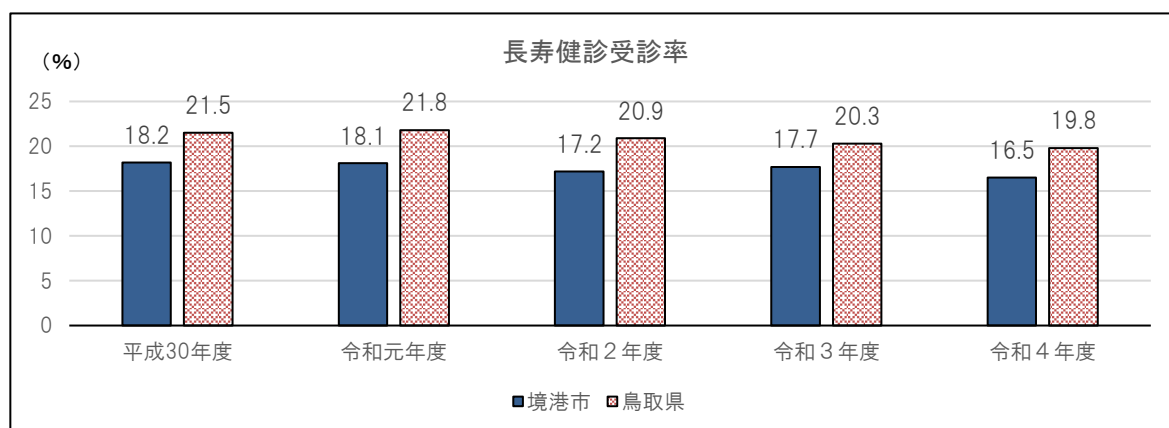
資料：KDB システム「厚生労働省様式3-1～3-7（毎年度5月診療分）」

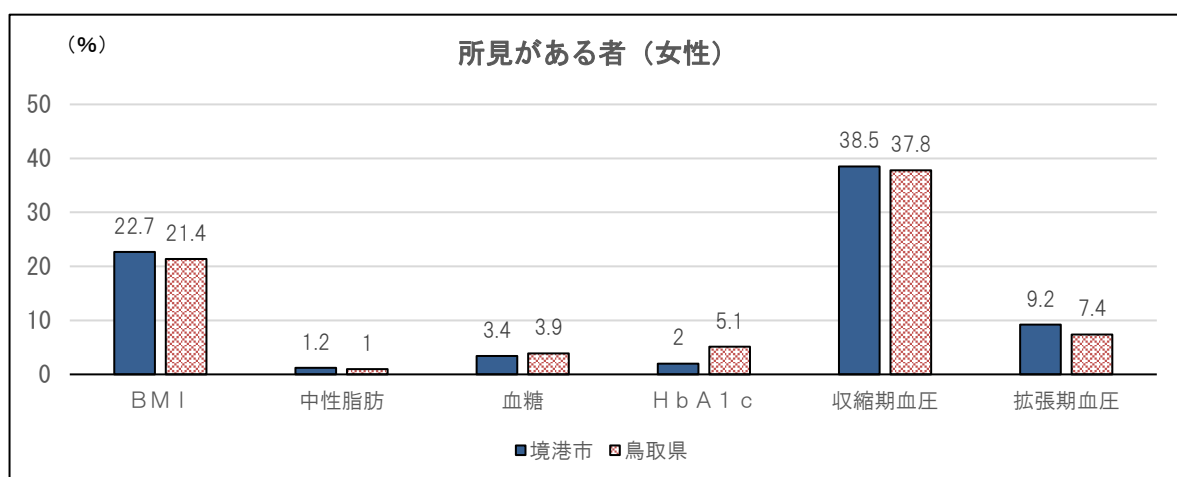
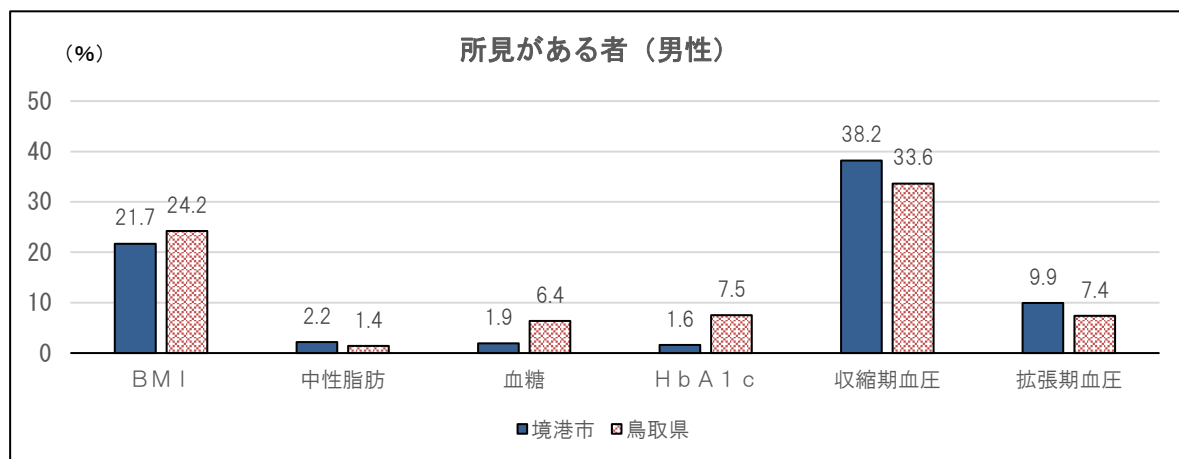
第3期境港市データヘルス計画・第4期境港市特定健康診査等実施計画

④ 長寿健診の状況について

- <要約>
- ・長寿健診受診率は県より低い
 - ・健診結果で有所見（血圧等）者が県より多く、増加

県と比較して受診率は低く2割を下回っています。長寿健診結果をみると、収縮期血圧は、受診者の約4割が有所見者となっており、県より高くなっています。





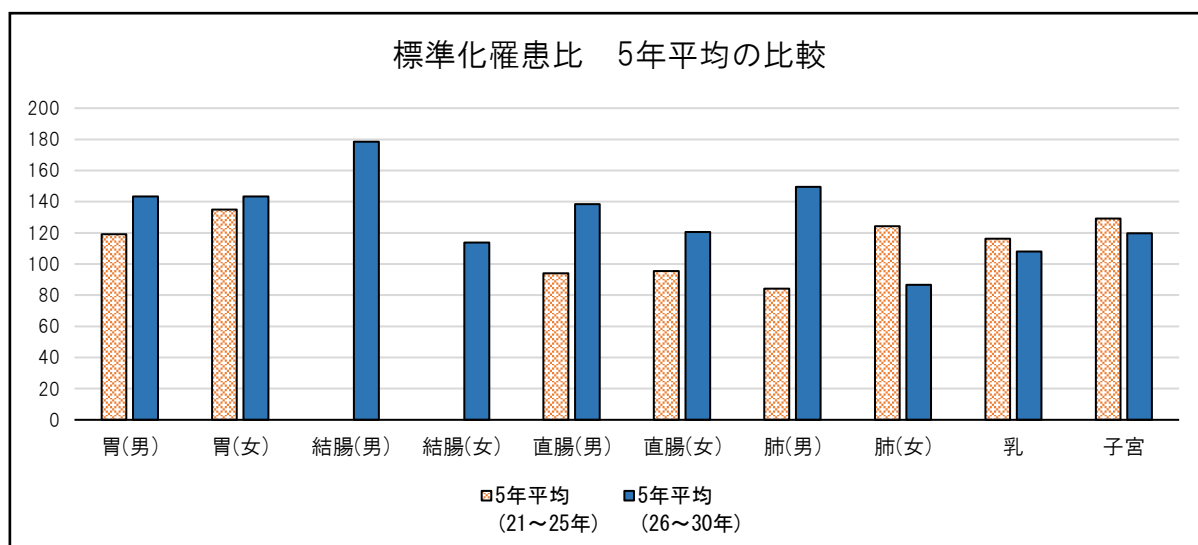
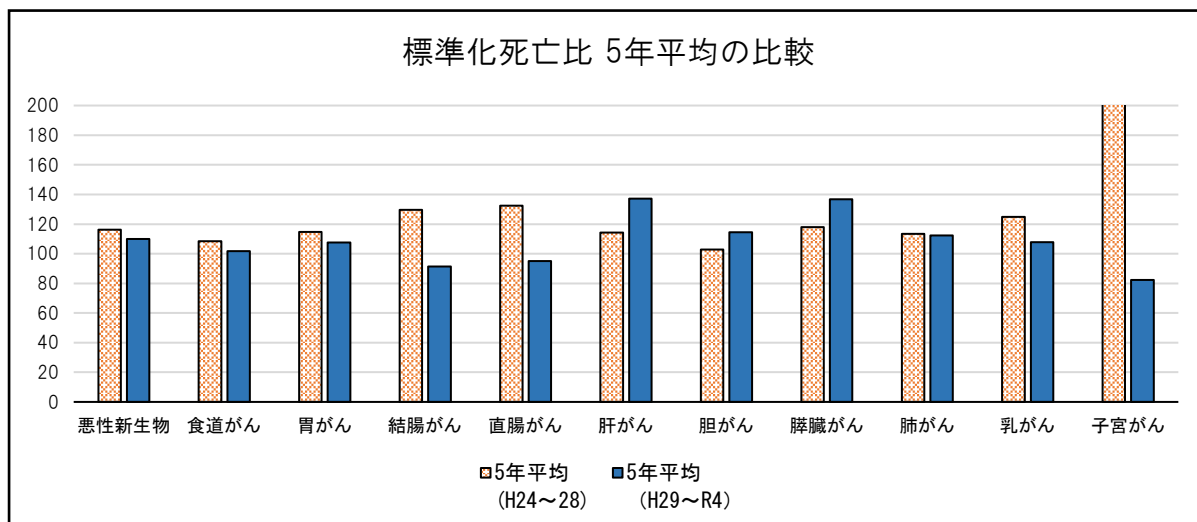
資料：KDBシステム厚生労働省様式（様式5－2）健診有所見者状況（男女別・年代別）

悪性新生物（がん）

⑤ がん検診の状況について

◆悪性新生物の標準化死亡比と標準化罹患比（部位別、男女別）

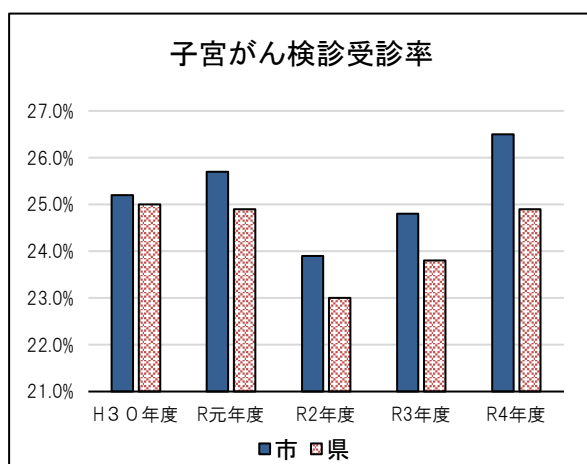
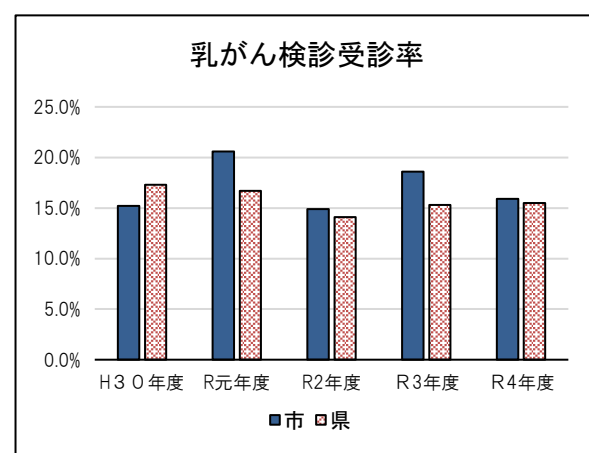
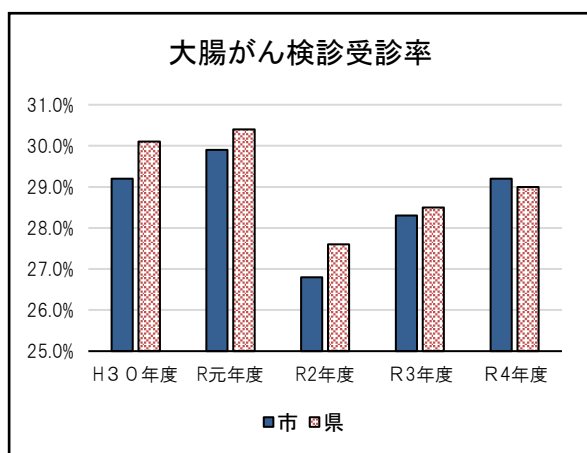
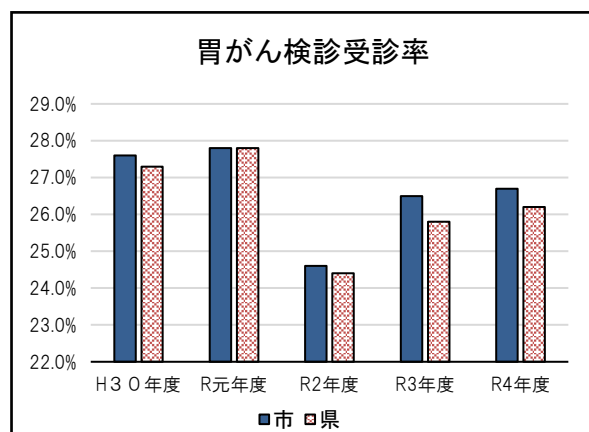
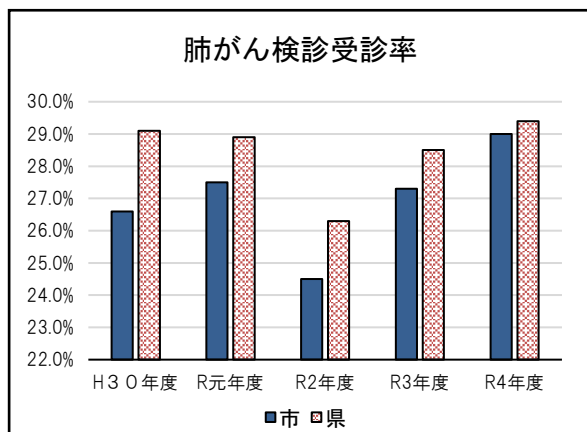
悪性新生物の標準化死亡比は5年平均値男女ともに減少傾向ですが、すべての部位で100を超えています（※国の平均を100として、100以上の場合は平均より死亡率が高いことを意味する）。



資料：鳥取県がん登録事業報告書、鳥取県福祉保健課

◆がん検診受診率 県との比較

令和2年度に新型コロナウイルス感染症の流行に伴い受診控えがあり、受診率は低下しましたが、徐々に回復し、令和4年度には肺がん検診を除く検診で県平均受診率を上回っています。



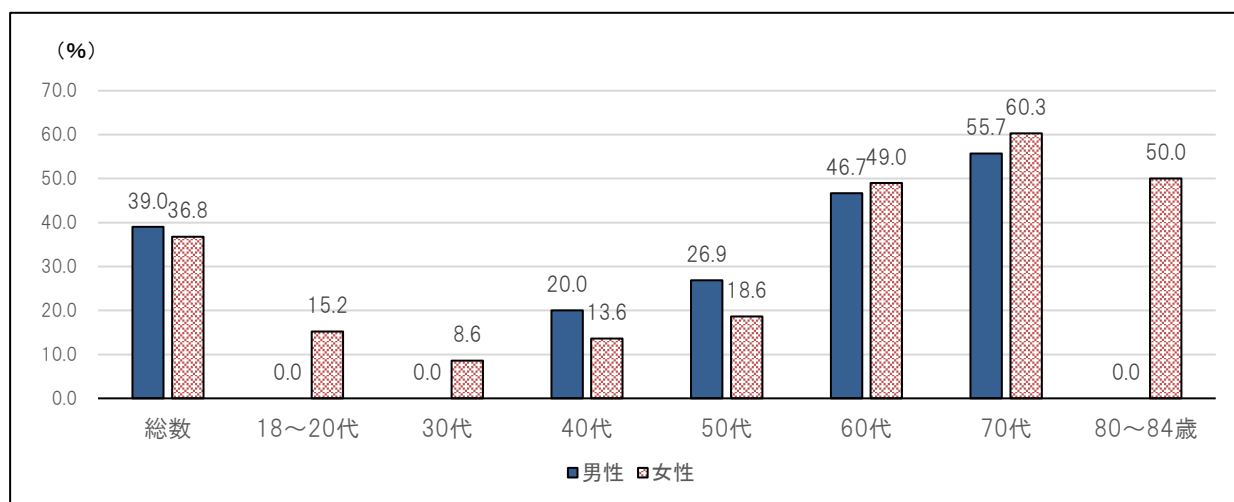
資料：鳥取県がん登録事業報告書、鳥取県福祉保健課

⑥ 健康に対する意識や取り組み状況について

- ＜要約＞ ・「普段から意識して血圧測定を行っている」と答えた人は全体の3割強、40・50代では男性が多く、60・70代では女性が多い
- ・「適正体重を知っている」と答えた人は全体で約6割、30代男性で特に多い

◆普段から意識して血圧測定を行っている人の割合

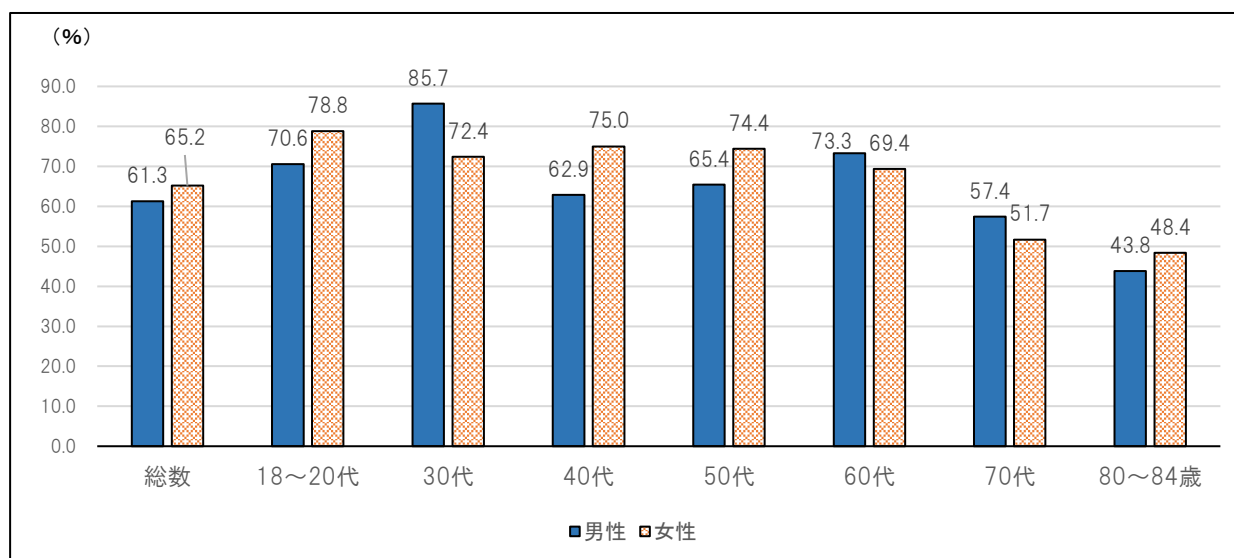
「普段から意識して血圧測定を行っている」と答えた人は全体の3割強、40・50代では男性が多く、60・70代では女性が多くなっています。なお、18～20代、30代、80～84歳の男性は0%となっています。



資料：令和5年健康づくりに関するアンケート

◆自分の適性体重を知っている人の割合

「自分の適性体重を知っている」人は、全体で約6割、30代男性は約8割で特に多い



資料：令和5年健康づくりに関するアンケート

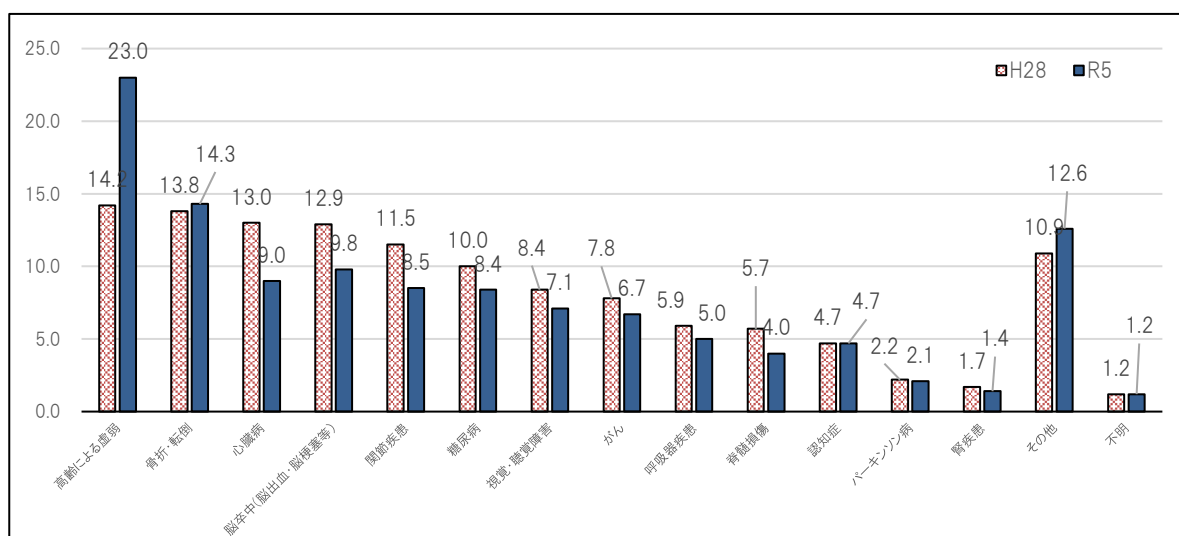
骨折・転倒

<要約>

- ・介護・介助が必要になった主な原因は骨折転倒の割合が増加
- ・骨密度検査受診率は上昇傾向
- ・骨密度検査の精密検査割合は、約3割となっている。60代の精密検査受診者の結果は8割が骨粗しょう症の診断となっている
- ・精密検査受診割合は、6割と目標値には達していない

① 介護・介助が必要になった主な原因（H28比較）

介護・介助が必要になった主な原因のなかで、骨折・転倒の割合はH28年と比較して増加しています。



資料：第9期高齢者福祉計画、介護保険事業計画

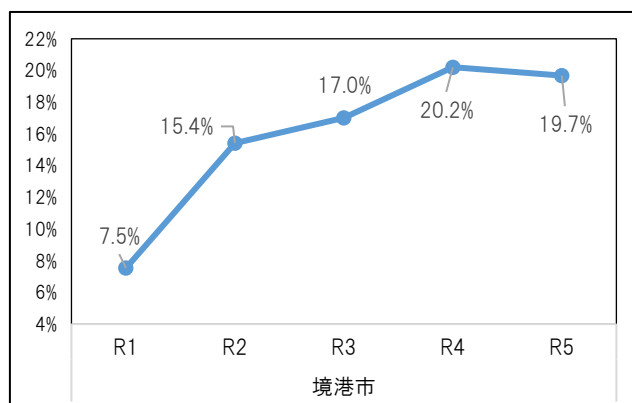
② 骨密度検査の状況

◆骨密度検査受診率

骨密度検査の受診率は増加傾向です。

			(人)
	受診率	対象者数	受診者数
R1	7.5%	1,646	124
R2	15.4%	1,550	239
R3	17.0%	1,441	245
R4	20.2%	1,539	311
R5	19.7%	1,459	287

※デキサ法による骨密度検査はR2から開始

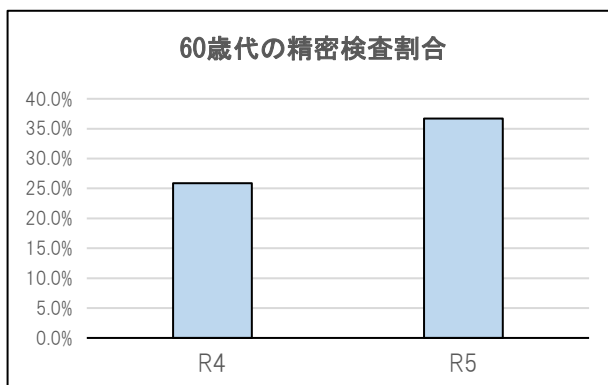


◆骨密度検査精密検査割合

骨密度検査の精密検査の割合は約3割となっています。

	精密検査割合
R4	30.6%
R5	36.6%

※R4 から精密検査基準値を変更したため
R4,R5 で比較



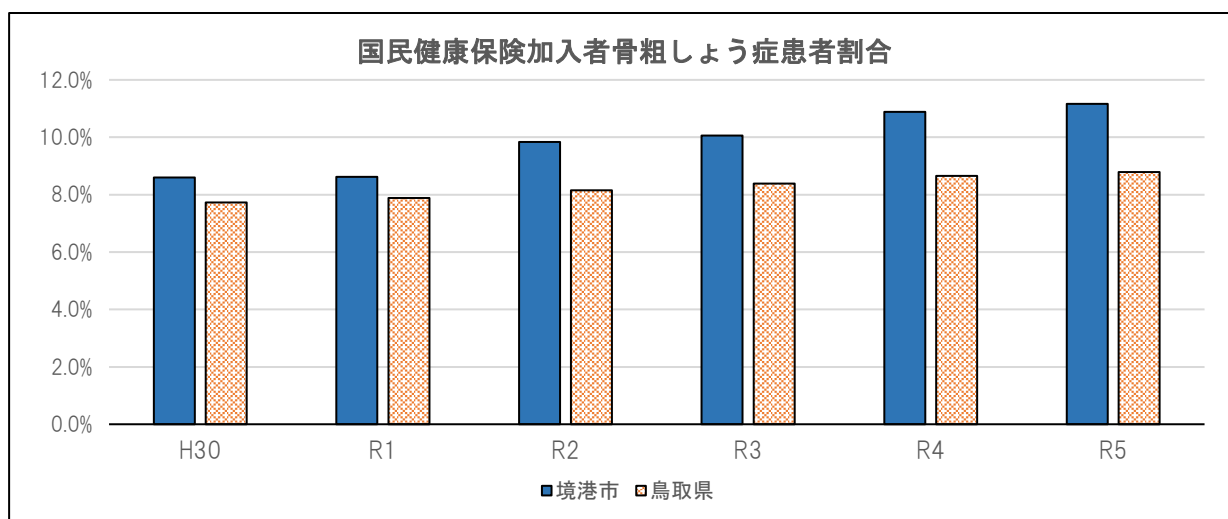
◆60代の精密検査診断結果のうち骨粗しょう症と診断された割合

60代における精密検査受診者の結果では、骨粗しょう症と診断された方の割合は約8割となっています。

R4	85.7%
R5	86.2%

◆国民健康保険加入者の骨粗しょう症患者割合

国民健康保険加入者における骨粗しょう症の患者割合は増加傾向です。



資料：鳥取県国保連合会健康プラス

※骨密度検査開始令和元年度から（デキサ法は令和2年度から）

※参考【日本の骨粗しょう症有病割合】

40歳以上 腰椎（男性 3.4%・女性 19.2%）、大腿骨頸部（男性 12.4%・女性 26.5%）